

吹上村 圀遺跡

－福岡県小郡市吹上所在遺跡の調査報告－

小郡市文化財調査報告書第319集

2018

小郡市教育委員会

吹上村 圀遺跡

－福岡県小郡市吹上所在遺跡の調査報告－

小郡市文化財調査報告書第319集

2018

小郡市教育委員会

序 文

本書は、小郡市吹上における市道建設に先立って小郡市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書です。本遺跡が所在する小郡市北東部の吹上は、標高 130.6 m の花立山から南西に緩やかに延びる低位段丘の西端部に当たります。調査区の近隣には中世の城館である「吹上城」が存在しますが、これまで周辺ではほとんど発掘調査が行われることはありませんでした。しかし、なだらかに広がる丘陵上は古くから格好の生活域であると考えられてきており、今回改めてその実情が把握できたこととなります。

今回の調査の中心となるのは弥生時代前期の集落です。密度が非常に高いことに加え、遺構の残存状況が良く、小郡市の弥生集落に貴重な一例を加えることになりました。また、数は少ないものの中世の遺構も確認され、特に丘陵西端の段丘崖と考えられていた地形が、盛土によって成形されていることを把握できたことは、非常に重要な調査成果となりました。今回得られた内容が今後永く活用され、この報告書が文化財愛護思想の普及に寄与することになれば幸いです。

最後に、現地発掘調査にご理解とご協力をいただいた周辺住民のみなさま、そして現地作業にあたった地元作業員の皆様など、発掘調査を進める際にお世話になった多くの方々に感謝を申し上げ、序文といたします。

平成 30 年 3 月 30 日

小郡市教育委員会
教育長 清武 輝

例 言

1. 本書は、小郡市吹上地内における市道の建設事業に伴って、小郡市教育委員会が平成 28 年度に実施した埋蔵文化財発掘調査の記録である。
2. 発掘調査は、小郡市役所都市建設部建設管理課との協議により、小郡市教育委員会が行った。
3. 遺構の写真撮影は杉本岳史が行った。
4. 遺構実測、遺物の復元・実測・製図には、担当者の他に西江幸子、久住愛子、佐々木智子、宮崎美穂子、永富加奈子、山川清日、牛原真弓、林知恵ら諸氏に多大なる協力を得た。
5. 遺物の写真撮影は（有）システム・レコに委託した。
6. 遺構図中の方位は座標北を示し、図上の座標は国土調査法第Ⅱ座標系に則っている。
7. 遺物・実測図・写真は小郡市埋蔵文化財調査センターにて管理・保管している。
8. 本書執筆及び編集は杉本が担当した。

本文目次

第1章 調査の経過と組織	1
1. 調査に至る経緯	1
2. 調査の経過	1
3. 調査組織	1
第2章 位置と環境	1
第3章 遺構と遺物	4
1. 弥生時代の遺構と遺物	4
(1) 住居跡	4
(2) 土坑	4
(3) ピット・表採	27
2. 中世の遺構と遺物	35
(1) 土坑	35
(2) 溝状遺構	36
(3) 調査区西部盛土状遺構	39
第4章 まとめ	40
出土遺物観察表	41
写真図版	

挿図目次

第1図 吹上村囲遺跡 調査地点位置図(S=1/5,000)	2
第2図 吹上村囲遺跡周辺の主要遺跡分布図(S=1/50,000)	2
第3図 吹上村囲遺跡全体図(S=1/100)	3
第4図 1・2号住居跡実測図(S=1/60)	5
第5図 1～4号土坑実測図(S=1/60)	6
第6図 2号住居跡、1・2号土坑出土土器実測図(S=1/4)	7
第7図 3・4号土坑出土土器実測図(S=1/4)	8
第8図 5・7～9号土坑実測図(5号はS=1/40、その他はS=1/60)	10
第9図 5号土坑出土土器実測図①(1・2はS=1/6、その他はS=1/4)	11
第10図 5号土坑出土土器実測図②(S=1/4)	12
第11図 5号土坑出土土器実測図③(S=1/4)	13
第12図 7～9号土坑出土土器実測図(S=1/4)	14
第13図 10・13号土坑実測図(S=1/60)	16
第14図 10号土坑出土土器実測図①(1～3はS=1/6、その他はS=1/4)	17
第15図 10号土坑出土土器実測図②(S=1/4)	18
第16図 10号土坑出土土器実測図③(S=1/4)	19
第17図 10号土坑出土土器実測図④(1はS=1/6、その他はS=1/4)	20
第18図 11・12号土坑実測図(S=1/60)	21
第19図 11号土坑出土土器実測図①(1はS=1/8、その他はS=1/4)	22
第20図 11号土坑出土土器実測図②(S=1/4)	23
第21図 12号土坑出土土器実測図①(5・6はS=1/4、その他はS=1/6)	24
第22図 12号土坑出土土器実測図②(3はS=1/6、その他はS=1/4)	25
第23図 12号土坑出土土器実測図③(6はS=1/6、その他はS=1/4)	26
第24図 14～16号土坑実測図(S=1/60)	28

第25図	13号土坑出土土器実測図(S=1/4)	29
第26図	13～16・18号土坑及びピット出土土器実測図(9はS=1/6、その他はS=1/4)	30
第27図	出土石器実測図①(1はS=1/1、その他はS=1/2)	31
第28図	出土石器実測図②(S=1/3)	32
第29図	出土石器実測図③(S=1/4)	33
第30図	出土石器実測図④(S=1/3)	34
第31図	出土土製品実測図(S=1/2)	35
第32図	6号土坑実測図(S=1/40)	35
第33図	1～3号溝状遺構実測図(S=1/40)	36
第34図	6号土坑・1号溝状遺構・南壁土層中出土土器実測図(S=1/4)	37
第35図	南壁土層断面図実測図(S=1/120)	38
第36図	出土土製品・鉄製品実測図(1・2はS=1/4、3・4はS=1/2)	39
第37図	弥生時代の遺構変遷図	40

表目次

表1 吹上村囲遺跡 出土遺物観察表	41
-------------------	----

図版目次

図版1 ①遺跡遠景(西から)	②遺跡近景(上空から)
図版2 ①遺跡近景(北西から)	②遺跡近景(南西から)
図版3 ①1号住居跡完掘(東から)	②2号住居跡・10号土坑完掘(南西から)
③1号土坑完掘(北から)	④2号土坑完掘(南東から)
⑤3号土坑完掘(西から)	⑥4号土坑完掘(南東から)
⑦5号土坑遺物出土状況(南東から)	⑧6号土坑完掘(西から)
図版4 ①7号土坑完掘(南から)	②8号土坑土層(西から)
③8号土坑完掘(西から)	④9号土坑土層(北西から)
⑤9号土坑完掘(北西から)	⑥10号土坑土層(南西から)
⑦11号土坑土層(南から)	⑧11・12号土坑完掘(南から)
図版5 ①13号土坑完掘(西から)	②14号土坑完掘(東から)
③15号土坑完掘(北から)	④16号土坑完掘(北西から)
⑤1・2号溝状遺構完掘(南西から)	⑥3号溝状遺構完掘(北から)
⑦調査区西部土層断面(北東から)	⑧調査風景
図版6 出土土器	
図版7 出土土器	
図版8 出土土器	
図版9 出土土器・石器等	
図版10 出土土製品、中世の遺物、鉄製品	

第1章 調査の経過と組織

1. 調査に至る経緯

今回の開発事業に関する当該地の事前審査は、平成28年9月5日付で「埋蔵文化財の有無について（照会）」（事前審査番号16076）の申請が、小郡市長 平安正知 の名で提出されたことに始まる。これを受けて小郡市教育委員会は試掘調査を実施し、掘削予定範囲804㎡に遺跡が存在することを確認した。当事業は市道建設に伴う緊急なものであったため、協議の後すぐに平成28年9月8日付で発掘調査に着手した。

2. 調査の経過

調査の対象としたのは、道路建設に伴って削平される804㎡である。現地調査は平成28年9月8日に着手し、平成28年10月13日に終了した。調査の主な経過は以下の通りである。

- 平成28年9月8日：調査着手。表土剥ぎは試掘調査時に実施したため、遺構検出・掘削に入る。
- 9月13日：調査区西側南壁の清掃作業開始。
- 9月14日：遺構の写真撮影開始。
- 9月16日：立石小学校6年生の遺跡見学。
- 9月20日：台風により壁面崩落があり、復旧を行う。
- 9月27日：調査区西側南壁の土層実測終了。
- 10月5日：午前中は台風で作業中止。午後から遺跡の清掃作業。
- 10月6日：空中写真撮影実施。
- 10月13日：実測・測量終了。道具撤収。

3. 調査の組織

平成28・29年度の吹上村囲遺跡発掘調査に関係する組織は以下のとおりである。

【小郡市教育委員会文化財課】

＜平成28年度＞

教育長 清武輝
教育部長 山下博文
文化財課 課長 片岡宏二
係長 柏原孝俊
技師 杉本岳史

＜平成29年度＞

教育長 清武輝
教育部長 山下博文
文化財課 課長 柏原孝俊
係長 杉本岳史

第2章 位置と環境

吹上村囲遺跡(1)は、小郡市吹上819-4、816-4、817-3に位置する。遺跡は宝満川の左岸、小郡市北東部の花立山から南へと延びる低台地の縁辺部に存在し、標高は遺構検出面で約20.6m前後を測る。周辺では、これまでほとんど発掘調査の実績が無く、非常に貴重な調査事例となった。

ここでは、市域北部かつ宝満川左岸の遺跡の状況を確認しておきたい。まず縄文時代の遺跡として挙げられるのが、干潟向畦ヶ浦遺跡(2)である。この遺跡では落とし穴状遺構179基が確認され、その内部や周辺からは縄文時代早期の押型文土器を始めとする多様な縄文土器が出土した。

続く弥生時代になると、井上北内原遺跡(3)が出現する。この遺跡では、弥生時代中期を中心とした住居跡31軒、土坑11基などの集落とともに、同じく中期を中心とした甕棺墓43基、土壙墓9基などの墓地も確認された。干潟下屋敷遺跡(5)では、弥生時代中期初頭から後期初頭の甕棺墓29基、土壙墓7基などが調査された。なお、井上小松山遺跡でも、弥生時代中期の祭祀土坑が見つかってい

る。弥生時代後期の遺跡としては、乙隈天道町遺跡(7)が注目される。この遺跡は県道幅のみの調査であったが、足の踏み場もないような遺構密度であった。計106軒の住居跡が確認され、その中心は弥生時代終末から古墳時代初頭である。この遺跡では中細形銅戈の鋳型が出土し、さらに周辺では昭和36年(1961)に銅戈2口が見つかり、地域の中心集落になることは間違いない。なお、吹上村囲遺跡の北側約200mにある吹上北畠遺跡(8)も弥生時代の遺跡である。昭和55年(1980)にわずかな範囲のみが調査され、弥生時代後期を中心とした土器が出土した。

古墳時代前期には、花立山南西麓に焼ノ峠古墳(9)が出現する。この古墳は全長約40mを測る前方後方墳で、周溝内から二重口縁壺等が出土した。一方、宝満川沿いの河岸段丘上には下鶴古墳(10)が築かれる。主体部の箱式石棺からは、獣形鏡1面、鉄刀1本、鉄鏃5点などが出土した。石棺の石は、現在でも神社境内に見ることができる。

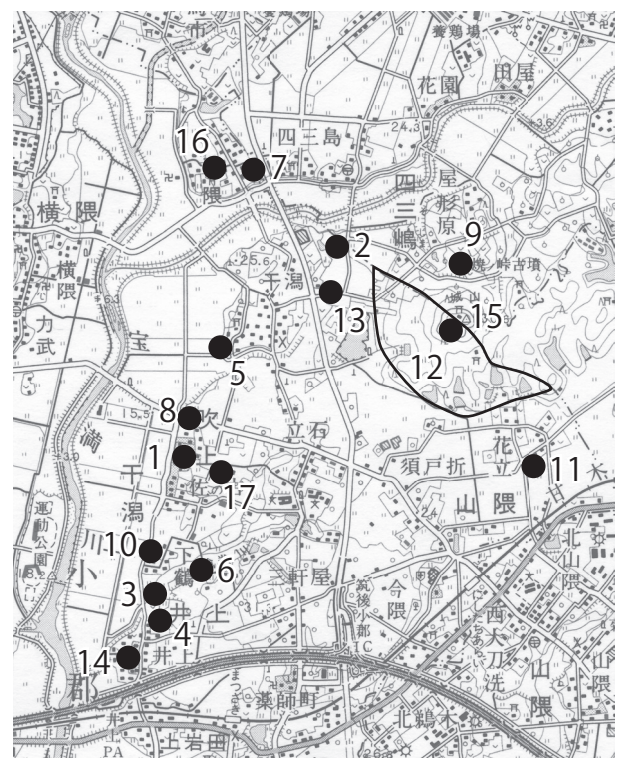
古墳時代後期になると、現在の花立公民館付近に西下野1号墳(11)が築かれる。この古墳は発掘調査が行われていないが、出土した須恵器や埴輪から、6世紀後半の前方後円墳と考えられている。花立山古墳群(12)は県内最大規模の古墳群で、時期は6世紀から8世紀にかけてである。首長墳である花立山穴観音古墳は全長45mを測る前方後円墳で、巨石を用いた大型横穴式石室壁面の6石8か所に線刻が見られる。この古墳群には、10～30mの円墳が300基以上築かれている。また、多くの横穴墓も確認されており、鍛冶道具などの特殊な出土遺物も注目される。

古代の遺跡の枚挙には暇がない。まず、集落遺跡としては、7世紀初頭から8世紀後半に営まれた干潟城山遺跡(13)が挙げられる。この遺跡では100軒以上の住居跡や多くの掘立柱建物が確認されている。これらの遺構からは多くの鉄製品が出土するとともに、オンドル状カマドを持つ住居跡が存在することも注目される。この時期に注目されるのが、井上廃寺(14)の存在である。7世紀末に造られたこの寺院は、南北180m、東西120mの寺域を有し、山田寺系極先瓦などが出土したことは特筆される。

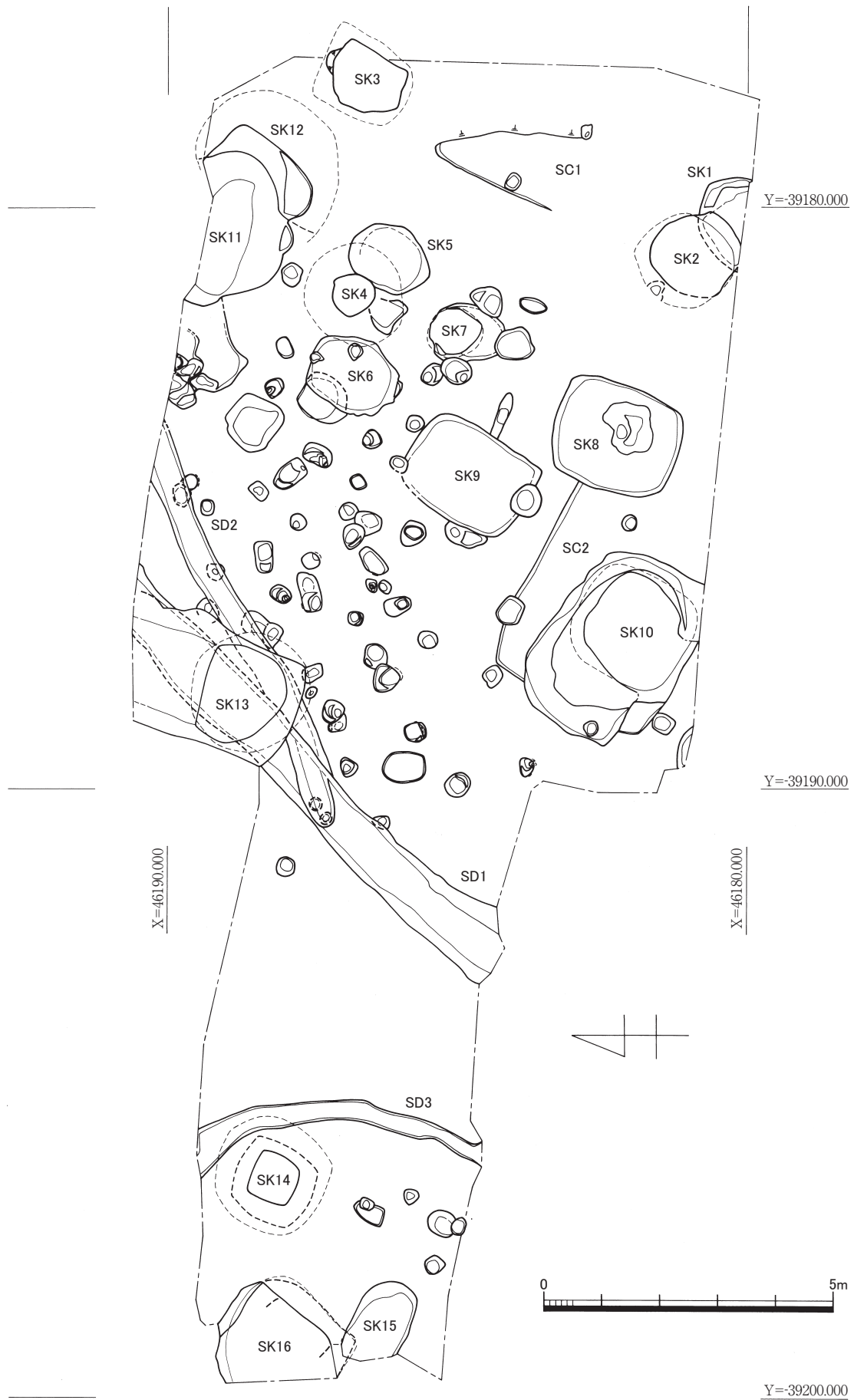
当地域では中世の城館が多く確認されている。まず、花立山の山頂に築かれたのが山隈城(15)である。この城は大保原合戦の際の北朝方の陣となったとの伝承もあり、現在でも本丸、二の丸、三の丸などを確認できる。市域北東端部の丘陵上に位置するのが乙隈城(16)、そして当遺跡の周辺にあるのが吹上城(17)である。これらには濠や土塁などの遺構が残され、「大門」や「上屋敷」といった地名の存在も当時の様相を今に伝えている。



第1図 吹上村囲遺跡 調査地点位置図(S=1/5,000)



第2図 吹上村囲遺跡周辺の主要遺跡分布図(S=1/50,000)



第3図 吹上村圀遺跡全体図(S=1/100)

第3章 遺構と遺物

吹上村囲遺跡で検出した主な遺構は下記の通りである。遺構の主な時代は弥生時代と中世で、弥生時代前期の集落は、遺構の規模・密度とも注目される。出土遺物も非常に多く、宝満川の対岸に存在する三国丘陵上の遺跡群と比較しても遜色ない。なお、当遺跡と同様な平坦地が調査区の南北及び東側に延びることから、遺跡はかなり広範囲に及ぶと考えられる。

中世については、確認できた遺構は少ない。ただし、調査区西側の段丘崖と考えられていた丘陵の落ちが、人為的に造られたものであることが確認でき、吹上城との関連も想定できるという大きな成果を得ることができた。

- 弥生時代 … 住居跡 2軒、土坑 17基
- 中世 … 土坑 1基、溝状遺構 3条、盛土状遺構

1. 弥生時代の遺構と遺物

(1) 住居跡

1号住居跡（第4図、図版3）

調査区の東端部に位置し、標高 20.5 m を測る。遺構は長方形を呈すると考えられるが、残存状況が悪く、全容は不明である。現状で、大きさは南北 2.38 m、東西 1.40 m を測る。一部直線的な壁面が確認できるが、深さは最大 3cm 程度しか残っていない。床面で確認したピット 2 基は小型で、支柱穴ではないと考えられる。弥生土器の小片が出土したが図示していない。

2号住居跡（第4図、図版3）

調査区中央部の南端に位置する。10号土坑に切られると考えられるが、遺構の残存状況が悪く、詳細は不明である。検出面の標高は 20.6 m を測る。遺構は東西方向に長い長方形を呈するが、東辺は削平により残存していない。大きさは、検出面で 3.54 m 以上 × 3.15 m、深さは最大 7cm を測る。床面でピットを 1 基検出したが、支柱穴にはならない。

出土遺物

土器（第6図）

第6図1は甕の口縁部小片、2は壺の口縁部小片である。いずれも詳細は不明。

(2) 土坑

1号土坑（第5図、図版3）

調査区の南東端部付近に位置し、標高 20.5 m を測る。2号土坑を切る。遺構の約 1/2 は南側調査区外に延び、本来平面は楕円形状を呈すると考えられる。大きさは、検出面で 1.58 m × 0.88 m 以上、下端で 1.35 m × 0.72 m 以上、深さは最大 59cm を測る。埋土は全体的にレンズ状の自然堆積である。

出土遺物

土器（第6図）

第6図3～6は甕で、3は復元口径 39.8cm を測る。4・5は小型の甕で、4は復元口径 17.0cm である。5は口縁部まで直線的に立ち上がり、口唇部を外側に摘み出す。7・8は壺で、7は肩部の2条の沈線の上に連続羽状文を施す。

石器（第29図、図版9）

第29図4は砥石で、現状で長さ 8.6cm、幅 10.8cm、厚さ 6.0cm を測る。

2号土坑（第5図、図版3）

調査区の南東端部付近に位置し、標高 20.5 m を測る。1号土坑に切られる。遺構の平面形は隅丸方

形状を呈し、大きさは検出面で1.47 m × 1.46 m、下端で1.58 m × 1.52 mを測る。壁面は内傾して立ち上がり、深さは最大0.90 mである。床面の北西辺中央に小型ピットを1基有する。

出土遺物

土器 (第6図、図版6)

第6図9～13は甕で、9は復元口径20.0cm、器高20.8cmを測る。11は復元口径28.8cmと、やや大型である。14は小型の壺で、復元口径15.0cmを測る。15は鉢で、復元口径23.4cm、器高11.1cmを測る。内面にミガキを施す。16・17は蓋で、いずれも外面はミガキである。

石器 (第28・29図、図版9)

第28図5は磨石で、1/2程度残存している。大きさは現状で幅9.4cmを測る。第29図2は砥石で、長さ26.5cm、幅15.6cm、厚さ13.2cmを測る。

3号土坑 (第5図、図版3)

調査区の東端部に位置し、標高20.5 mを測る。遺構は隅丸長形状を呈し、大きさは検出面で1.24 m × 1.05 m、下端で1.60 m × 1.38 mを測る。壁面は内傾して立ち上がり、深さは最大78cmである。

出土遺物

土器 (第7図)

第7図1～3は甕で、いずれも小型。1は復元口径19.8cmで、口唇部と突帯に刻み目を施す。

石器 (第27図、図版9)

第27図3は太形蛤刃石斧の小片である。

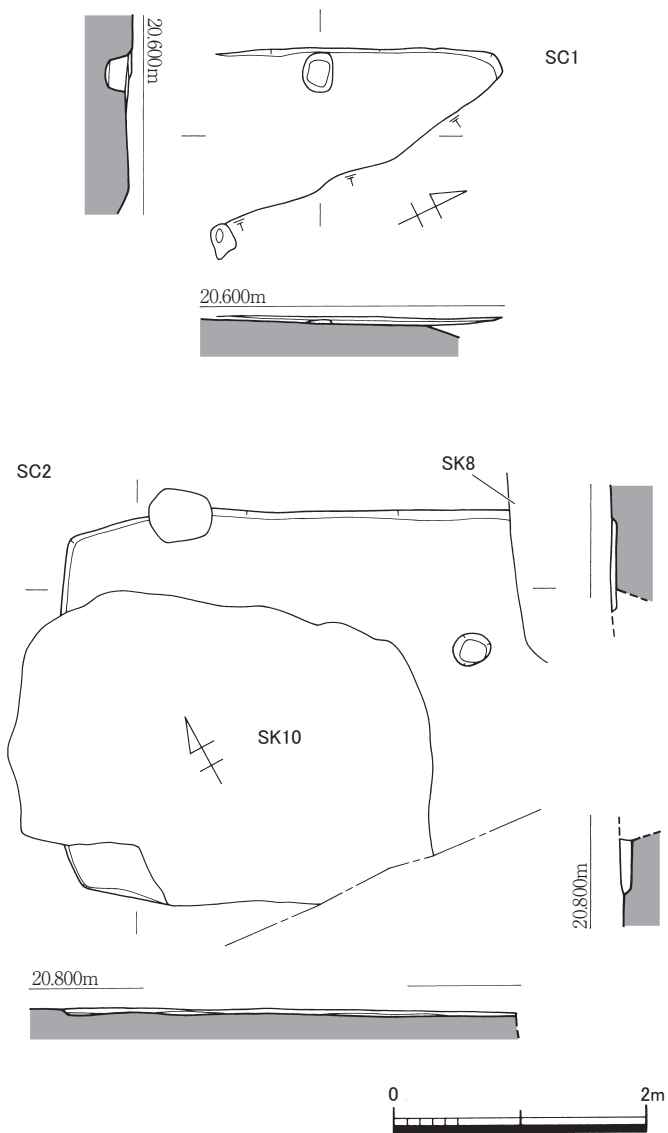
4号土坑 (第6図、図版3)

調査区の北東部に位置し、標高20.6 mを測る。遺構は円形状を呈し、典型的なフラスコ型貯蔵穴と言える。大きさは検出面で0.74 m × 0.71 m、下端で1.82 m × 1.70 mを測る。壁面は大きく内傾して立ち上がり、深さは最大1.47 mである。

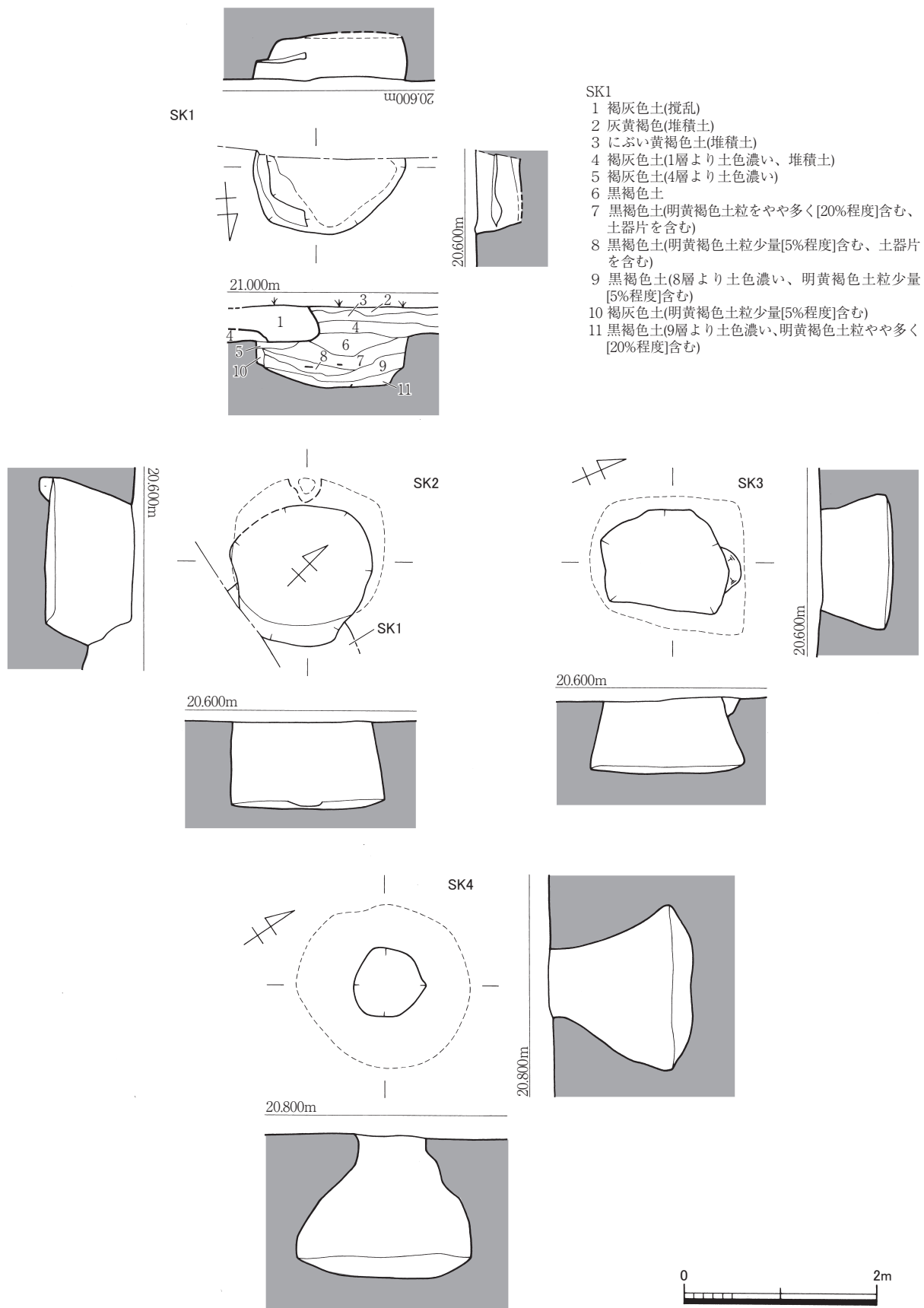
出土遺物

土器 (第7図、図版6)

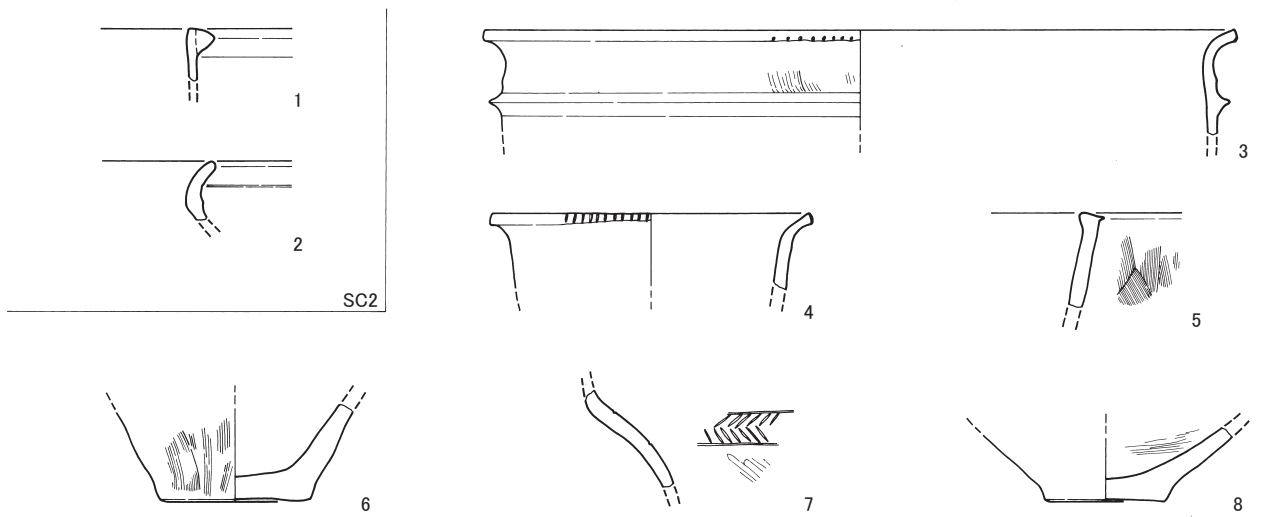
第7図4～7は甕で、4は復元口径24.5cm、器高22.8cmを測る。口唇部と突帯に刻み目を持ち、胴部外面はハケの後にミガキ調整を施す。5は小型の甕で、口径19.9cm、器高18.9cmを測る。8・9は壺で、8は復元口径16.8cmを測る。外面頸部に1条、胴部上位に2条横方向の沈線を施し、その間に4本1組で縦方向の沈線を施す。9はやや長胴状を呈し、復元底径は10.8cmを測る。10は大型の蓋で、復元口径34.9cm、器高16.0cmを測る。



第4図 1・2号住居跡実測図 (S=1/60)

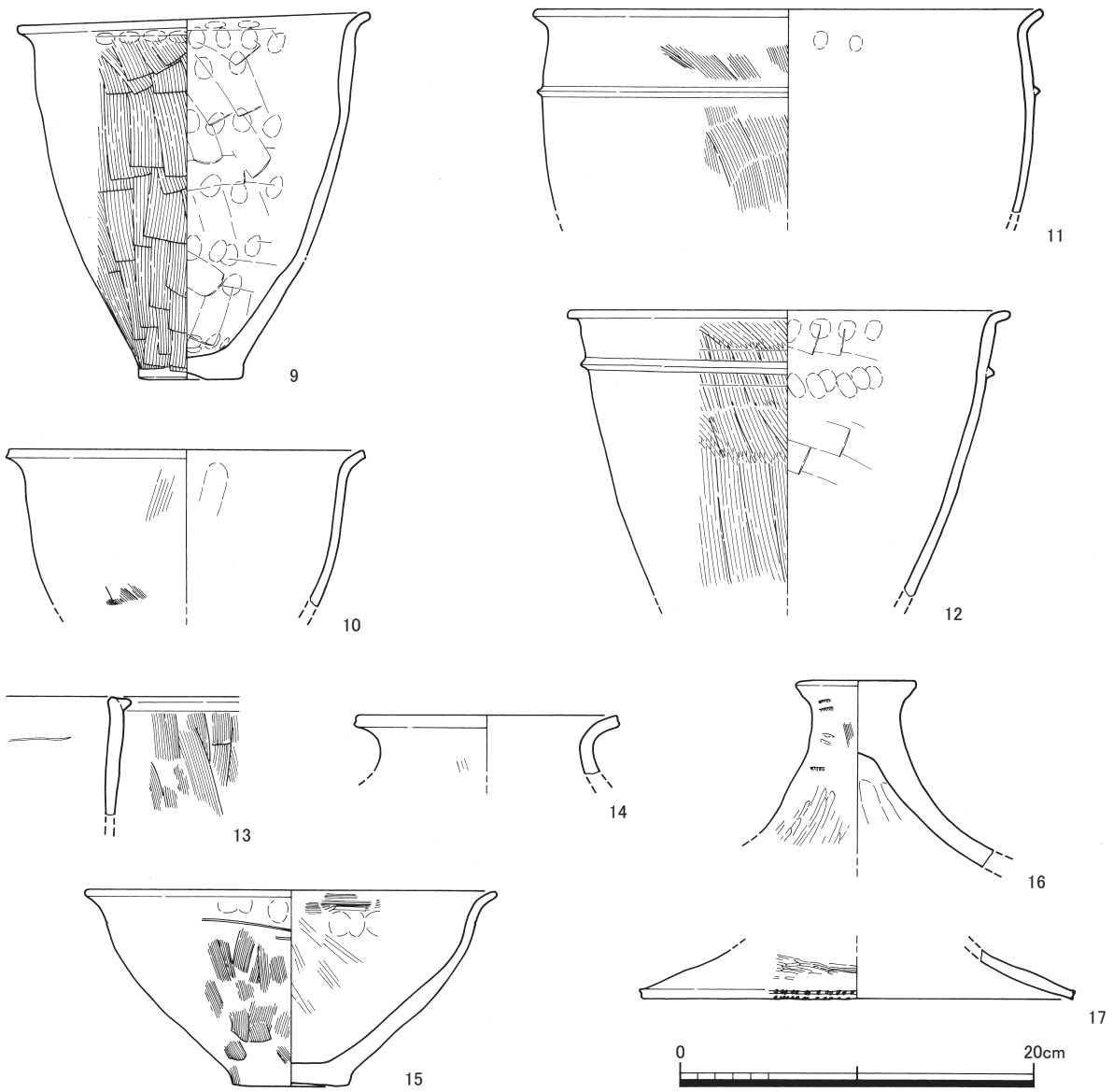


第5図 1～4号土坑実測図 (S=1/60)

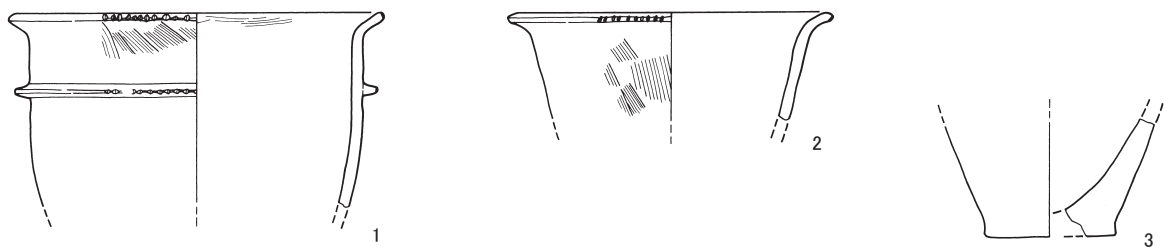


SC2

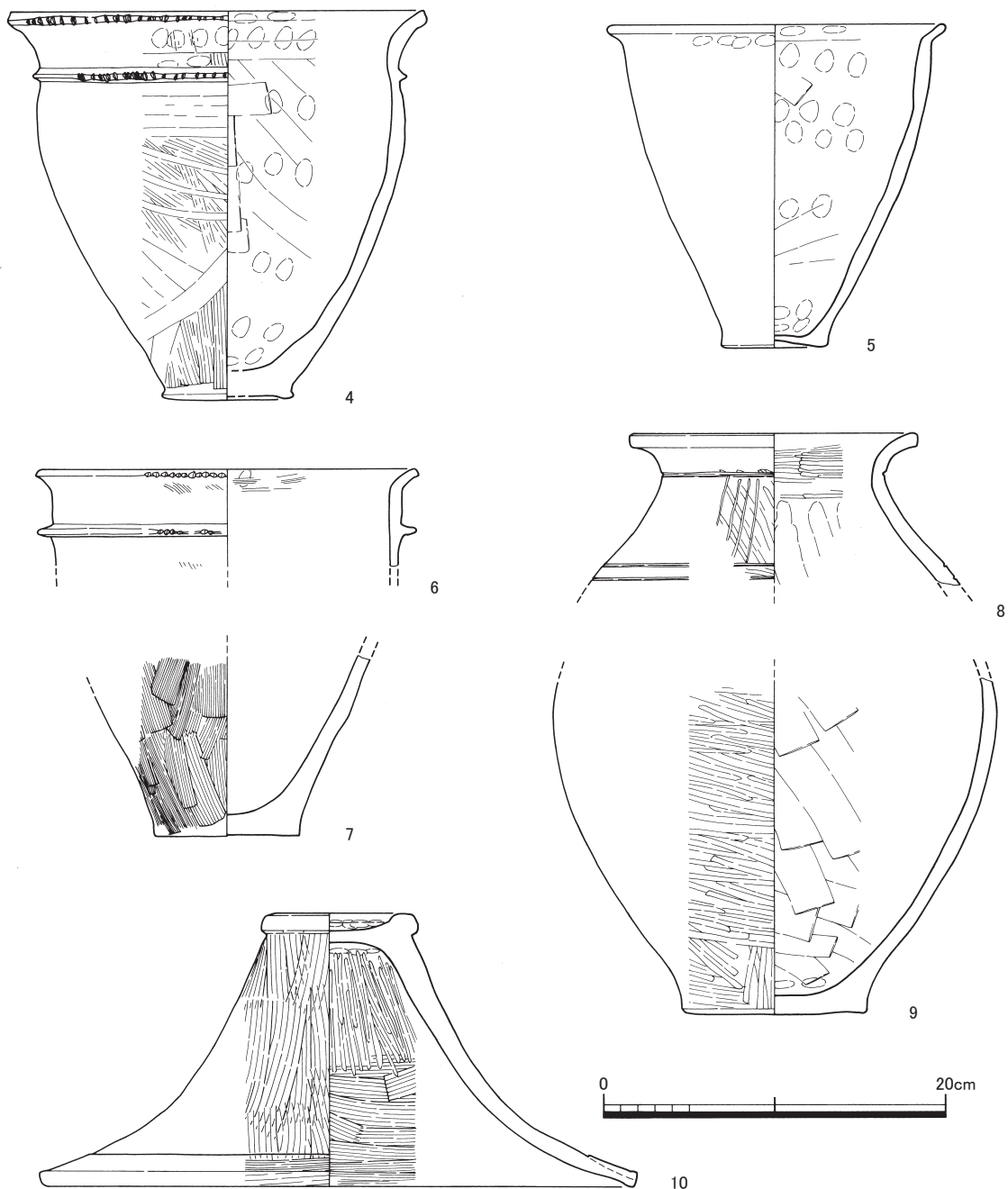
SK1
SK2



第6图 2号住居跡、1・2号土坑出土土器実測図 (S=1/4)



SK3
SK4



第7图 3·4号土坑出土土器实测图 (S=1/4)

5号土坑（第8図、図版3）

調査区の東部に位置し、標高 20.6 mを測る。遺構は楕円形状を呈し、大きさは検出面で 1.45 m× 1.13 m、下端で 1.08 m× 1.01 mを測る。壁面はやや外反して立ち上がり、深さは最大 60cmを測る。小型の廃棄土坑で、埋土中から大量の土器が出土した。

出土遺物

土器（第9～11図、図版6・7）

第9・10図は全て甕で、大きく分けると口径 25～30cm程度の中型のものと、口径 20cm程度の小型のものが多くを占める。形態的には、口縁部が外反し外面口縁部下位に沈線を施すタイプと、口縁部の外側から粘土紐を貼り付けて断面三角形に成形し、底部が厚いタイプが大部分を占める。宝満川左岸の弥生時代中期初頭の甕の状況を表す好事例であると言えよう。外面の調整はいずれもハケだが、第9図2・6などのように上半と下半で異なる工具を使用する例が見られる。

第11図1～3は壺である。1は復元口径 20.0cm、胴部最大径 28.0cm、器高 31.4cmを測る。3は胴部と頸部の境目に突帯を1条有する。4は鉢の小片で、詳細は不明。5は蓋で、復元口径 21.9cm、器高 11.1cmを測る。6～8は支脚で、6・7は中位に穿孔を施す。断面は円形に近く、上下両端に面を持つ。8は断面方形で、被熱による器壁の剥落が著しい。

石器（第27図、図版10）

第27図6は小型の投弾で、長さ 5.5cmを測る。第30図7は砥石である。第31図5～7は土製円盤で、いずれも側面は丁寧に面取りされている。大きさは、3.9～5.6cmである。

7号土坑（第8図、図版4）

調査区の東部に位置し、標高 20.6 mを測る。遺構の上端をピット群に切られる。円形状を呈する小型の貯蔵穴と考えられ、大きさは検出面で 1.30 m× 1.04 m、下端で 0.82 m× 0.87 mを測る。壁面はやや内傾して立ち上がり、深さは最大 1.31 mを測る。出土遺物は極少量である。

出土遺物

土器（第12図）

第12図1は甕口縁部、2は壺口縁部である。いずれも小片のため、詳細は不明である。

8号土坑（第8図、図版4）

調査区の南東部に位置し、標高 20.6 mを測る。遺構は隅丸長形状を呈し、大きさは検出面で 2.21 m× 1.84 m、下端で 2.02 m× 1.74 m、深さは最大 35cmを測る。床面の中央部が一段掘り下げられている。埋土は水平堆積に近い。

出土遺物

土器（第12図）

第12図3・4は甕の口縁部小片である。3は断面三角形、4は外反とつくりは異なる。

9号土坑（第8図、図版4）

調査区の東部に位置し、標高 20.6 mを測る。遺構は隅丸長形状を呈し、大きさは検出面で 2.20 m× 1.62 m、下端で 2.03 m× 1.50 mを測る。遺構の残存状況は悪く、深さは最大 23cm程度である。多くのピットに切られる。埋土は水平堆積に近い。

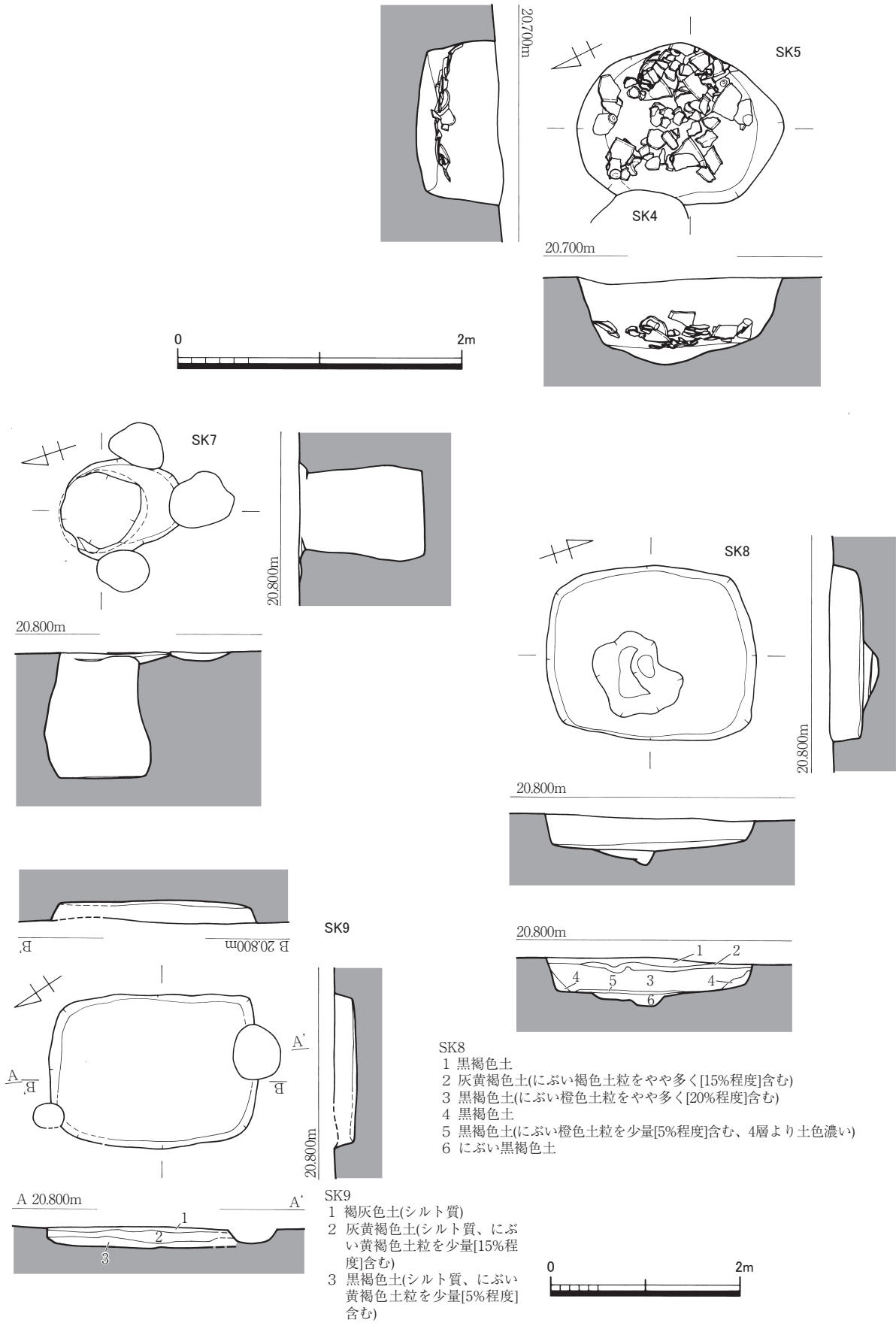
出土遺物

土器（第12図）

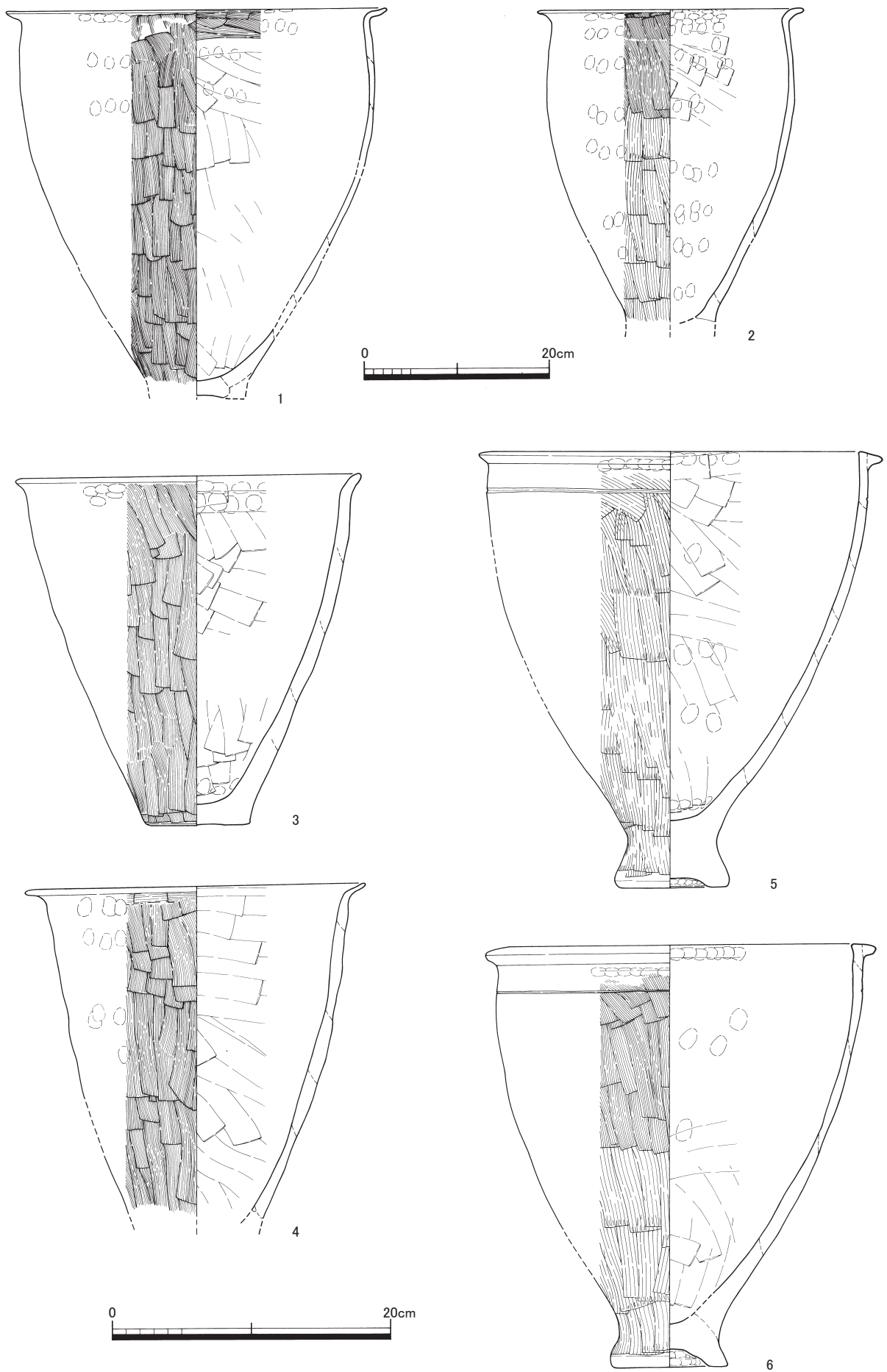
第12図5～8は甕である。5の口縁部は断面三角形で、6の底部は厚く、上げ底状を呈する。

石器（第28図、図版9）

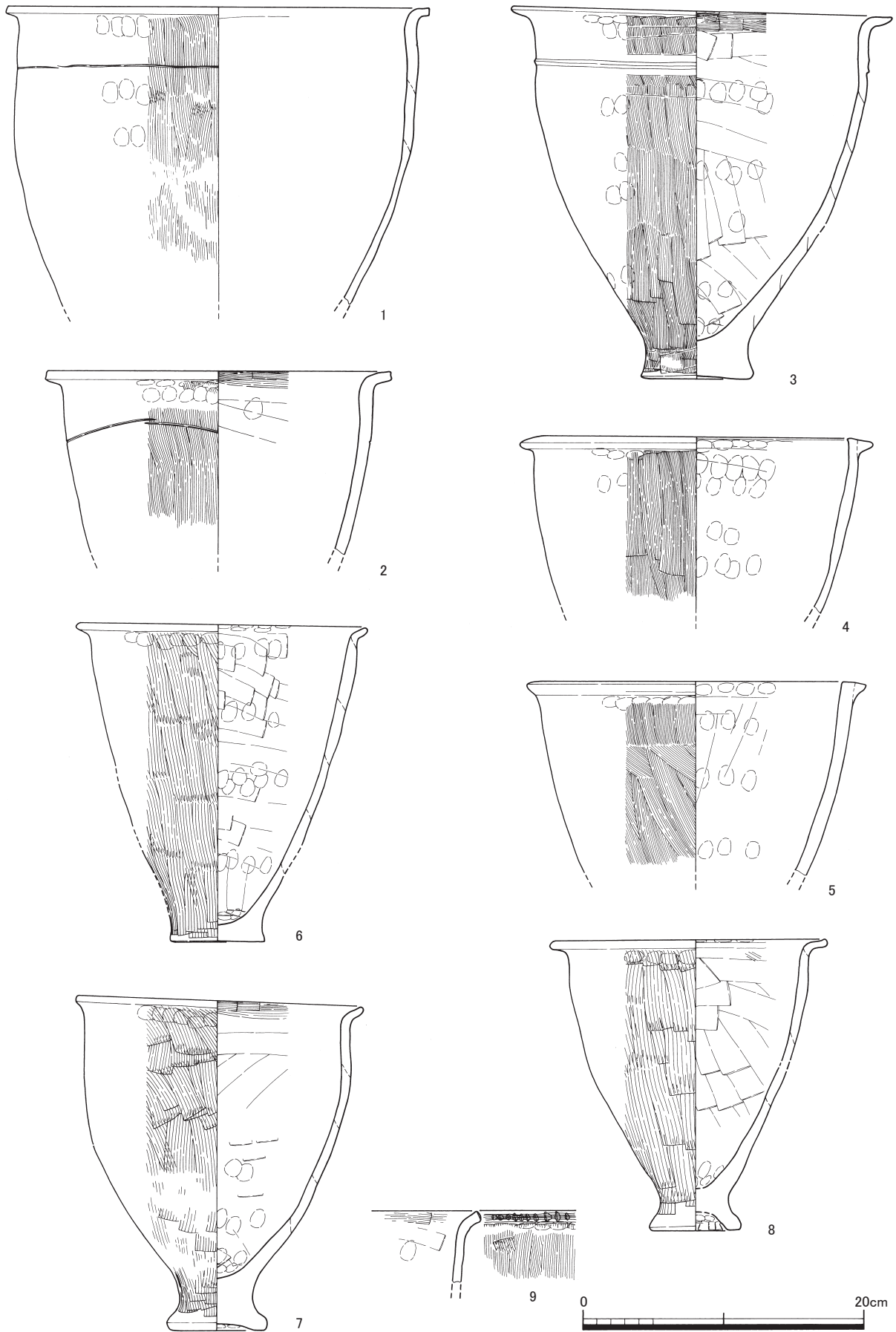
第28図2は磨石である。1/4程度の残存で、現状で長さ 7.4cmを測る。



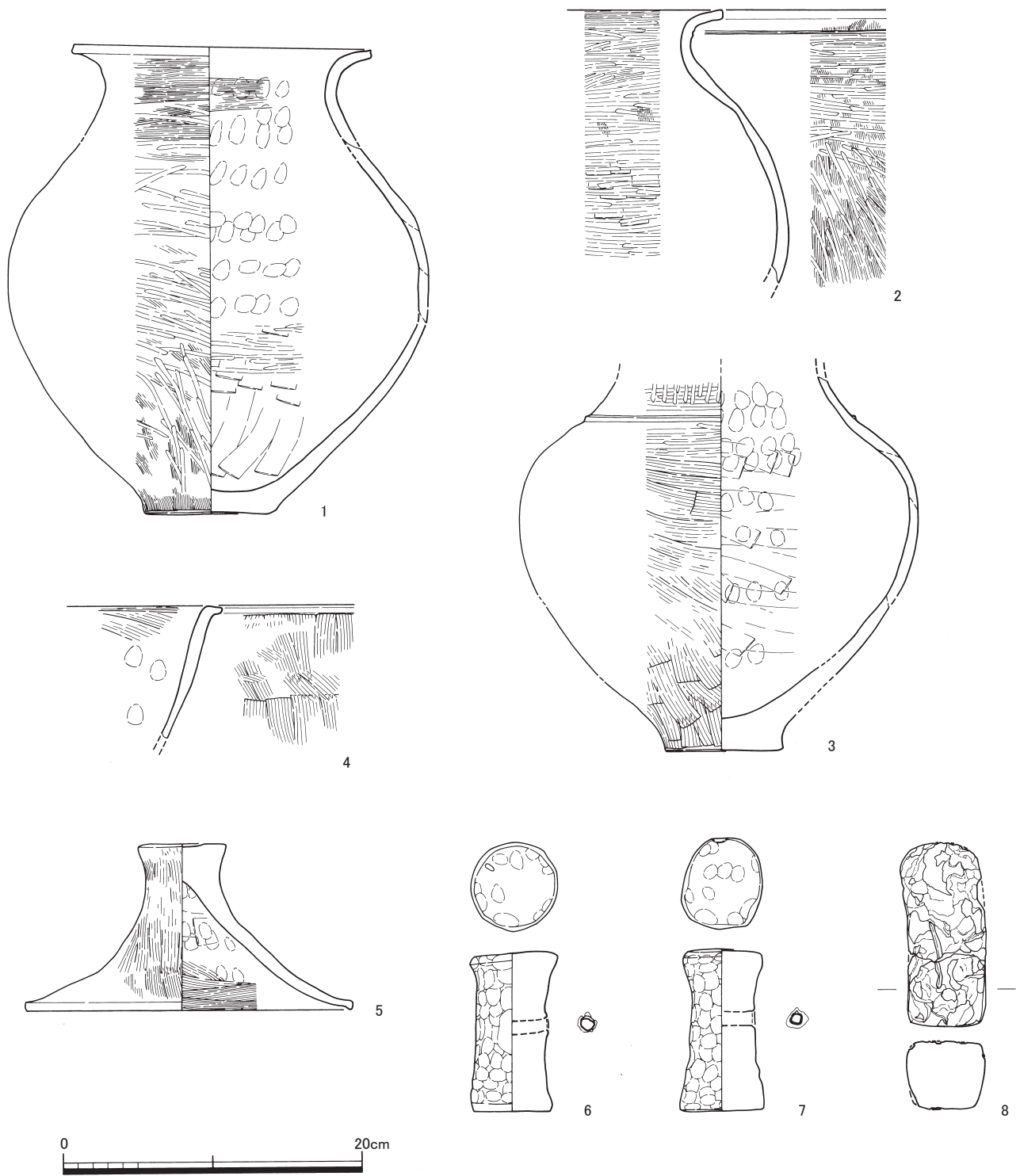
第8図 5・7～9号土坑実測図 (5はS=1/40、その他はS=1/60)



第9図 5号土坑出土土器実測図① (1・2はS=1/6、その他はS=1/4)



第10图 5号土坑出土土器实测图② (S=1/4)

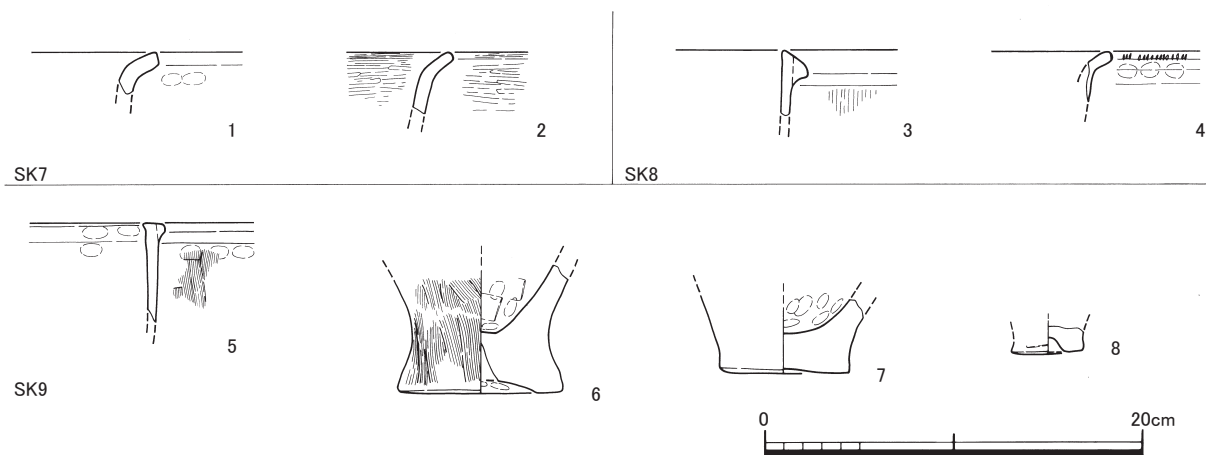


第11図 5号土坑出土土器実測図③ (S=1/4)

10号土坑 (第8図、図版4)

調査区の中央部南側に位置し、標高 20.6 mを測る。2号住居跡を切る。遺構はなだらかに下り、西側に広い大型の上段部分と、壁面が内傾して立ち上がる袋状の部分からなる。上段部分は隅丸長形状を呈し、大きさは検出面で 3.37 m × 2.44 m、下端で 3.18 m × 1.83 mを測る。壁面は比較的まっすぐ立ち上がり、床面は袋状部分に向かってゆるやかに傾斜する。袋状部分は平面隅丸形状を呈し、大きさは上端で 1.82 m × 1.62 m、下端で 1.86 m × 1.96 m、深さは検出面から 1.60 mを測る。

埋土の堆積状況も、上段部分と袋状部分で大きく異なる。袋状部分はきれいな水平堆積で、廃土とそれを覆う地山質の層が互層状に堆積している。意図的な埋戻しが行われたと考えられよう。上段部



第12図 7～9号土坑出土土器実測図 (S=1/4)

分はレンズ状で、自然堆積である。遺物は廃土層から大量に出土した。

出土遺物

土器 (第14～17図、図版7)

第14図1から第16図10までは甕である。5号土坑出土の甕と土器相が近く、やや先行する。

第14図1～3は大型の甕で、1は口径39.5cmを測る。口唇部の上下と突帯に、計3か所の刻み目を施す。2は口径30.5cm、底径9.8cm、器高36.8cmを測る。刻み目の状況は1と同様である。やや球胴状を呈し、頸部上位から口縁部の内外面に細かいハケを施す。使用痕が顕著な土器。中型・小型の甕は、ほぼ全て口縁部が外反するタイプである。第15図7は小型の甕で、口縁部は粘土帯の接合部から剥離している。第16図6～8のように、底部の内外面にミガキを施すものもある。

第16図11から第17図4は壺である。第16図11は復元口径21.4cm、復元胴部最大径29.7cmを測る。頸部と胴部の境目に突帯を1条有する。第16図15は、外面のミガキ調整の中に連弧文が見られる。胴部下位に補修痕あり。第17図1は大型で、復元口径41.2cmを測る。頸部が直線的に立ち上がるタイプで、やはり頸部と胴部の境目に突帯を有する。第17図5・6は小型の鉢である。6は復元口径9.3cm、底径4.5cm、器高8.2cmを測る。7は支脚で、高さは13.5cmである。

石器 (第27・28・30図、図版9)

第27図2は太形蛤刃石斧片である。刃部・基部ともに欠損し、現状で長さ7.0cm、幅6.9cm、厚さ4.6cmを測る。7～11は投弾である。長さ3.9～5.0cmを測る。

第28図4は磨石で、1/3程度を欠損する。長さ8.9cmを測る。7は台石である。長さ17.2cm、幅15.3cm、厚さ6.3cmを測る。

第30図1・6は砥石である。6は長さ7.0cmの不整形形状を呈するが、砥面4面が確認できる。

土製品 (第31図、図版10)

第31図1・2は土製紡錘車で、1は径4.6cm、2は径4.0cmを測る。

鉄製品 (第36図、図版10)

第36図3は鉄釘である。現状で長さ7.1cm、幅1.2cmを測り、頭部は屈曲させる。

11号土坑 (第18図、図版4)

調査区の北東端側付近に位置する大型の貯蔵穴である。標高は20.6mを測り、12号土坑を切る。遺構の北側は一部調査区外に延びるが、大きさは検出面で3.07m×1.58m以上、下端で2.00m×0.78m以上を測る。壁面は比較的まっすぐ立ち上がり、深さは2.85mを測る。

埋土の最下層(20～23層)は互層状の堆積で、人為的な埋戻しが考えられる。それ以上はブロッ

ク状及びレンズ状の堆積で、土器を大量に含み、全て廃土である。

出土遺物

土器（第19・20図、図版7・8）

第19図及び第20図1～5は甕である。口縁部は、小さく外反するものがほとんどで、一部第20図1のような新相を表す土器もある。第19図1は、口径47.1cm、器高52.0cmを測る。口唇部及び突帯に刻み目を施す。第20図1は口径26.1cm、器高29.8cmを測る。口縁部は外側から粘土紐を貼り付け、断面三角形に仕上げる。底部が厚く、上げ底状を呈する。

第20図6～9は壺である。6は、復元口径17.3cmを測る。9は頸部から胴部にかけての小片で、横方向の沈線と、その下位に斜格子文を施す。10・11は蓋の小片である。12・13は把手部分の小片である。12は逆「く」字状を呈し、穿孔を施す。厚さは1.5cmである。13は厚さ3.5cmを測り、端部がやや上方へ湾曲する。

石器（第30図）

第30図5は砥石である。現状で長さ6.3cm、幅5.9cmを測る。

鉄製品（第36図、図版10）

第36図4は鉄釘である。現状で長さ4.5cm、幅0.4cmを測り、頭部は屈曲させる。中世の遺物の混入と考えられる。

12号土坑（第18図、図版4）

調査区の北東端側付近に位置し、標高は20.6mを測る。11号土坑に切られる。遺構の大きさは、検出面で1.93m×0.90m以上、下端で2.57m×1.75m以上を測る。壁面は大きく内傾して立ち上がるフラスコ状貯蔵穴で、深さは1.56mを測る。下層を中心に大量の遺物が出土した。

出土遺物

土器（第21～23図、図版8）

掲載した遺物は、全て下層出土のものである。

第21・22図及び第23図1は甕である。11号土坑出土の甕に見られるような、口縁部の断面が三角形を呈するものは無く、やや古相を示す。第21図1はやや長胴の大型甕で、復元口径44.5cm、復元器高54.8cmを測る。3は復元口径29.8cm、器高31.0cmを測り、底部に穿孔を施す。なお、底部裏面には、土器製作時に敷いた植物のスタンプが残存している。5は復元口径25.4cm、器高26.9cmを測る。外面の調整はハケが基本だが、下位に一部斜め方向のミガキを施す。6は復元口径29.2cm、復元器高27.9cmを測る。外面の調整はハケで、上半は単位の粗い工具、下半は単位の細かい工具を使用している。なお、内面の胴部下位に一部縦方向のミガキを施す。第22図6は、口径24.1cmを測る。外面の調整は基本的にハケだが、下位に横方向のミガキを施す。内面の中位以下は、縦方向のミガキ調整である。

第23図2～5は壺である。3は復元口径21.8cm、復元胴部最大径32.8cm、器高31.8cmを測る。最大径が胴部中位にあるタイプの壺である。4は小型で、残存高10.2cmを測る。外面下半には粗いナデが残る。5は胴部と頸部の境目に突帯を有し、その下位に重弧文を施す。6は大型の鉢で、口径43.2cm、器高31.9cmを測る。7は蓋で、口径20.9cm、器高6.8cmを測る。体部は直線的に立ち上がる。

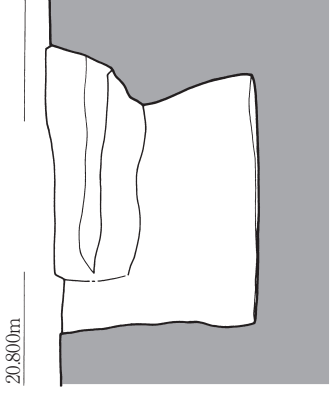
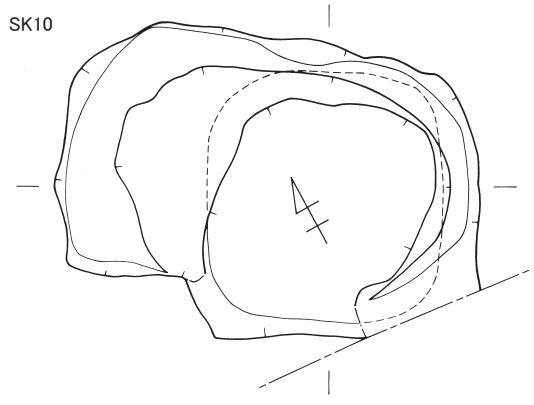
石器（第28～30図、図版9）

第28図1は磨石である。約1/3を欠損するが、現状で長さ7.6cm、幅11.0cm、厚さ6.5cmを測る。上下面とも非常に明瞭な使用面を残す。第29図3・5は砥石である。3は長さ14.0cm、幅11.0cm、厚さ6.3cmを測る。上下2面が使用面である。第30図8も砥石で、砥面には筋状の使用痕が残る。

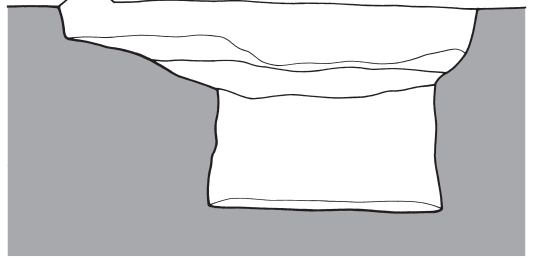
13号土坑（第13図、図版5）

調査区の中央部北端に位置し、標高は20.6mを測る。北側及び西側は調査区外に延び、中世の1・2号溝状遺構に切られる。遺構は2段掘りの貯蔵穴で、大きさは検出面で3.05m以上×2.19m以上を測る。1段目は長さ1.40m以上、幅1.42mを測り、検出面からの深さは0.99mである。2段目はきれ

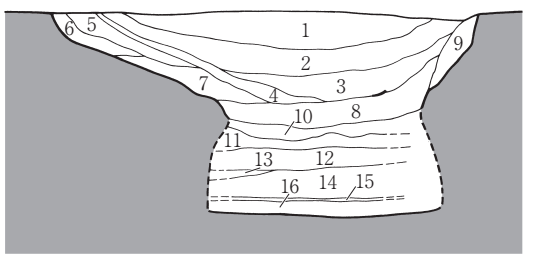
SK10



20.800m



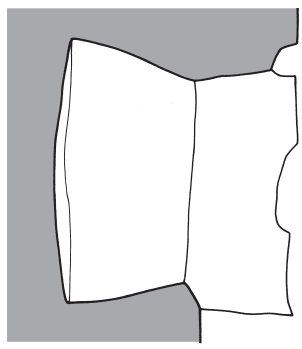
20.800m



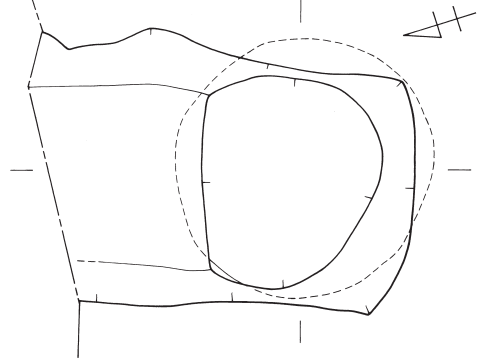
SK10

- 1 灰茶褐色土(粘性は低く非常によくしまる、土器・焼土粒を大量に含む)
- 2 暗茶褐色土(1層よりやや粘性が高い、土器を多く含む)
- 3 明黄褐色土(粘性が高くしまりあり、地山ブロック[10cm大]を多く含む)
- 4 黒灰色土(粘性はやや高いがしまらない)
- 5 暗茶褐色土(1層に近い、しまりあり)
- 6 黒灰色土(やや粘性はやや高くしまりあり、焼土粒・炭化物粒を多く含む)
- 7 灰茶褐色土(やや粘性が高いがしまらない、地山質土を多く含む)
- 8 灰褐色土(粘性が高いがしまらない、土器を大量に含む)
- 9 黄灰色土(流れ込みの層、細かい砂質土)
- 10 明黄褐色土(地山と同質、しまりあり)
- 11 黄灰色土(非常に粘性が高くしまりあり、地山ブロック[5cm大]を少量含む)
- 12 黒灰色土(粘性が高いがしまらない、土器を多く含む)
- 13 明黄褐色土(地山と同質)
- 14 灰茶褐色土(粘性が高くしまりあり、比較的均質な層)
- 15 明黄褐色土(地山と同質)
- 16 黒灰色土(粘性は高いがしまらない、土器を少量含む)

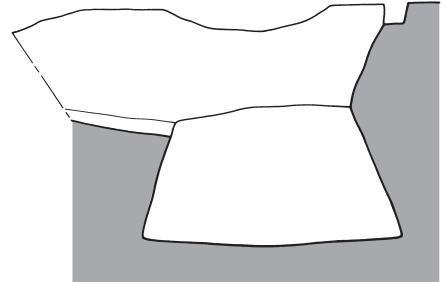
SK13



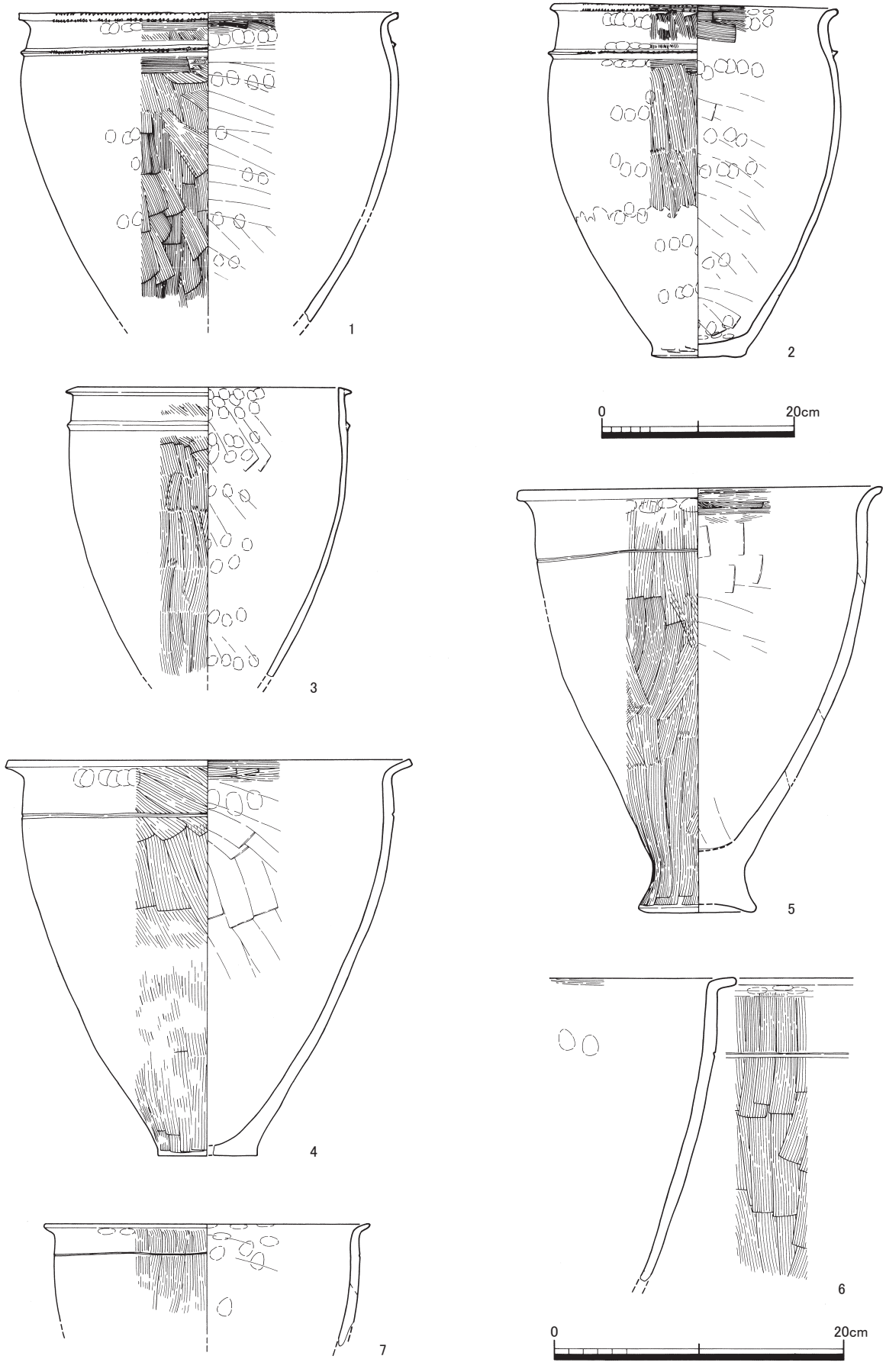
20.800m



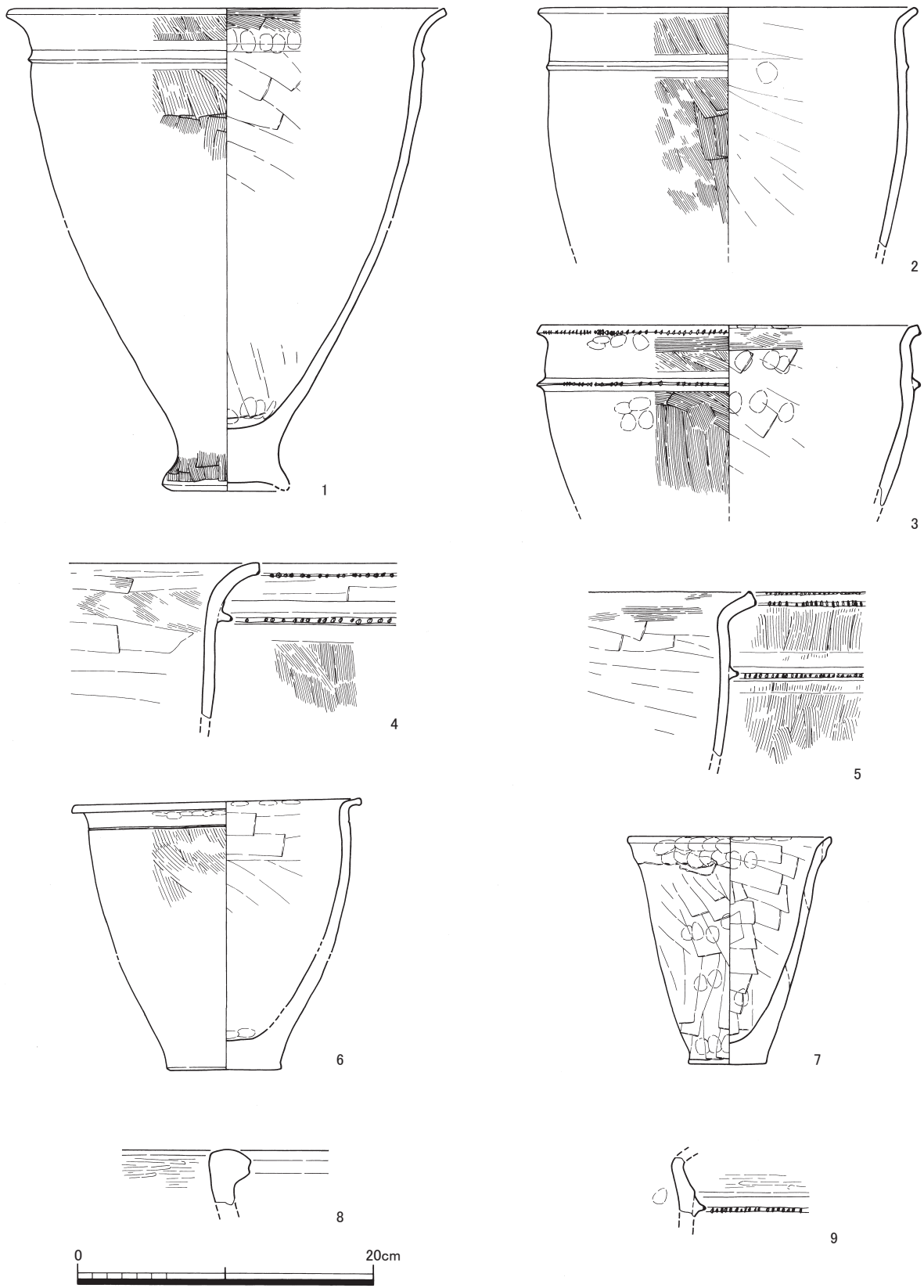
20.800m



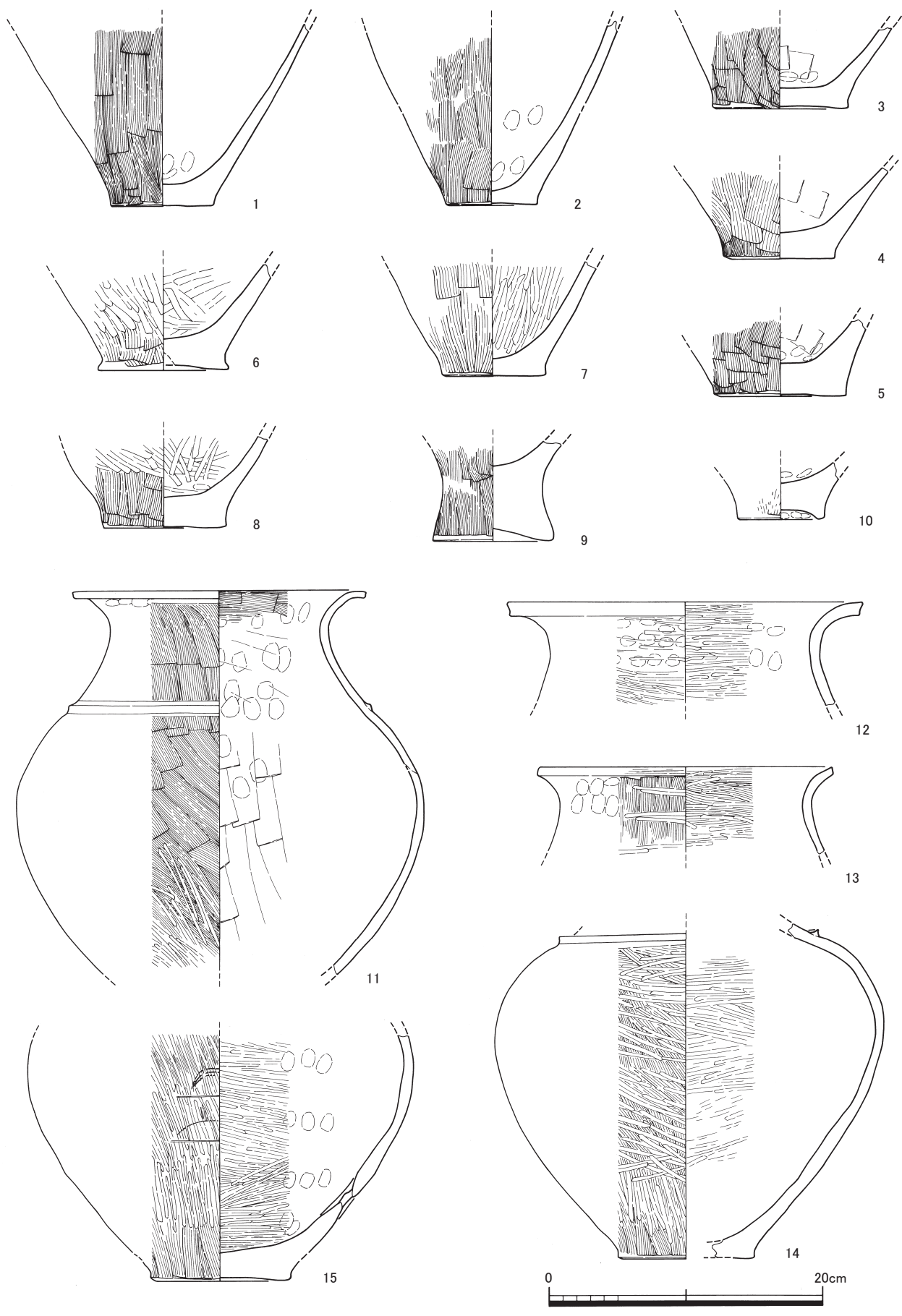
第 13 図 10・13 号土坑実測図 (S=1/60)



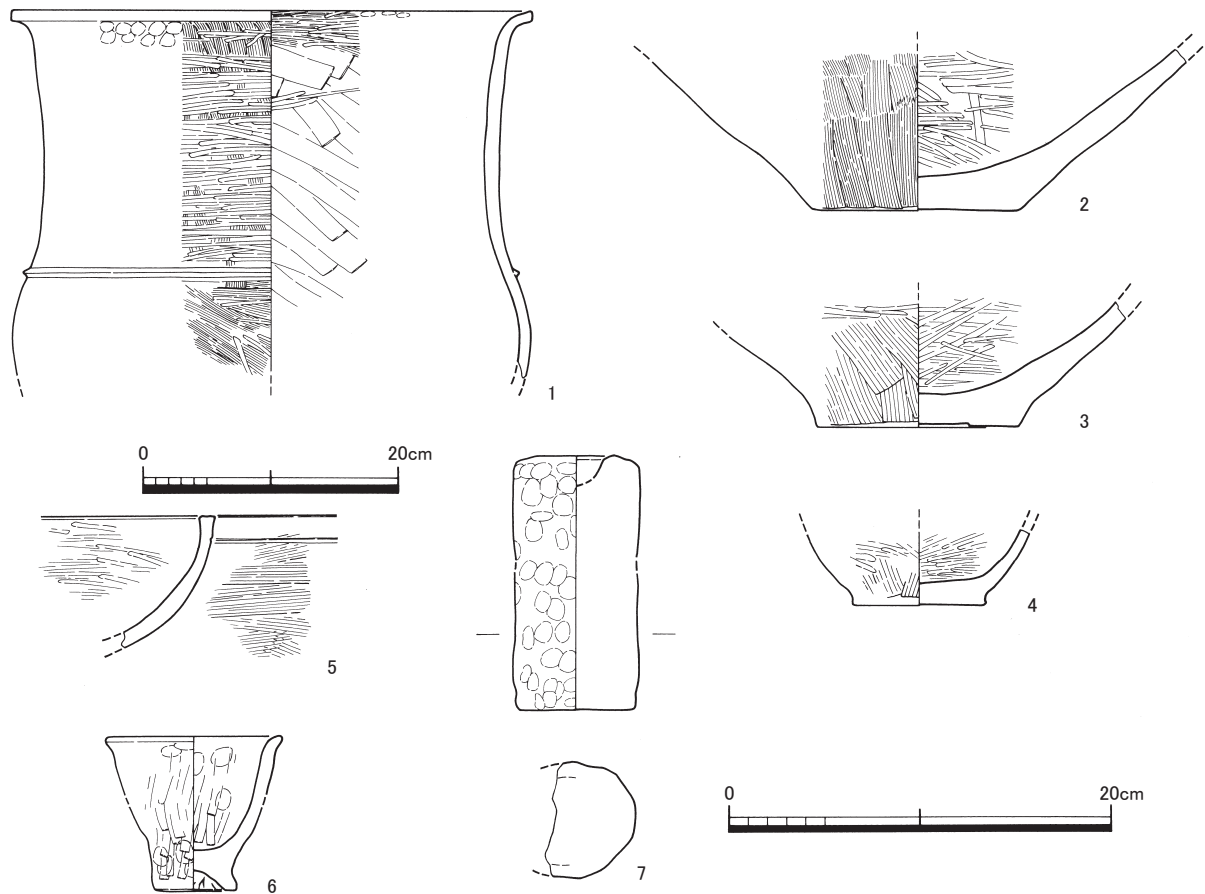
第 14 図 10 号土坑出土土器実測図① (1～3は S=1/6、その他は S=1/4)



第 15 图 10 号土坑出土土器实测图② (S=1/4)



第 16 图 10 号土坑出土土器实测图③ (S=1/4)



第17図 10号土坑出土土器実測図④ (1はS=1/6、その他はS=1/4)

いな円形状を呈し、床面は2.05 m × 2.05 mを測る。壁面は大きく内傾して立ち上がるフラスコ状を呈し、深さは検出面から1.91 mを測る。埋土中からは多くの遺物が出土した。

出土遺物

土器 (第25・26図、図版8)

第25図1～7は甕である。1は復元口径24.2cm、器高26.2cmを測る。調整は、内外面とも工具によるナデである。5・6は底部が厚く、やや上げ底状を呈する。8から14は壺である。9は復元口径18.2cmを測り、胴部と頸部の境目に突帯を有する。12も突帯を有するが、小型で器壁が非常に薄い。

第26図1・2は蓋で、1は立ち上がりが高い。3から5は支脚で、3は高さ14.6cmを測る。6・7は下層出土の甕である。6は復元口径31.3cmを測る。内面の調整は細かいミガキである。7は復元口径21.6cmを測る。調整は外面がミガキで、内面は工具ナデの後に一部ミガキを施す。

石器 (第27・30図、図版9)

第27図1は安山岩製の打製石鏃である。長さ3.6cm、幅1.2cm、厚さ0.5cmを測る。12・13は投弾で、長さはそれぞれ4.5cm、4.9cmを測る。第30図9・10は砥石である。9は長さ5.7cm、幅4.4cm、厚さ2.9cmを測る。側面も含めて、良く使い込まれている。

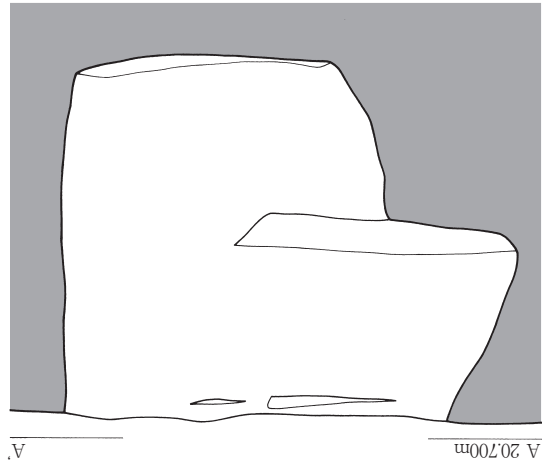
14号土坑 (第24図、図版5)

調査区の西部に位置し、標高は20.6 mを測る。形の整った袋状貯蔵穴である。遺構の大きさは、検出面で0.82 m × 0.82 m、下端は1.93 m × 1.89 mを測り、床面は中央に向かって深くなる。壁面は大きく内傾して立ち上がり、深さは1.58 mを測る。壁面の中央やや上位で、傾きの変換点がある。

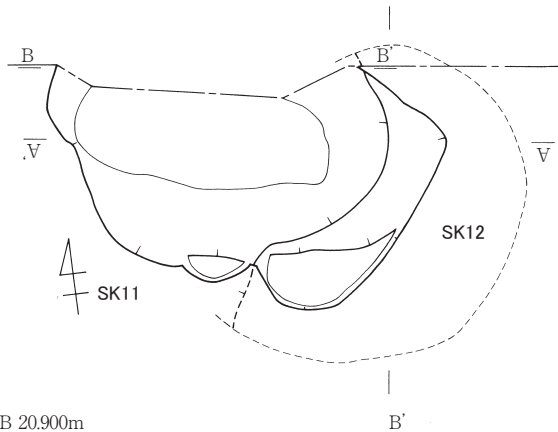
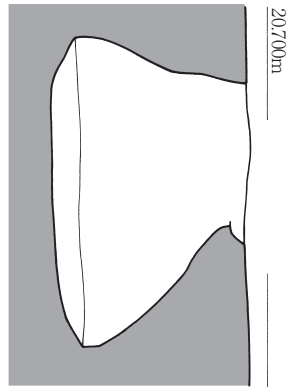
出土遺物

土器 (第26図)

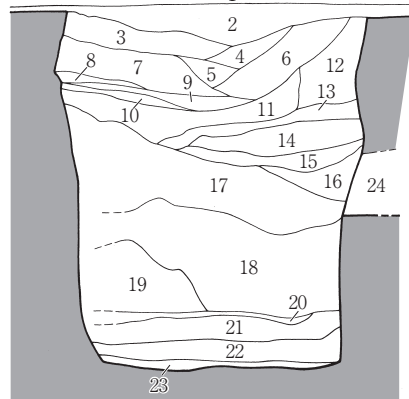
第26図9は壺で、復元口径25.0cm、復元胴部最大径34.0cmを測る、黒色磨研土器である。



V V A 20.700m



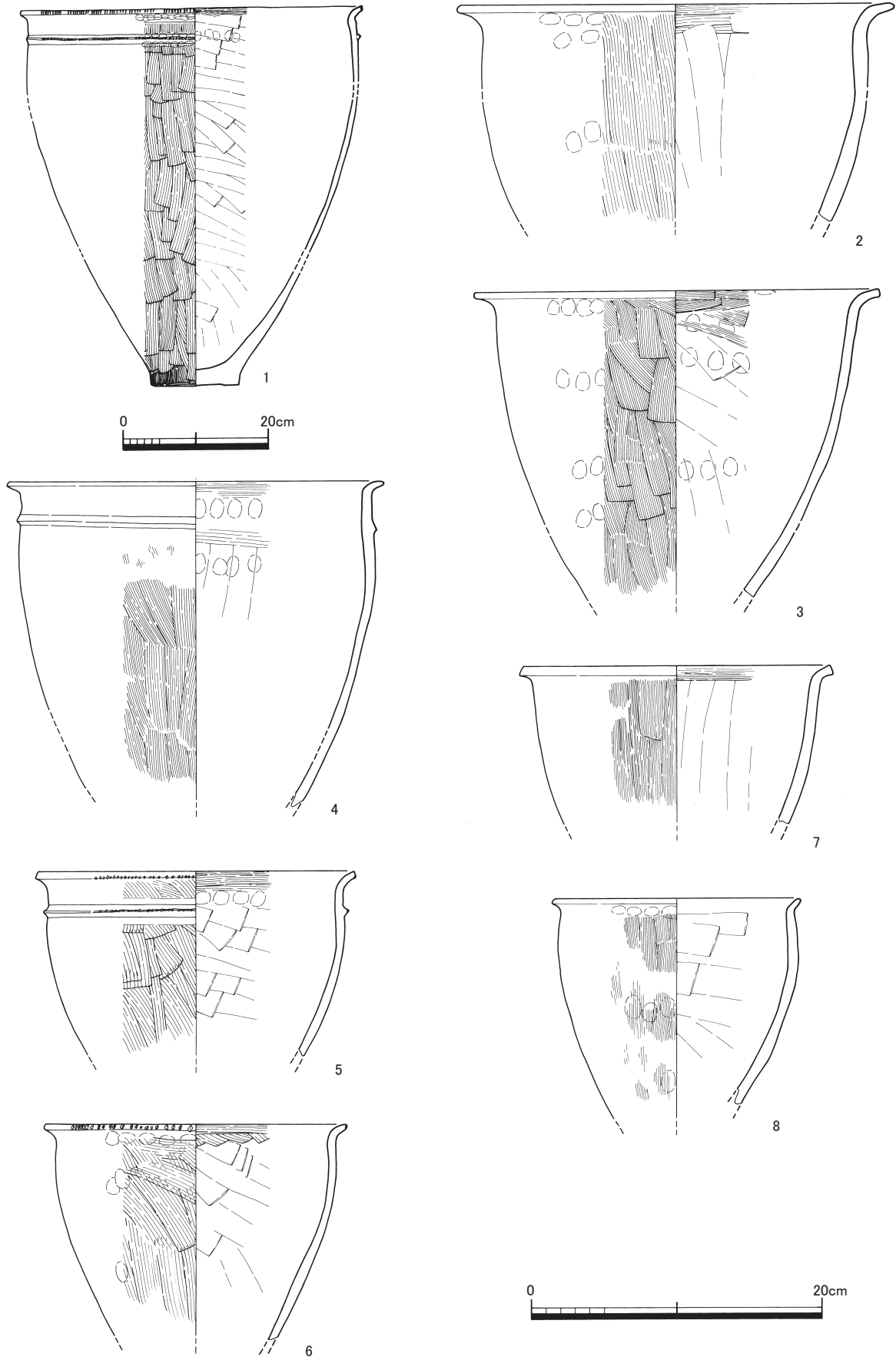
B 20.900m B'



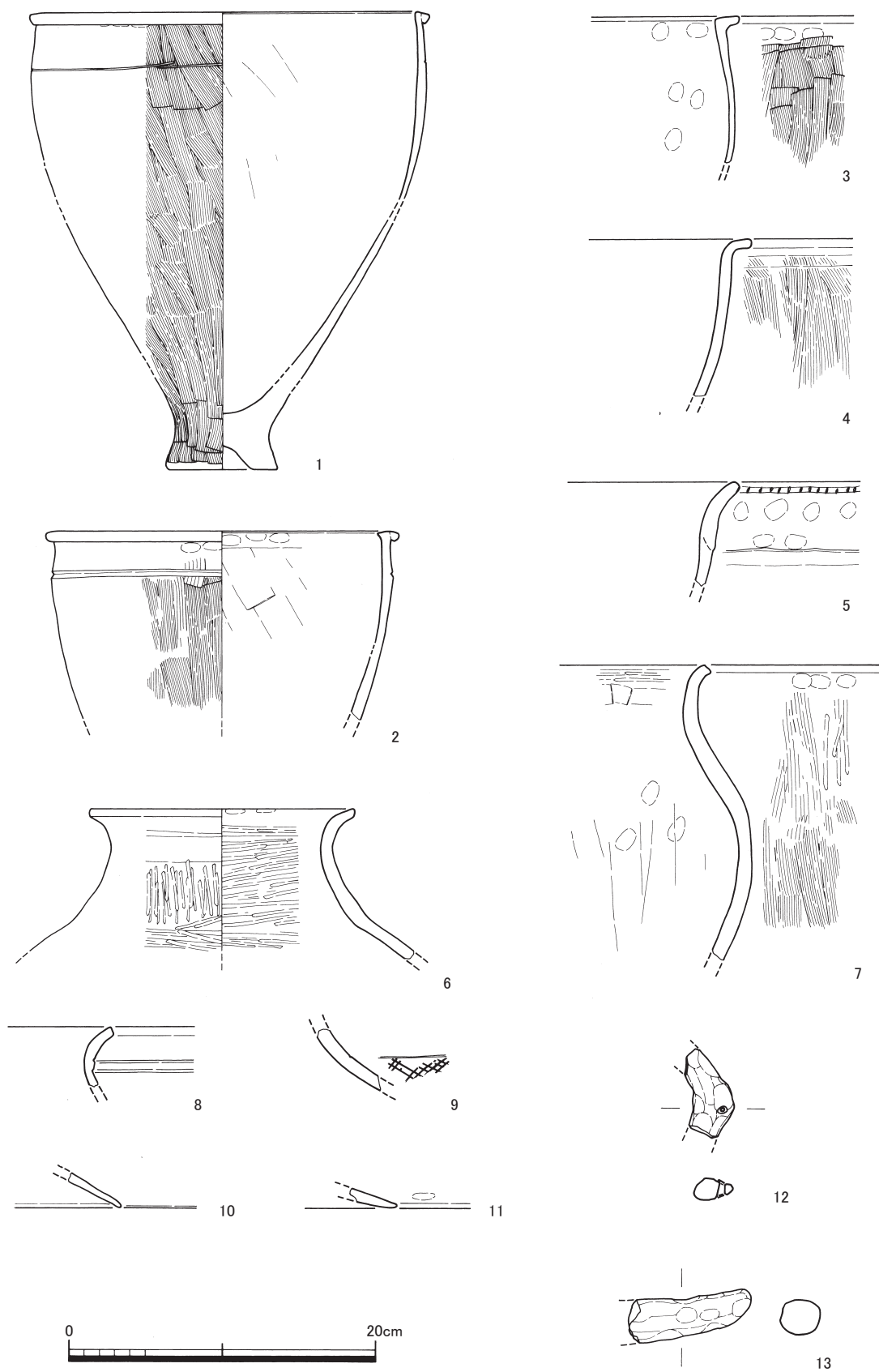
SK11

- 1 客土
- 2 明茶褐色土(粘性が高くしまりあり、砂粒を少量含む、地山直上の遺物包倉層)
- 3 黒褐色土(シルト質でよくしまる、砂粒を少量含む)
- 4 明黄褐色土(地山と同質の砂層)
- 5 暗茶褐色土(3+4層)
- 6 明黄褐色土(地山と同質の砂層)
- 7 黒褐色土(シルト質でよくしまる、遺物を少量含む)
- 8 黄褐色土(粘性は高いがしまらない)
- 9 暗茶褐色土(砂質を中量含む、しまりあり)
- 10 茶褐色土(粘性が高くよくしまる、茶褐色土をブロック状に含む)
- 11 暗茶褐色土(粘性が高くよくしまる、土器を多く含む)
- 12 黒褐色土(11層に近いがしまりは悪い)
- 13 灰褐色土(12+14層、しまりあり)
- 14 暗黄褐色土(粗い砂質でしまらない、土器を中量含む)
- 15 暗茶褐色土(粘性が高くしまりあり、灰白色粘土ブロック[15cm]を2個含む)
- 16 14+15+17層
- 17 黒褐色土(粘性は高いがしまらない、土器を多く含む)
- 18 茶褐色粘質土ブロック[60%]+黒褐色土[30%]+黄褐色砂質土[10%](土器を多く含む)
- 19 明黄色土(地山と同質、ブロック状の堆積、しまらない)
- 20 黄白色土(地山と同質、均質)
- 21 明黄色土(粘質、しまらない)[60%]+黒褐色土(粘性低い)[40%]
- 22 黄白色土(地山と同質、均質)
- 23 黒褐色土(やや粘性が高いがしまらない)
- 24 黒褐色土(SK12の埋土、土器を大量に含む)

第 18 図 11・12号土坑実測図 (S=1/60)



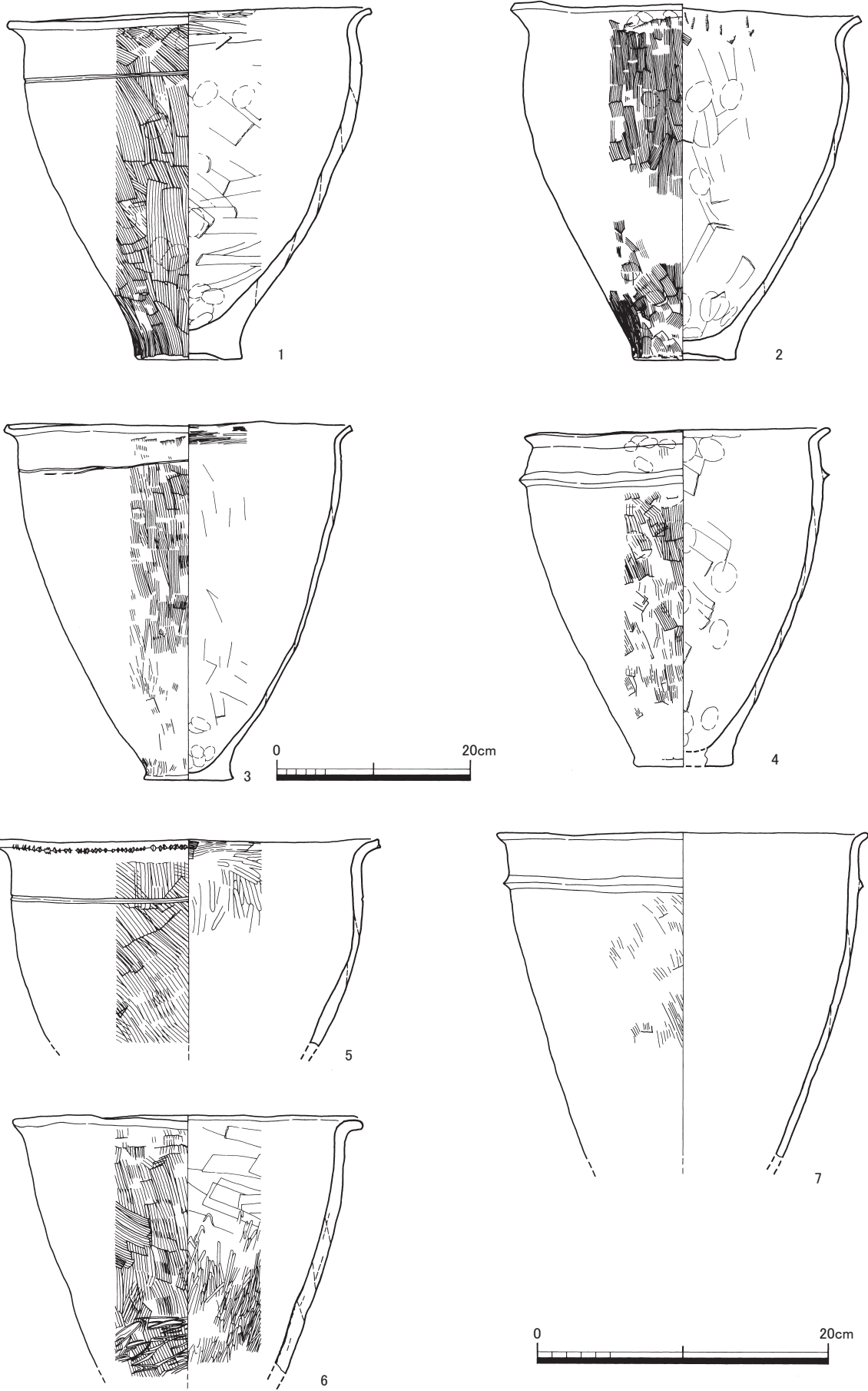
第19図 11号土坑出土土器実測図① (1はS=1/8、その他はS=1/4)



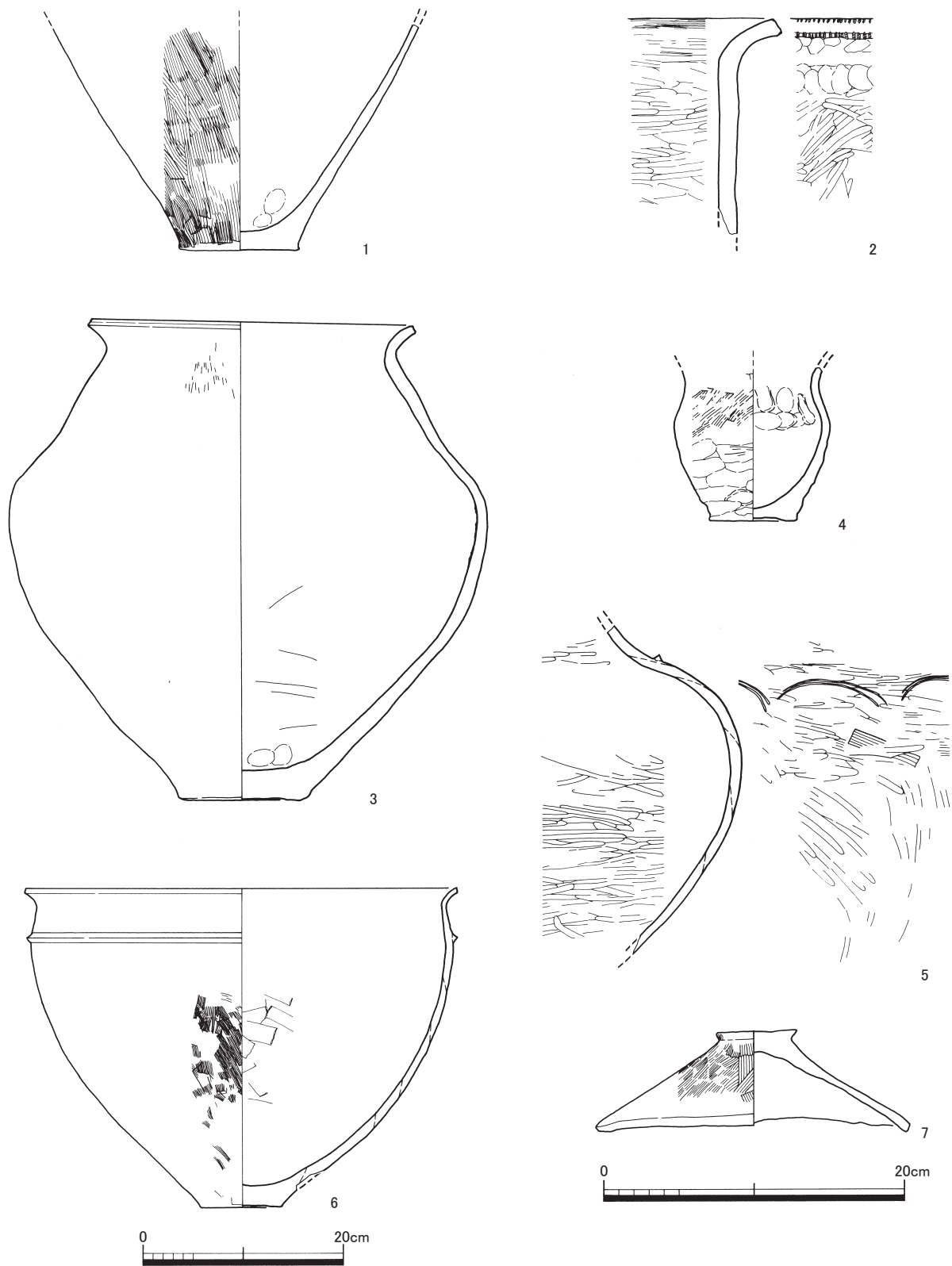
第 20 图 11 号土坑出土土器实测图② (S=1/4)



第 21 図 12 号土坑出土土器実測図①(5・6は S=1/4、その他は S=1/6)



第 22 图 11 号土坑出土土器实测图② (S=1/4)



第23図 12号土坑出土土器実測図③ (6はS=1/6、その他はS=1/4)

土製品 (第31図、図版10)

第31図3は土製紡錘車である。直径3.2cm、厚さ1.4cmを測る。

15号土坑 (第24図、図版5)

調査区の西端部に位置し、標高は20.6mを測る。遺構の西部は削平により残存していない。大きさは、検出面で1.58m以上×0.97m、下端は1.42m以上×0.88mを測る。壁面は比較的垂直に立ち上がり、

深さは 0.60 m を測る。

出土遺物

土器 (第 26 図)

第 26 図 10・11 は甕である。10 は復元口径 20.6cm を測る。11 はやや厚い底部を持つ。12 は小型の壺で、復元口径 12.2cm を測る。

石器 (第 30 図)

第 30 図 3 は砥石である。欠損は大きいだが、比較的整った形状を呈する。現状で、幅 8.1cm を測る。

16 号土坑 (第 24 図、図版 5)

調査区の西端部に位置し、標高は 20.6 m を測る。遺構の西部は削平により残存していない。遺構の大きさは、検出面で 1.78 m 以上 × 1.15 m 以上、下端は 1.99 m 以上 × 2.09 m を測る。壁面は内傾して立ち上がり、深さは 1.20 m を測る。

出土遺物

土器 (第 26 図)

第 26 図 13 は甕の底部で、底径 8.9cm を測る。

17 号土坑 (第 34 図)

調査区西部の南壁土層中で確認した遺構である。検出面の標高は 20.3 m を測る。遺構の詳細は不明だが、大きさ 3.06 m 程度の貯蔵穴と考えられる。遺物は確認できなかった。

18 号土坑 (第 34 図)

調査区西部の南壁土層中で確認した遺構である。検出面の標高は 20.7 m を測る。遺構の詳細は不明だが、大きさ 3.43 m、深さ 2 m 程度の貯蔵穴と考えられる。遺物を少量採集した。

出土遺物

土器 (第 26 図)

第 26 図 14 は甕の胴部から口縁部にかけてで、復元口径 20.4cm を測る。

(3) ピット・表採

ここでは、ピット出土及び表採遺物をまとめて報告する。

出土遺物

土器 (第 26 図)

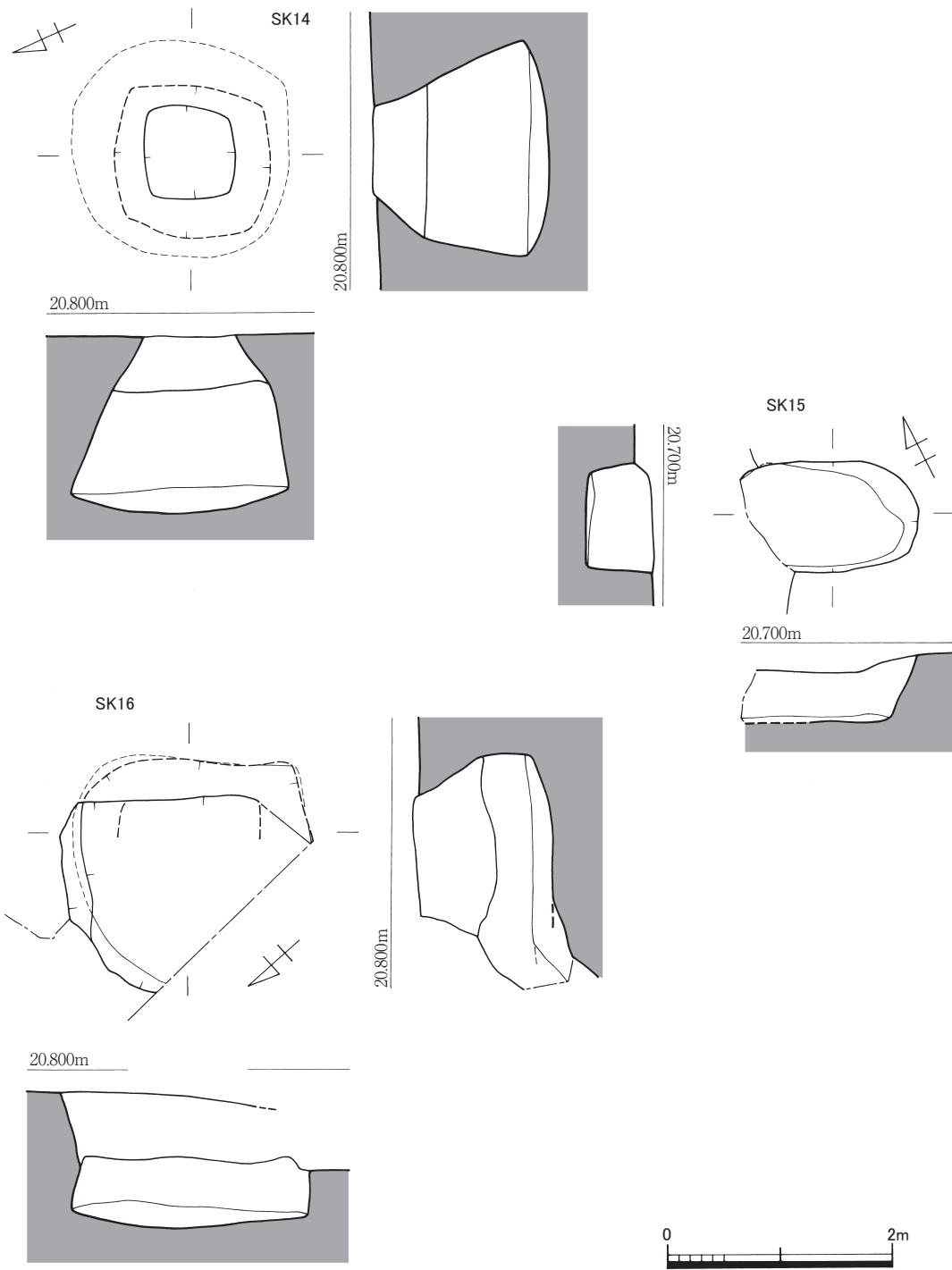
第 26 図 15 は P 1 出土の甕口縁部小片、16 は P 11 出土の壺口縁部小片、17 は P 38 出土の壺口縁部小片である。

石器 (第 27 ~ 29 図、図版 9)

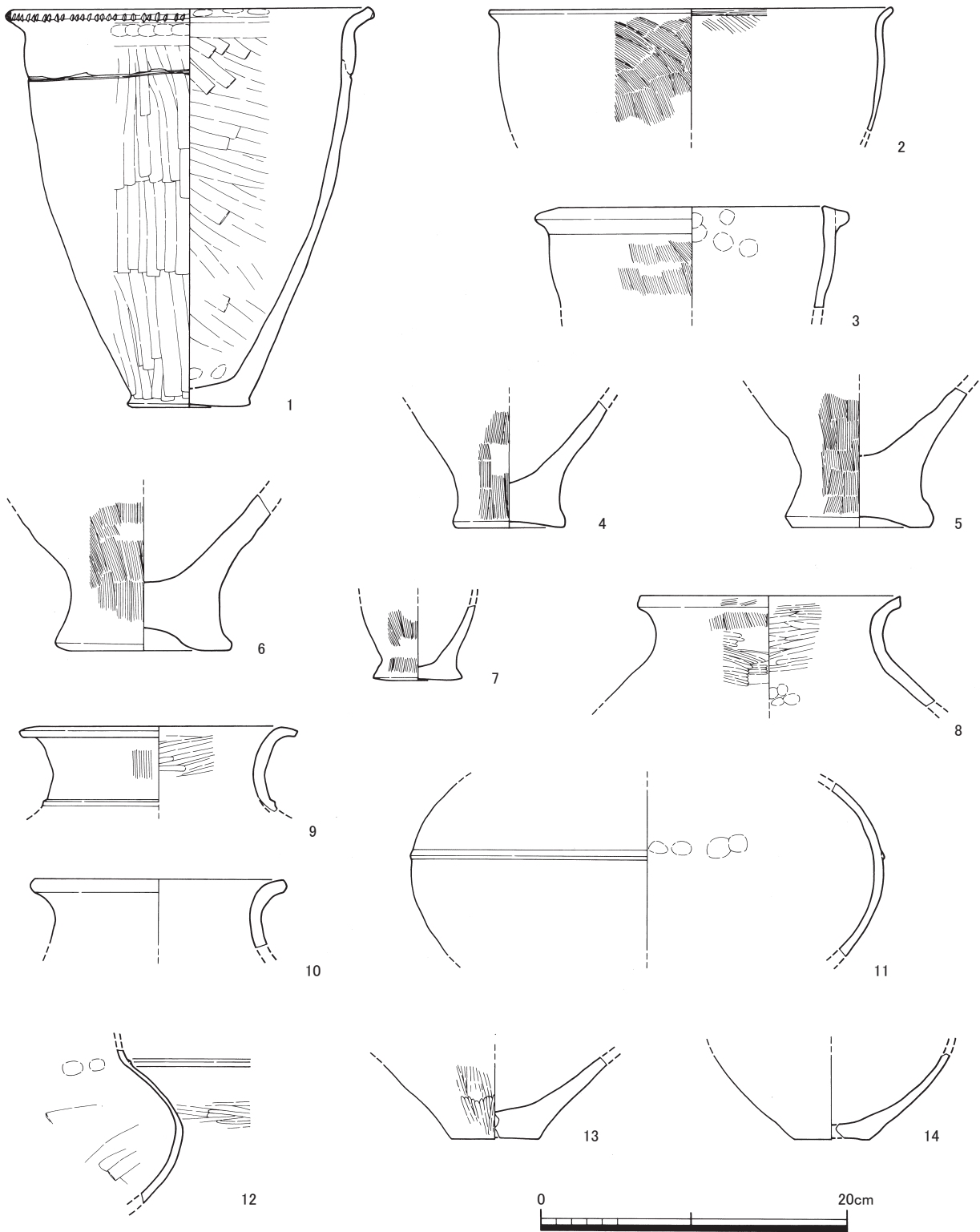
第 27 図 4 は P 1 出土の小型方柱状石斧である。先端部は残存するものの、基部及び刃部のほとんどを欠損する。残存長 6.0cm、幅 1.6cm、厚さ 1.4cm を測る。5 は P 2 出土の扁平片刃石斧である。刃部は残存するが、基部を欠損する。残存長 3.6cm、幅 2.1cm、厚さ 1.0cm を測る。第 28 図 3 は表採の磨石である。ほぼ完形で、長さ 7.3cm、幅 6.3cm、厚さ 4.3cm を測る。6 は P 29 出土の台石である。欠損部が大きく、残存長は 5.8cm だが、幅は 13.5cm と比較的良好に残っている。厚さ 6.8cm を測る。第 29 図 1 は P 3 出土の砥石である。4 面全てが使用面で、現状で長さ 20.8cm、幅 11.9cm、厚さ 10.2cm を測る。

土製品 (第 31 図、図版 10)

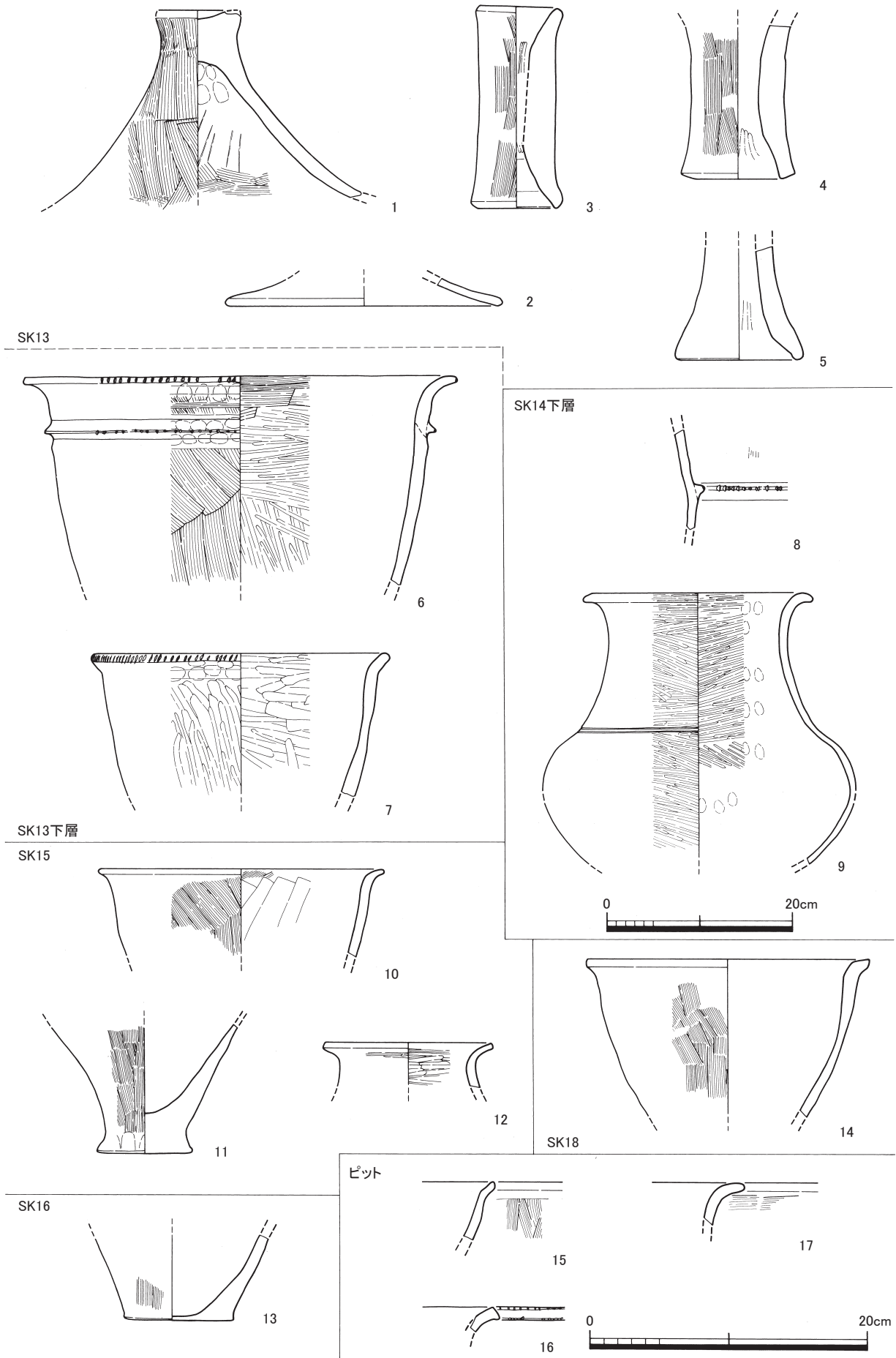
第 31 図 4 は P1 出土の土製投弾である。長さ 3.0cm、直径 2.0cm を測る。



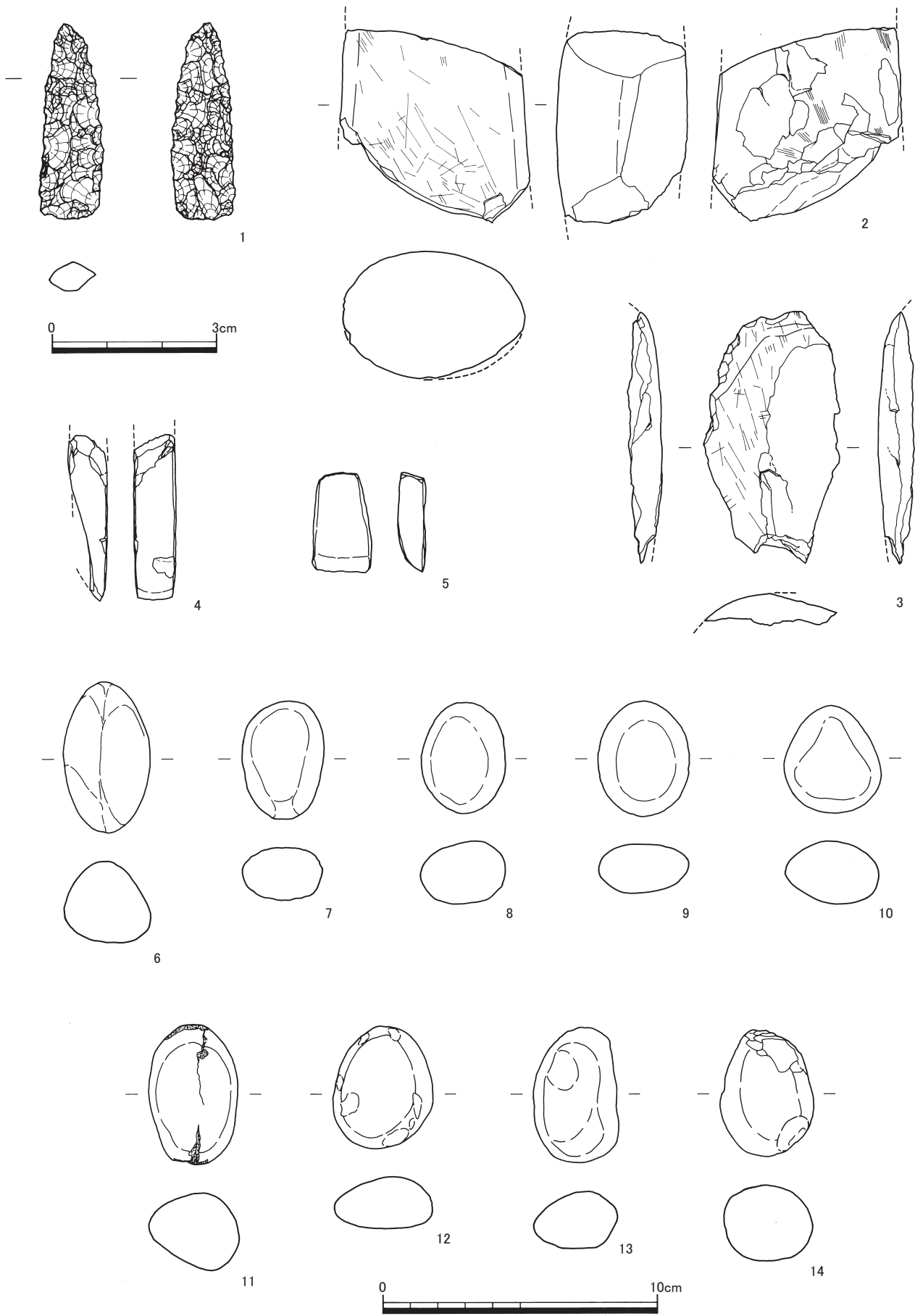
第 24 图 14 ~ 16 号土坑实测图 (S=1/60)



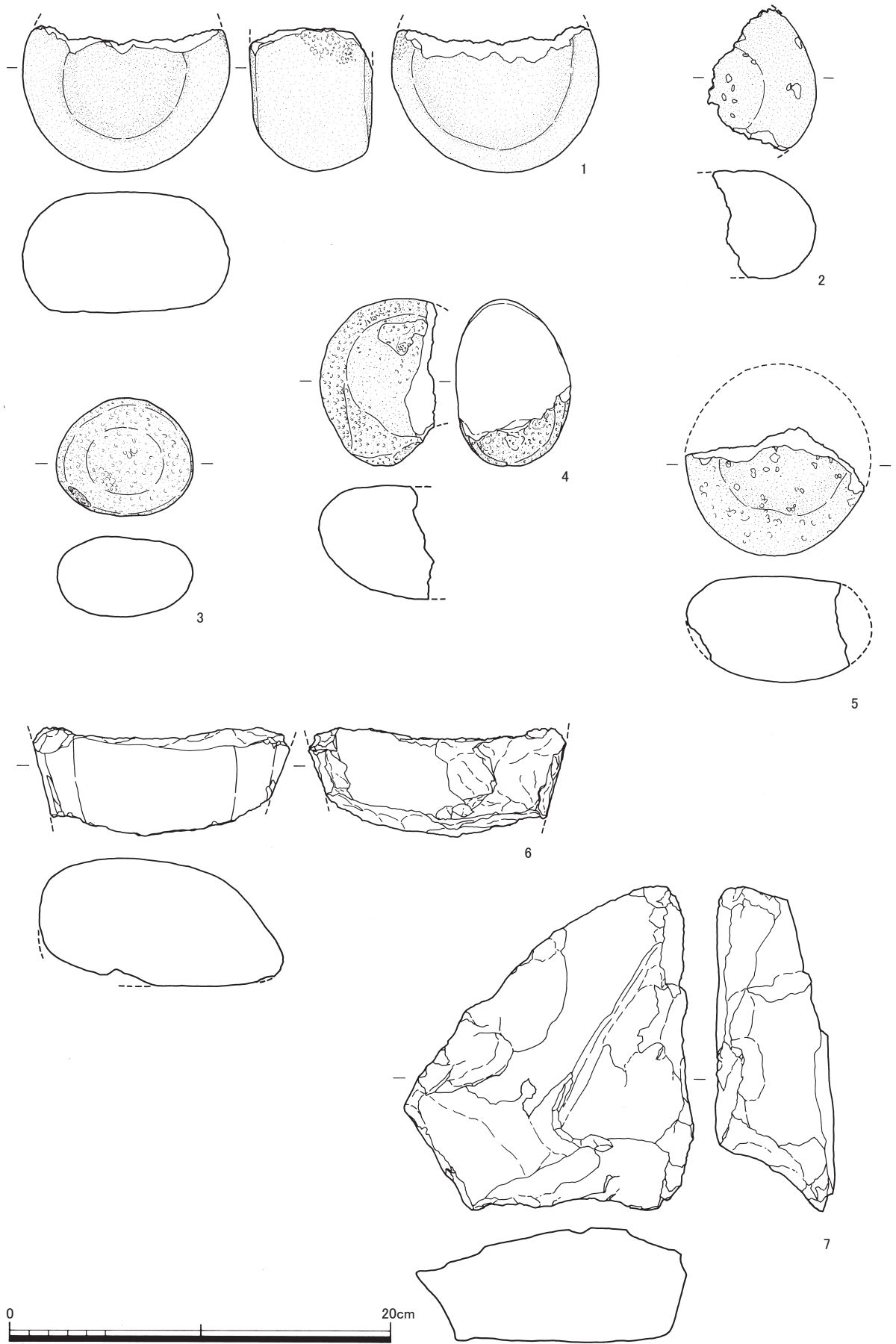
第25図 13号土坑出土土器実測図 (は S=1/6、その他は S=1/4)



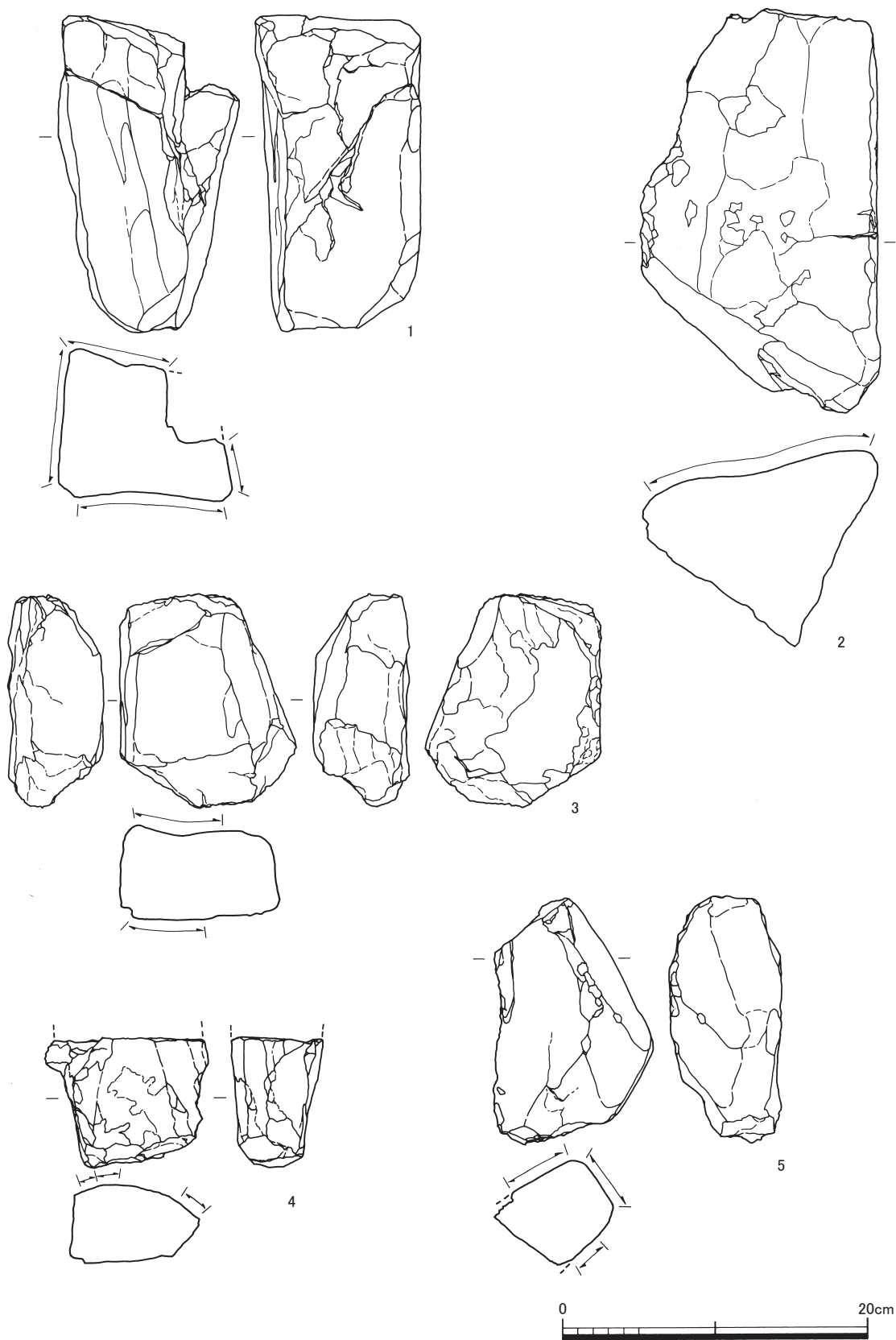
第26図 13～16・18号土坑及びピット出土土器実測図 (S=1/4)



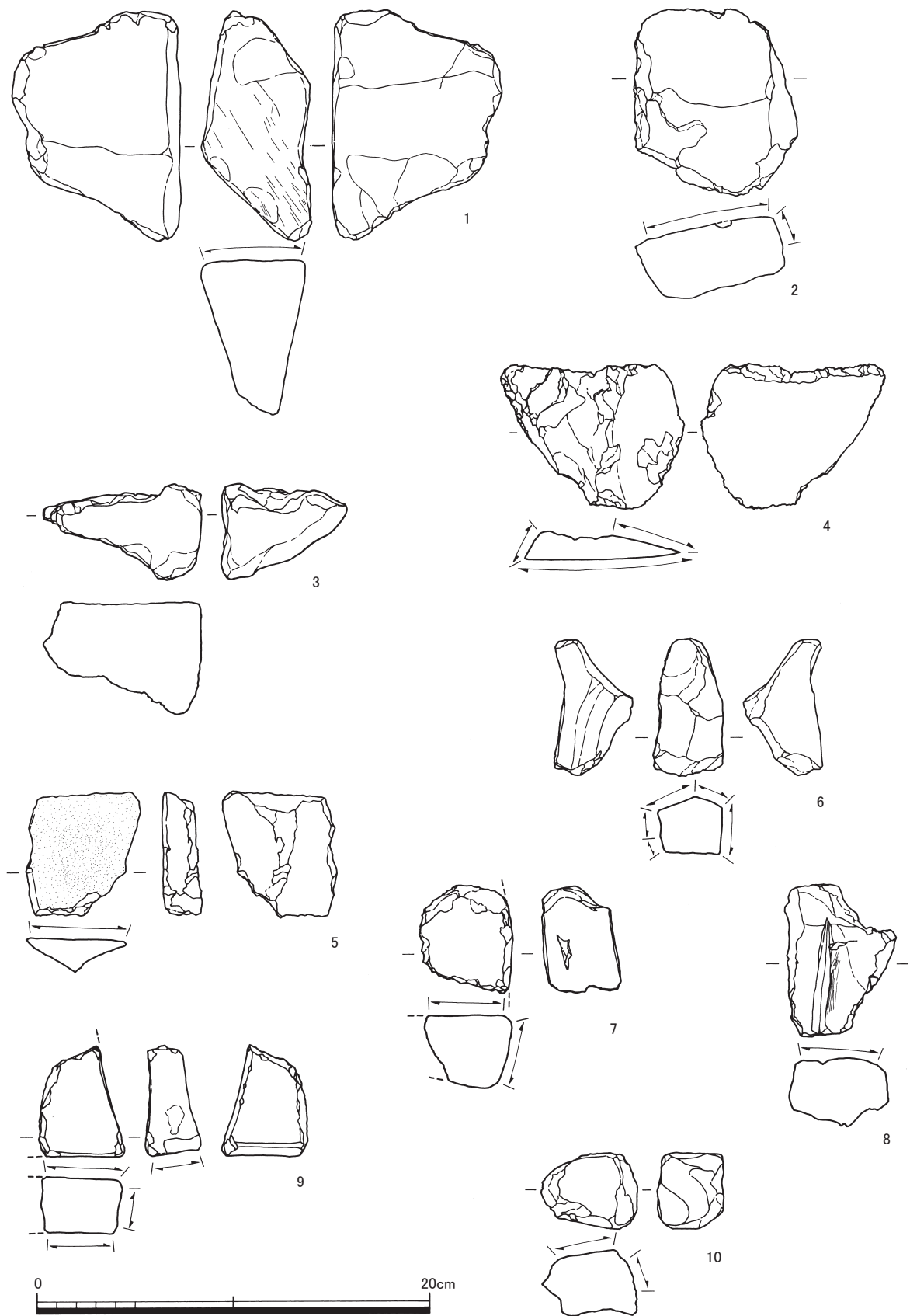
第27図 出土石器実測図① (1は S=1/1、その他は S=1/2)



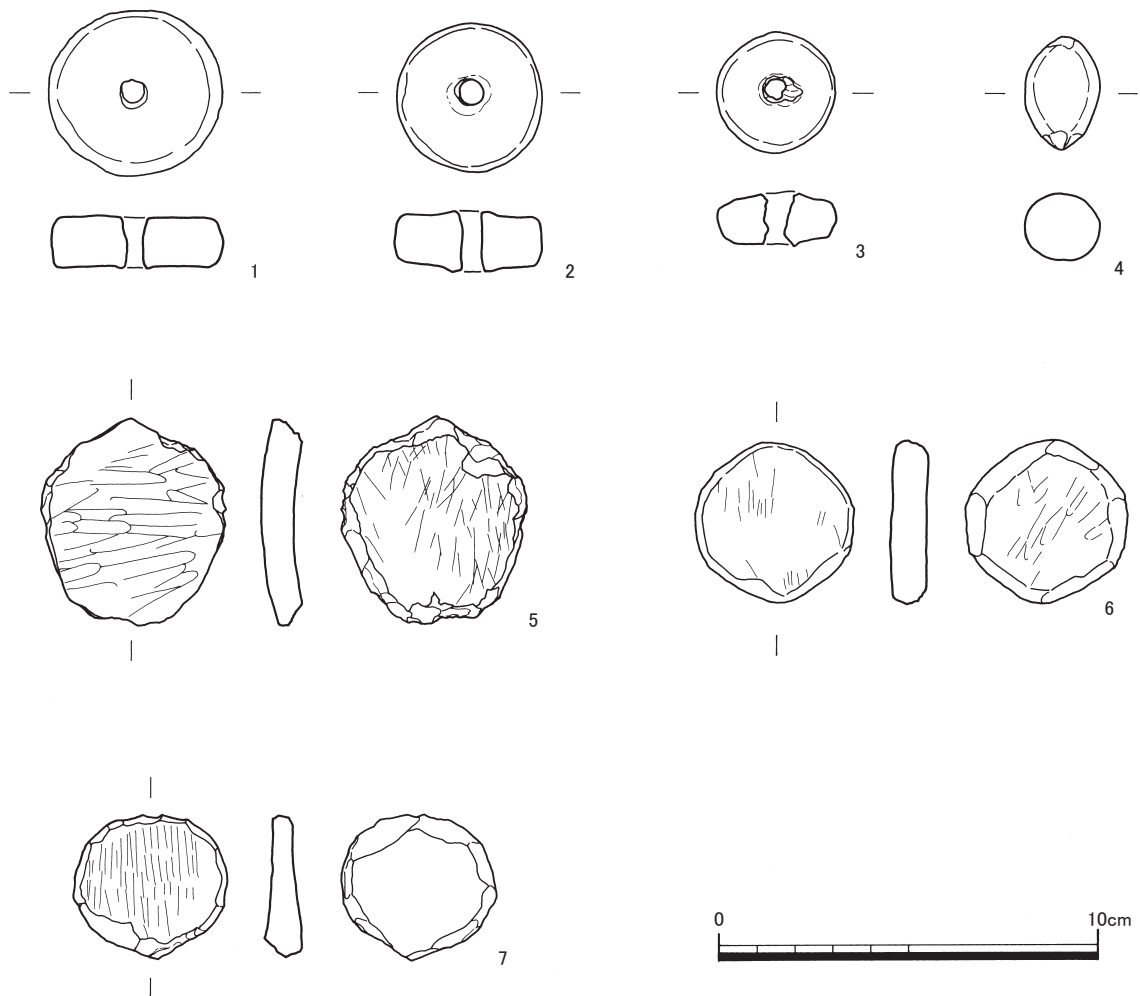
第28図 出土石器実測図② (S=1/3)



第 29 图 出土石器实测图③ (S=1/4)



第30图 出土石器实测图④ (S=1/3)



第31図 出土土製品実測図 (S=1/2)

2. 中世の遺構と遺物

(1) 土坑

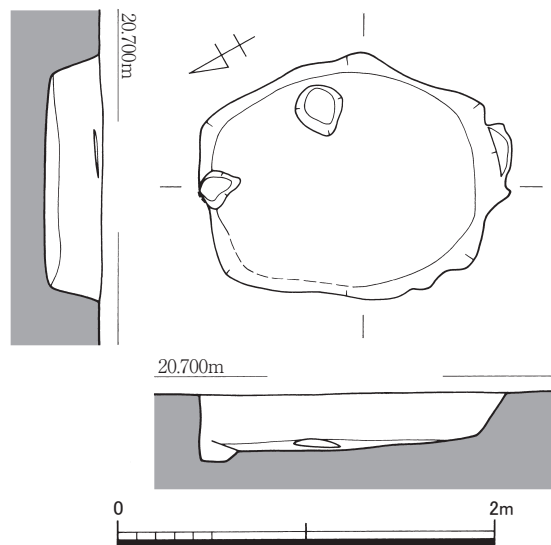
6号土坑 (第32図、図版3)

調査区東部に位置し、標高は20.6mを測る。遺構北西部の中型ピットを切る。遺構は胴張の隅丸長形状を呈する。大きさは、検出面で長さ1.62m、幅1.30m、下端で長さ1.37m、幅1.12m、深さ29cmを測る。床面に小型のピットを2基有する。

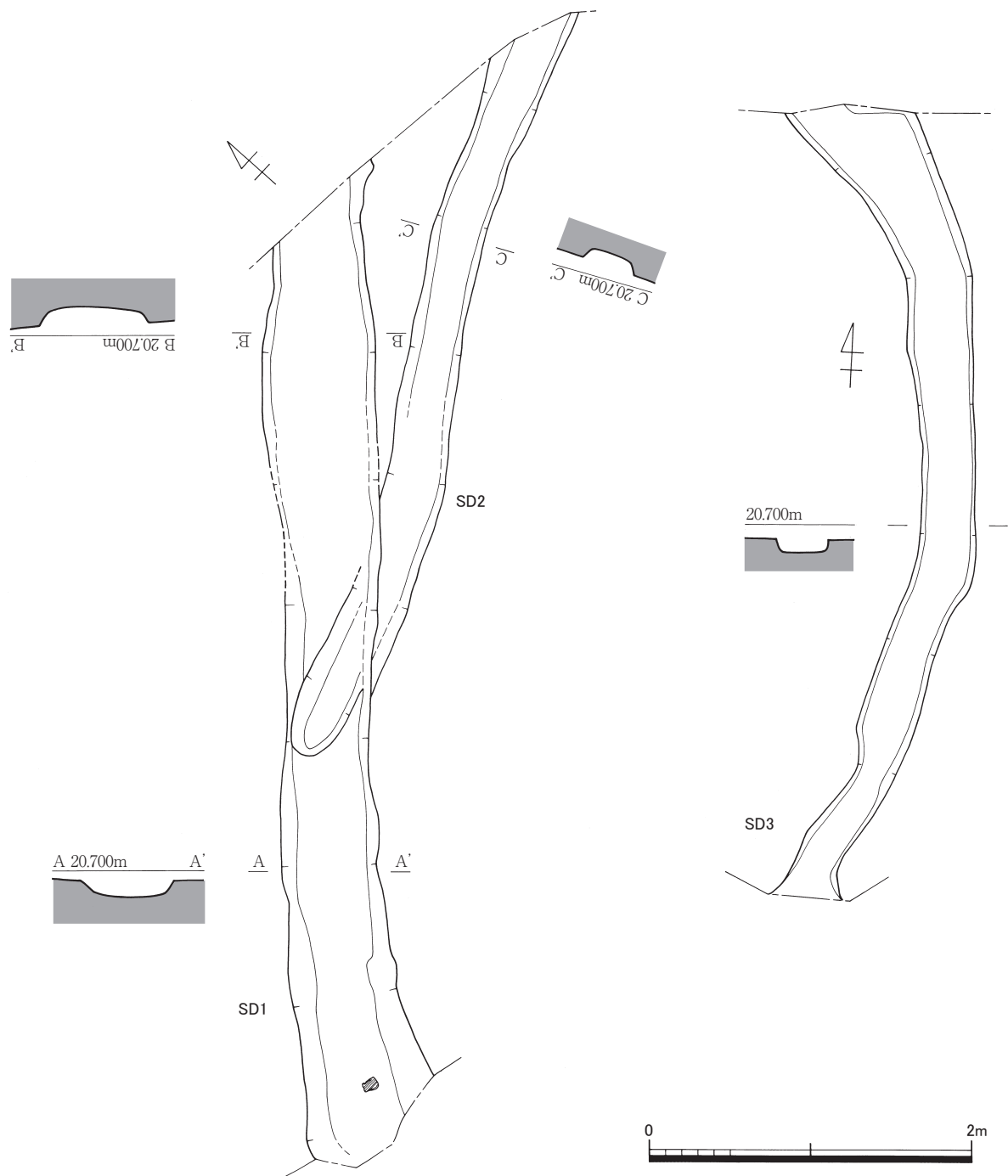
出土遺物

土器 (第34図)

第34図1・2は土師器の皿である。2は非常に小型で、立ち上がり小さい。3は磁器皿の小片、4は瓦質土器碗の小片である。



第32図 6号土坑実測図 (S=1/40)



第33図 1～3号溝状遺構実測図 (S=1/40)

(2) 溝状遺構

1号溝状遺構 (第33図、図版5)

調査区のほぼ中央部に位置し、標高は20.6mを測る。長軸をN-45°-Eにとり、直線的に延びる。13号土坑や小型の2号溝状遺構を切る。長さは現状9.36mで、検出面の幅は最大1.05m、下端の幅は最大0.88mを測る。壁面はなだらかに立ち上がり、深さは最大17cmを測る。遺物は小片が多いものの比較的まとまって出土し、南西端部では石臼を検出した。

出土遺物

土器 (第34図、図版10)

第34図5は土師器の土鍋で、口縁部を肥厚させる。外面にはススが付着している。6は土師器鉢の口縁部小片である。7は瓦質土器鉢の底部で、復元底径13.2cmを測る。8は磁器碗の小片である。

石器 (第30・36図、図版10)

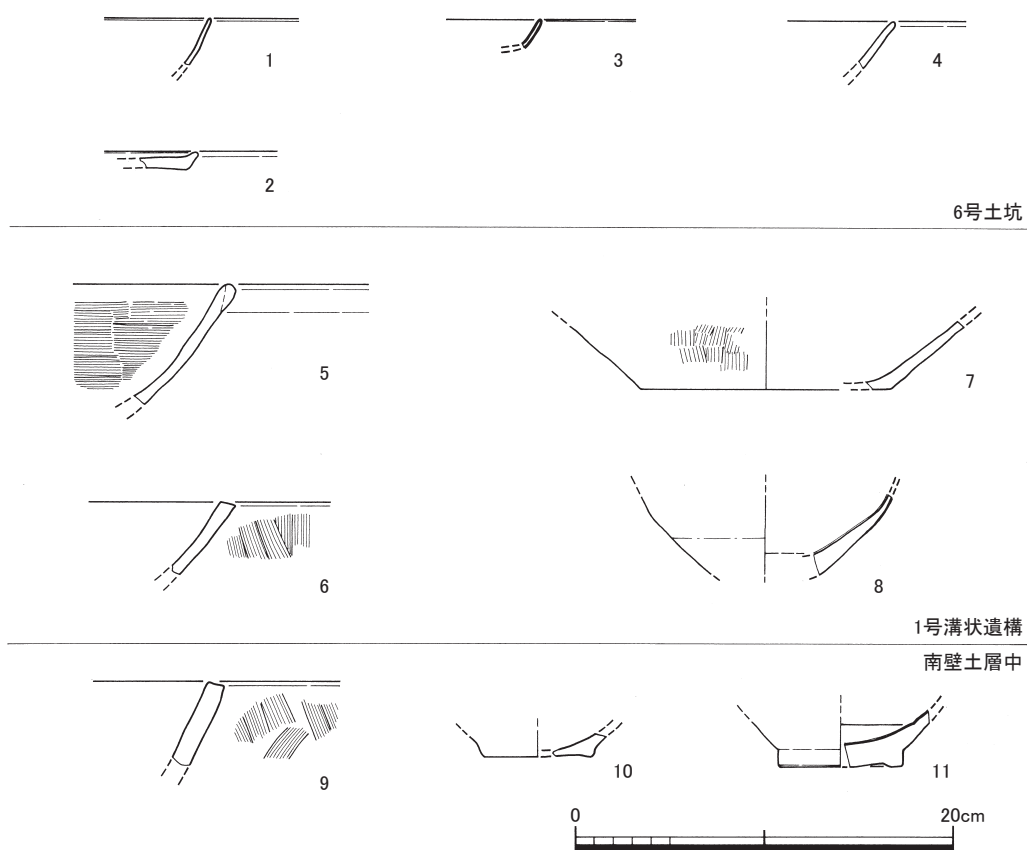
第30図2・4は砥石である。4は3面の使用面が確認され、大きさは幅9.4cm、厚さ1.5cmを測る。第36図1は石臼である。現状で大きさ16.5cm、厚さ8.8cmを測り、中心部付近に径3cm程度の穿孔が2か所確認できる。摺り目は幅4～6mm程度で、中心から外側に向かうものと斜め方向のものがある。

2号溝状遺構 (第33図、図版5)

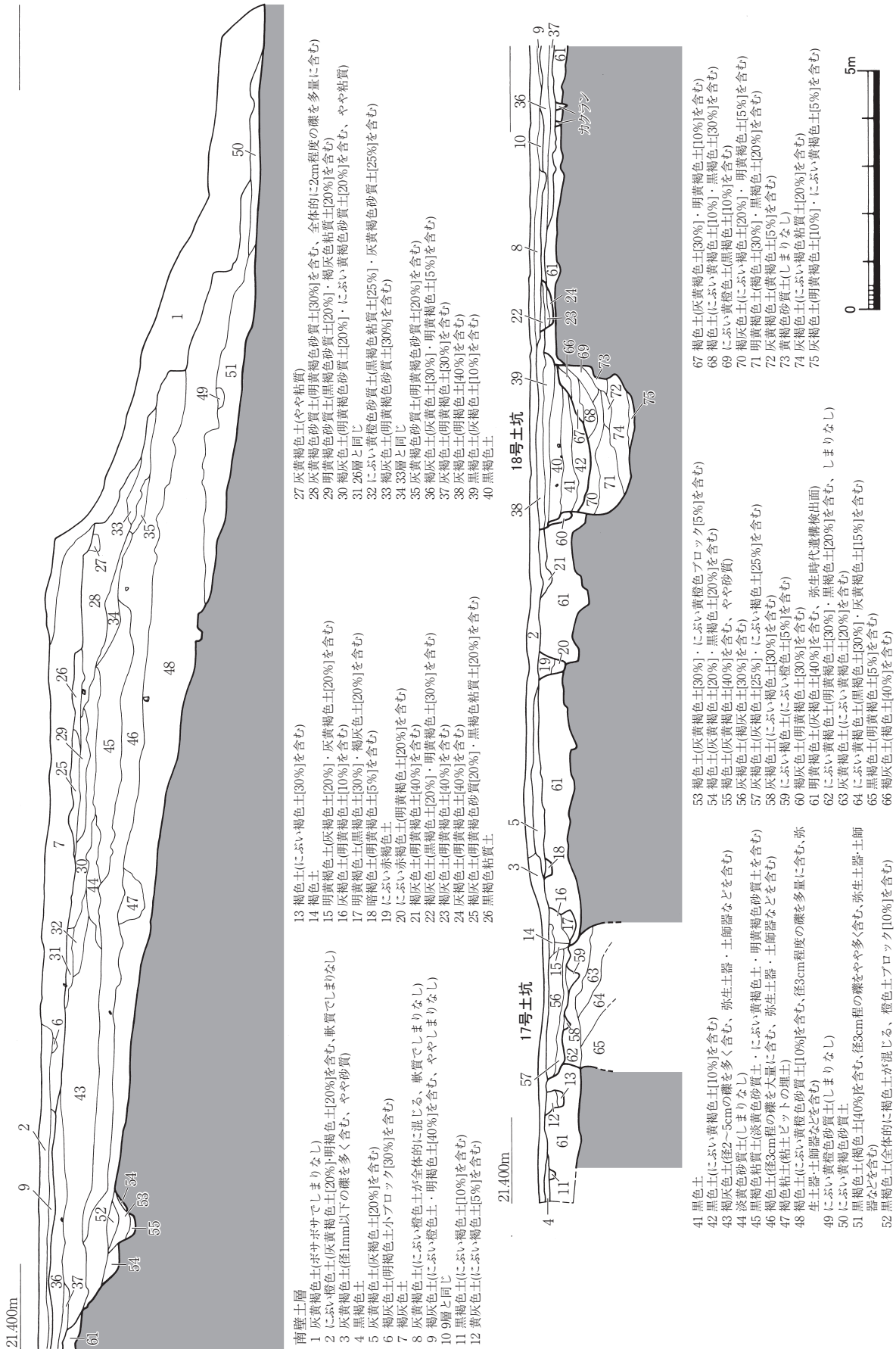
調査区のほぼ中央部に位置し、標高は20.6mを測る。長軸をN-64°-Eにとる。13号土坑を切り、1号溝状遺構に切られる。長さは現状7.38mで、検出面の幅は最大57cm、下端の幅は最大37cmを測る。壁面はなだらかに立ち上がり、深さは最大19cmを測る。遺物は極少量で、明確な時期は不明である。

3号溝状遺構 (第33図、図版5)

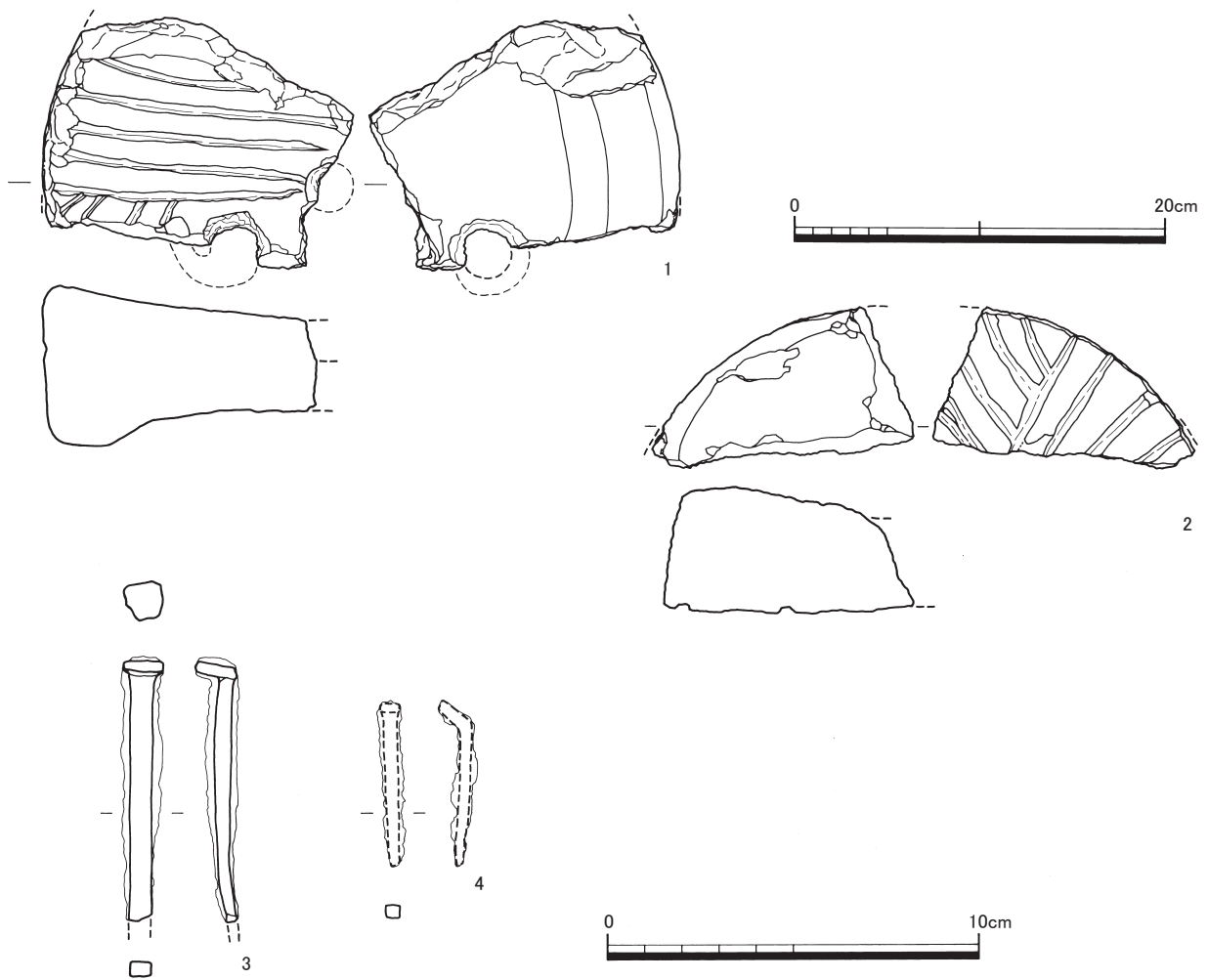
調査区の西部に位置し、標高は20.6mを測る。東側に弧を描くように延び、長さは現状4.94m、検出面の幅は最大62cm、下端の幅は最大52cmを測る。壁面はなだらかに立ち上がり、深さは最大11cmを測る。土師器鉢の小片が出土したが、図示していない。



第34図 6号土坑・1号溝状遺構・南壁土層中出土土器実測図 (S=1/4)



第35図 南壁土層断面図 (S=1/120)



第 36 図 出土石製品・鉄製品実測図 (1・2 は S=1/4、3・4 は S=1/2)

(3) 調査区西部盛土状遺構

調査区西部は発掘調査着手時にすでに一部削平を受けており、南壁の壁面観察により遺構の広がりや内容を確認した(第 35 図)。旧地形が平坦な東半では貯蔵穴(17・18 号土坑)が確認され、なだらかに地形が西側に傾斜する西半部分では、人為的な造成が確認された。この造成の時期については、弥生時代の遺構検出面である第 61 層を、第 43 層など中世の遺物を多く含む層が切っているため、中世に段階に行われたものと考えられる。

周辺は中世の吹上城の伝承地で、土塁状遺構も残存している。この盛土状遺構も同時期のものであれば、かなり広範囲に渡って造成が行われたこととなり、今後の周辺の調査が期待される。

出土遺物

土器 (第 34 図)

第 34 図 9 は土師器播鉢の小片で、内面に一部摩り目が残る。10 は土師器皿の小片で、復元底径 5.6 cm を測る。11 は磁器碗の小片で、復元高台部径 6.6 cm を測る。

石器 (第 36 図、図版 10)

第 36 図 2 は石臼で、大きさ 14.1 cm、厚さ 6.9 cm を測る。摺り目は幅 5 mm ~ 1 cm 程度で、中心から外側に向かうものと斜め方向のものがある。

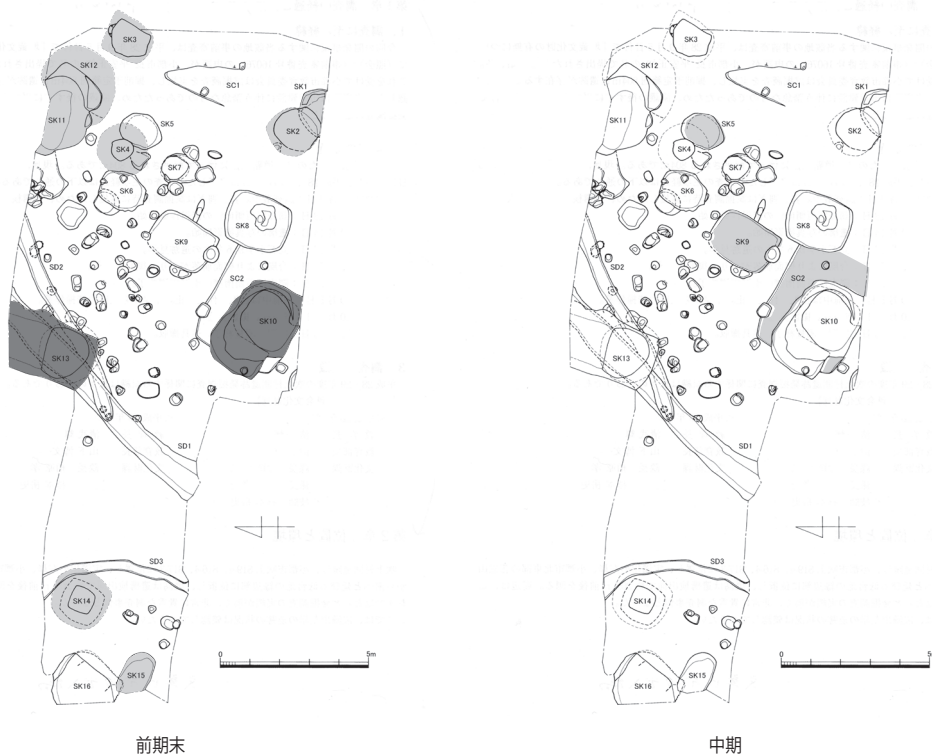
第4章 まとめ

今回の発掘調査では、これまで明らかにされていなかった吹上地区の弥生時代の集落の様相を把握することができた。検出した遺構は、住居跡2軒、土坑18基で、土坑のうち4基は大型の貯蔵穴、6基は中～小型のフラスコ型貯蔵穴である。各遺構の出土遺物量には多寡があるものの、時期は以下のとおりである。

時 期	住 居 跡	土 坑
弥生時代前期末		8基 (1～4・11・12・14・15号土坑)
弥生時代前期末～中期中頭		2基 (10・13号土坑)
弥生時代中期中頭	1軒 (2号住居跡)	2基 (5・9号土坑)

住居跡2軒はいずれも遺構の残存状況が悪く、時期は明確でない。ただし、いずれも中型の長方形住居になると考えられ、今回の調査区周辺には集落の主体となる大型円形住居の存在が想定される。貯蔵穴は、前述のように深さ1.5～3mを測る大型のものと、深さ1m程度で壁面が内傾する、いわゆるフラスコ型のものに分かれる。大型貯蔵穴からの出土遺物は、弥生時代前期末の土器を中心としながらも、弥生時代中期中頭（城ノ越式）古段階の土器形式を含み、やや後出する可能性が指摘できる。なお、中期中頭新段階になると浅い土坑が中心となり、5号土坑のような廃棄土坑も見られることから、集落は終焉に向かうものと考えられる。

この貯蔵穴の変遷について、まず弥生時代中期になると、比較的深さが浅い廃棄土坑等が中心となる状況は、三国丘陵の弥生集落と同様である。さらに今回の調査では、中型貯蔵穴から大型貯蔵穴へと変遷する可能性が指摘できた。三国丘陵の弥生集落では、集落活動の最初から大型の長方形貯蔵穴が築造される状況が把握できており、やや異なる集落構造を呈する可能性が指摘される。この違いは、ミガキを施す甕が多いなど土器の様相からも指摘でき、今後の調査・研究の進展が期待される。



第37図 弥生時代の遺構変遷図

吹上村遺跡 出土土器観察表

《弥生土器》

法量=口:口径 高:器高 底:底径 裾:裾部径 最胴:胴部最大径 天:天井部径 頂:頂部径 受:受部径

出土遺構	挿図番号	図版番号	器種	法量(復元値) cm	色調	胎土	焼成	成形・調整技法	備考
2号住居跡	6-1		甕		橙色	1~2mmの砂粒を多く含む	良好	口:ヨコナデ	Pi内出土
	2		壺		橙色	1~2mmの砂粒を大量に含む	良好		
1号土坑	3		甕	口:(39.8)	浅黄橙色	1~4mmの砂粒を多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:ナデ	口唇部下位に刻み目
	4		甕	口:(17.0)	外:にぶい黄褐色 内:灰黄褐色	1mm程度の砂粒を少量含む	良好	口:ヨコナデ 内:ナデ	外面~口縁部被熱
	5		甕		外:黒褐色 内:灰黄褐色	1~2mmの砂粒を多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:ナデ	
	6		甕	底:(7.9)	外:橙色 内:灰黄褐色	1~2mmの砂粒を多く含む	良好	外:ハケ 内:ナデ	
	7		壺		外:にぶい黄褐色 内:灰黄色	1mm程度の砂粒を少量含む	良好	外:紡キ、沈線による羽状文 内:紡キ	
	8		壺	底:6.4	外:暗灰黄色 内:にぶい黄褐色	1~2mmの砂粒を多く含む	良好	外:内:紡キ	
	2号土坑	9	6	甕	口:(19.95) 底:(5.9) 高:20.8	外:灰黄褐色 内:灰黄褐色~にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:指オサエ・工具ナデ
10			甕	口:(20.2)	外:橙色 内:にぶい黄褐色	1~2mmの砂粒を少量含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:ナデ	
11			甕	口:(28.8)	外:にぶい褐色 内:にぶい赤褐色	1~2mmの砂粒を多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:ナデ	外面にスス
12			甕	口:25.0	外:にぶい黄褐色~にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:指オサエ・工具ナデ	外面にスス
13			甕		外:にぶい赤褐色 内:にぶい褐色	1~2mmの砂粒を多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:ナデ	
14			壺	口:(15.0)	外・内:橙色	1~3mmの砂粒を多く含む	良好	外:紡キ 口:ヨコナデ 内:ナデ	
15			鉢	口:(23.4) 底:(6.6) 高:11.1	外:橙色 内:黄灰色	1~3mmの砂粒を多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:紡キ・ナデ	
16			蓋	天:(6.8)	外:明褐色 内:褐色	1~4mmの砂粒を多く含む	良好	外:紡キ・工具ナデ 天:ナデ 内:ナデ	天井部外面に黒斑
17			蓋	口:(24.6)	外:にぶい褐色 内:褐色	1~3mmの砂粒を多く含む	良好	外:紡キ 口:ヨコナデ 内:ナデ	口唇部に刻み目 外面~口縁部内側にスス
3号土坑	7-1		甕	口:(19.8)	外・内:明褐色	1~3mmの砂粒を多く含む	良好	外:ハケ・ナデ 口:ハケ後ヨコナデ	口唇部に刻み目 外面一部にスス
	2		甕	口:(17.2)	外:灰黄褐色 内:褐色	1~2mmの砂粒を多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:ナデ	口唇部に刻み目
	3		甕	底:(6.8)	外:にぶい褐色 内:褐灰色	1~3mmの砂粒を多く含む	良好	外:内:ナデ	
4号土坑	4		甕	口:(24.5) 底:(7.7) 高:22.8	外:にぶい黄褐色~にぶい褐色 内:にぶい褐色~にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒を多く含む	良好	外:ハケ後工具ナデ・ハケ後粗い紡キ 口:ヨコナデ 内:工具ナデ	口唇部・突帯に刻み目 外面にスス・内面にコゲ 内面上位に黒斑
	5	6	甕	口:19.9 底:6.2 高:18.9	外:にぶい褐色~にぶい褐色 内:にぶい褐色	4mm以下の砂粒を多く含む	良好	口:ヨコナデ 内:指オサエ・工具ナデ	内面にコゲ
	6		甕	口:(22.4)	外:にぶい赤褐色 内:褐色	1~3mmの砂粒を多く含む	良好	外:ハケ 口:ハケ後ヨコナデ	口唇部・突帯に刻み目 外面にスス
	7		甕	底:8.4	褐色	1~3mmの砂粒を多く含む	良好	外:ハケ 内:ナデ	底部外面赤変 外面胴部・底部内面にスス
	8		壺	口:(16.8)	外:明赤褐色 内:褐色	1~2mmの砂粒を多く含む	良好	外:紡キ 口:ヨコナデ 内:紡キ・ナデ	外面頸部・胴部上位に横方向の沈線計3条、その間に縦方向の沈線4本1組×3か所
	9		壺	底:(10.8) 最胴:(26.0)	外:にぶい褐色~にぶい褐色 内:にぶい褐色	2mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:紡キ 内:工具ナデ	胴部外面に黒斑
	10	6	蓋	頂:9.2 高:16.0 口:(34.9)	外:にぶい黄褐色~にぶい黄褐色 内:褐色~にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 天:ナデ 内:ハケ・紡キ	内面に黒斑・コゲ 外面にスス
5号土坑	9-1	6	甕	口:41.1 高:41.8	外:にぶい黄褐色~灰黄褐色 内:にぶい褐色~にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:工具ナデ	口縁部内面にコゲ 外面にスス
	2		甕	口:(28.7) 高:(33.9)	外:浅黄褐色~褐色 内:浅黄褐色~灰黄褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:工具ナデ	内面下部にコゲ 外面にスス 外面下位は二次焼成で赤変
	3	6	甕	口:24.8 底:7.5 高:25.3	外:にぶい褐色~灰黄褐色 内:にぶい褐色	2mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:工具ナデ	外面に黒斑 内面下半~底部にコゲ 外面上位にスス・黒斑
	4		甕	口:24.4	外:浅黄褐色~明褐灰色 内:浅黄褐色~にぶい黄色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:工具ナデ	外面にスス
	5	6	甕	口:28.9 底:8.2 高:31.3	外:灰白色~淡赤褐色 内:浅黄褐色~にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:工具ナデ	内面上半~外面上位に黒斑 外面にスス 外面下位は二次焼成で赤変
	6	6	甕	口:28.0 底:8.5 高:30.4	外:にぶい黄褐色~褐色 内:にぶい褐色~にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:工具ナデ	内面にコゲ 口縁部~外面にスス
5号土坑	10-1		甕	口:30.1 高:21.3	外:褐色~灰白色 内:淡褐色~淡赤褐色	4mm以下の砂粒を多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ	外面に黒斑 外面は二次焼成で赤変
	2		甕	口:(24.6)	外・内:灰白色~灰黄褐色	4mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:工具ナデ	外面に黒斑、内面にコゲ

出土遺構	挿図 番号	図版 番号	器種	法量(復元値) cm	色調	胎土	焼成	成形・調整技法	備考
5号土坑	10-3	6	甕	口:27.1 底:8.0 高:26.5	外:にぶい黄橙色~にぶい橙色 内:にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:工具ナデ	外面下半は二次焼成でやや赤変 内面にコゲ 口縁部~外面上半にスス
	4		甕	口:25.2	外:にぶい橙色~明褐色 内:橙色~灰黄褐色	3mm以下の砂粒を多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:工具ナデ	外面中位に黒斑 内面にコゲ 外面にスス
	5		甕	口:(24.1)	外:灰黄褐色~にぶい橙色 内:にぶい黄褐色~灰黄褐色	3mm以下の砂粒を多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:工具ナデ	外面中位は二次焼成で赤変 内面中位にコゲ 外面上位にスス
	6	6	甕	口:20.7 底:6.7 高:22.6	外:浅黄橙色~淡橙色 内:浅黄褐色~にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:工具ナデ	外面に黒斑 内面中位にコゲ 外面上半にスス 外面下位は二次焼成で赤変
	7	6	甕	口:20.5 底:7.1 高:23.8	外:にぶい黄褐色~にぶい橙色 内:淡黄色~にぶい黄褐色	4mm以下の砂粒を多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:工具ナデ	内面上位に黒斑 外面にスス 外面下位は二次焼成で赤変
	8	6	甕	口:(20.0) 底: 6.5 高:20.8	外:にぶい黄褐色~にぶい橙色 内:にぶい黄褐色~にぶい橙色	4mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:工具ナデ	内面底部に黒斑 内面中位にコゲ 口縁部~外面にスス
	9		甕		外:にぶい褐色~灰黄褐色 内:にぶい橙色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:工具ナデ	口唇部に刻み目 口縁部~外面にスス
5号土坑	11-1	6	壺	口:(20.0) 底:8.9 最胴:28.0 高:31.4	外:明赤褐色~橙色 内:明赤褐色~灰黄褐色	4mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:シキ 口:ヨコナデ 内:指オサエ・工具ナデ・シキ	黒色磨研土器 内面は黒変、傾いた状態で液体が溜まっていたか
	2		壺		外:浅黄色~灰黄褐色 内:にぶい黄褐色~灰黄褐色	4mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:シキ 口:ヨコナデ 内:工具ナデ後シキ	内外面に黒斑
	3	6	壺	最径:(26.5) 底:7.8	外:明褐色~浅黄褐色 内:浅黄褐色~灰黄褐色	4mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ後シキ 内:指オサエ・工具ナデ	黒色磨研土器
	4		鉢		外:にぶい黄褐色~灰黄色 内:橙色~にぶい橙色	2mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:ハケ	
	5	6	蓋	天:5.9 高:11.1 口:(21.9)	外:にぶい褐色~にぶい橙色 内:橙色~にぶい褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:ハケ・工具ナデ・ナデ	天井部に黒斑 口縁部~内部にスス
	6	6	支脚	頂:6.0 底:5.4 高:10.7	灰白色~淡橙色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ナデ・指オサエ	体部に穿孔 天頂部にモミ丘痕
	7	7	支脚	頂:6.1×5.4 底:6.1×5.7 高:10.9	にぶい黄褐色~浅黄褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ナデ・指オサエ	体部に穿孔
	8	7	支脚	底:4.2×3.3 高:12.5	にぶい橙色~にぶい赤褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ナデ・指オサエ	器表の残存は僅かのみ
7号土坑	12-1		甕		にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	口:ヨコナデ	口縁部にスス
	2		鉢		にぶい橙色	2mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	口:シキ	
8号土坑	3		甕		橙色	2mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:ナデ	
	4		甕		外:浅黄褐色 内:にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ナデ 口:ヨコナデ	口唇部下端に刻み目
9号土坑	5		甕		外:にぶい橙色~浅黄褐色 内:にぶい橙色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:工具ナデ	
	6		甕	底:(8.7)	外:にぶい橙色 内:橙色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 内:工具ナデ	
	7		甕	底:6.9	外:明褐色~にぶい橙色 内:にぶい褐色	4mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	内:ナデ	
	8		ミニチュア 甕	底:3.8	灰黄褐色~にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:工具ナデ・ナデ	
10号土坑	14-1	7	甕	口:39.5	外:橙色~にぶい褐色 内:黄褐色~橙色	4mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:工具ナデ	口唇部上下・突帯に刻み目 外面に黒斑 外面上半にスス
	2	7	甕	口:30.5 底:9.8 高:36.8	外:橙色~にぶい赤褐色 内:橙色~にぶい橙色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:工具ナデ後ナデ	口唇部上下・突帯に刻み目 内面下位にコゲ 外面にスス
	3		甕	口:29.7	外:にぶい褐色~浅黄褐色 内:橙色~灰褐色	4mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:工具ナデ	内面下半にコゲ 体部にスス
	4	7	甕	口:28.1 底:(6.9) 高:27.6	外:淡褐色~にぶい橙色 内:浅黄褐色~にぶい黄褐色	4mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:工具ナデ	内面中位~下位にコゲ 口縁部~外面上半にスス 外面下半は二次焼成で赤変
	5	7	甕	口:25.4 底:8.2 高:24.5	外:にぶい橙色~灰褐色 内:橙色~灰褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:工具ナデ	内面中位~下位にコゲ 外面にスス
	6		甕		外:橙色~にぶい橙色 内:橙色~にぶい橙色	6mm以下の砂粒を多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ	外面中位に黒斑・スス
	7		甕	口:(22.5)	外:にぶい橙色~灰褐色 内:にぶい橙色~にぶい褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:工具ナデ	内面に黒斑・コゲ 外面にスス
10号土坑	15-1	7	甕	口:(29.8) 底:8.7 高:32.6	外:灰黄褐色~にぶい橙色 内:浅黄褐色~灰黄褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:工具ナデ	内面にコゲ 外面上位にスス 外面下半は二次焼成で赤変
	2		甕	口(25.7)	外:にぶい橙色~にぶい黄褐色 内:橙色~にぶい黄褐色	4mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:工具ナデ	内面中位にコゲ 口縁部~外面にスス
	3		甕	口(26.0)	外:にぶい橙色~淡赤褐色 内:にぶい黄褐色~にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ・工具ナデ 内:工具ナデ	口唇部下位・突帯に刻み目 内面にコゲ 外面にスス

出土遺構	挿図 番号	図版 番号	器種	法量(復元値) cm	色調	胎土	焼成	成形・調整技法	備考	
10号土坑	15-4		甕		外:にぶい橙色 内:にぶい橙色	2mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:ハケ・工具ナデ	口唇部下位・突帯に刻み目	
	5		甕		外:にぶい褐色～浅黄橙色 内:橙色～にぶい橙色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:工具ナデ	口唇部上下・突帯に刻み目	
	6	7	甕	口19.6 底7.8 高18.5	外:浅黄橙色～淡橙色 内:にぶい橙色	4mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:工具ナデ	内面中位にコゲ 外面にスス	
	7	7	甕	口(13.8) 底(5.8) 高15.5	外:にぶい黄褐色～灰黄褐色 内:にぶい黄褐色～にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:工具ナデ 口:ヨコナデ 内:工具ナデ	内面にコゲ 口縁部～外面上位にスス	
	8		甕		外:浅黄褐色～にぶい黄褐色 内:にぶい褐色	2mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	内:シキ		
	9		甕		外:浅黄褐色～にぶい橙色 内:にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:シキ・ヨコナデ	瓢形土器か 突帯に刻み目	
	10号土坑	16-1		甕	底7.5	外:にぶい橙色～にぶい黄褐色 内:灰黄褐色～明褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ	内面にコゲ 外面にスス
		2		甕	底6.8	外:にぶい橙色 内:にぶい褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ	外面下位に黒斑 内面にコゲ
		3		甕	底9.9	外:にぶい橙色～灰黄褐色 内:にぶい褐色	2mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 内:工具ナデ・ナデ	内面にコゲ
4			甕	底8.3	外:浅黄褐色～にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色～灰黄褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 内:工具ナデ後ナデ	外面に黒斑 内面にコゲ	
5			甕	底9.6	外:にぶい黄褐色 内:にぶい褐色～にぶい褐色	5mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 内:工具ナデ後ナデ		
6			甕	底(9.5)	外:浅黄褐色 内:褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ・シキ 内:シキ	外面に黒斑	
7			甕	底7.6	外:にぶい褐色～褐色 内:にぶい褐色	2mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 内:シキ		
8			甕	底9.0	外:褐色～にぶい褐色 内:褐色～灰白色	5mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ・シキ 内:工具ナデ・シキ		
9			甕	底8.8	外:にぶい褐色 内:にぶい褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ		
10			甕	底(6.3)	外:にぶい褐色 内:にぶい褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ後ナデ	外面に黒斑	
11			壺	口(21.4) 最胴(29.7) 高28.0	外:灰黄褐色～にぶい褐 内:にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ・シキ 口:ヨコナデ 内:ハケ・工具ナデ	黒色土器	
12			壺	口(26.0)	外:にぶい褐色 内:にぶい褐色	4mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:シキ 口:ヨコナデ 内:シキ	一部に黒色顔料	
13			壺	口(21.6)	外:にぶい褐色～灰褐色 内:にぶい褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ後シキ 口:ハケ 内:シキ		
14		7	壺	最胴28.5 底(10.0)	外:にぶい褐色 内:にぶい褐色	4mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ後シキ 内:シキ	外面に黒斑	
15		7	壺	最径(28.2) 底(10.2)	外:浅黄褐色～にぶい褐色 内:にぶい褐色～にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ・ハケ後シキ 内:シキ	一次焼成による破裂を修繕 した痕跡あり 外面に連弧文 外面上半に黒斑	
10号土坑	17-1		壺	口(41.2)	外:褐色 内:褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ後シキ 口:ヨコナデ 内:ハケ後シキ・工具ナデ	胴部内外面に黒斑	
	2		壺	底10.8	外:にぶい黄褐色 内:にぶい褐色～褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 内:シキ	内外面一部に黒色顔料	
	3		壺	底10.6	外:浅黄褐色～にぶい褐色 内:浅黄褐色	4mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ・シキ 内:シキ	内外面に黒斑	
	4		壺	底7.1	外:にぶい黄褐色～灰黄褐色 内:にぶい褐色	2mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ後シキ 内:シキ	外面に黒斑 内面に黒色顔料	
	5		鉢		外:にぶい褐色～にぶい黄褐色 内:にぶい褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:ハケ後シキ	外面に黒斑	
	6	7	ミニチュア 甕	口(9.3) 底4.5 高8.2	外:浅黄褐色 内:浅黄褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	内:工具ナデ	底部内外面に黒斑 底部裏面に爪痕	
	7		支脚	天(6.3) 底(6.2) 高13.5	にぶい黄褐色	5mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ナデ		
11号土坑	19-1	7	甕	口47.1 底12.3 高52.0	外:褐色～黄褐色 内:褐色	10mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケメロ:ヨコナデ 内:工具ナデ	口唇部・突帯に刻み目 外面中位に黒斑	
	2		甕	口(30.0)	外:褐色 内:にぶい黄褐色	5mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:工具ナデ	外面中位は二次焼成で赤変	
	3		甕	口27.9	外:にぶい黄褐色～にぶい黄褐色 内:明黄褐色～にぶい黄褐色	4mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ・ハケ 内:工具ナデ	外面中位に黒斑 内面下位にコゲ 外面にスス	
	4		甕	口25.8	外:にぶい褐色～灰褐色 内:にぶい褐色～にぶい褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 内:工具ナデ	外面に黒斑 内面にコゲ	
	5		甕	口(21.9)	外:灰褐色～浅黄褐色 内:浅黄褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:工具ナデ	口唇部・突帯に刻み目 外面に黒斑・スス	
	6		甕	口(20.8)	外:灰黄褐色～にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色～にぶい褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:工具ナデ	口唇部に刻み目 内面上下位にコゲ 外面にスス	
	7		甕	口(21.5)	外:にぶい褐色 内:褐色	4mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:工具ナデ	外面上位に黒斑	
	8		甕	口17.1	外:にぶい褐色～にぶい褐色 内:褐色～にぶい褐色	4mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:工具ナデ	外面に黒斑・スス 内面下半にコゲ	
11号土坑	20-1	8	甕	口26.1 底7.3 高29.8	外:灰黄褐色～褐色 内:褐色～にぶい褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:工具ナデ	外面上半に黒斑・スス	
	2		甕	口(23.0)	外:にぶい褐色～灰褐色 内:褐色～にぶい褐色	2mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:工具ナデ	外面にスス	
	3		甕		外:にぶい黄褐色～灰黄褐色 内:にぶい黄褐色	4mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ	外面にスス	
	4		甕		外:にぶい褐色 内:にぶい褐色	2mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ	外面上位に黒斑 外面にスス	

出土遺構	挿図 番号	図版 番号	器種	法量(復元値) cm	色調	胎土	焼成	成形・調整技法	備考
11号土坑	20-5		甕		外:にぶい黄橙色 内:にぶい黄橙色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ナテ 口:ヨコナテ 内:ナテ	口縁部下位に刻み目
	6		壺	口(17.3)	外:にぶい黄橙色～灰黄褐色 内:にぶい黄橙色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:シキ 口:ヨコナテ 内:シキ	外面は黒塗りか
	7		壺		外:にぶい橙色 内:にぶい橙色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ後一部シキ 口:ヨコナテ 内:シキ・工具ナテ	
	8		壺		外:浅黄色 内:浅黄色	5mm以下の砂粒をやや多く含む	良好		
	9		壺		外:浅黄褐色 内:淡黄色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好		外面に沈線1条、その下位に斜格子文
	10		蓋		外:にぶい橙色 内:橙色	2mm以下の砂粒をやや多く含む	良好		
	11		蓋		外:黄灰色 内:黄灰色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好		
	12	9	把手	厚1.5	橙色	2mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	手づくね	穿孔あり
13	9	把手	厚3.5	にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	手づくね		
12号土坑	21-1	8	甕	口(44.5) 底12.0 高29.8	外:にぶい褐色～灰褐色～灰白色 内:褐色～にぶい褐色	4mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナテ 内:工具ナテ	外面下半に黒斑
	2	8	甕	口(32.0) 底8.3 高33.0	外:にぶい黄褐色～浅黄褐色 内:にぶい黄褐色～浅黄色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナテ 内:工具ナテ	外面下半は赤変 外面上位に黒斑・スス 内面にコゲ
	3	8	甕	口(29.8) 底8.2 高31.0	外:にぶい褐色～にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色～灰黄褐色	4mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナテ 内:工具ナテ	底部に穿孔 底部裏面に線状の圧痕 外面に黒斑
	4		甕		外:にぶい黄褐色～灰黄褐色 内:にぶい黄褐色	5mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 内:工具ナテ	外面に黒斑・スス
	5	8	甕	口(25.4) 底7.0 高26.9	外:褐色～にぶい褐色 内:にぶい褐色	5mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ・一部シキ 口:ヨコナテ 内:工具ナテ	外面下半は赤変 外面上位に黒斑
	6	8	甕	口(29.2) 底(7.9) 高27.9	外:灰褐色～にぶい褐色 内:にぶい赤褐色～にぶい褐色	4mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナテ 内:工具ナテ 後一部シキ	内面に黒斑 外面にスス
12号土坑	22-1	8	甕	口25.0 底7.5 高24.2	外:褐色～浅黄褐色 内:褐色～浅黄褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナテ・ハケ 内:工具ナテ	外面下半は赤変 外面上半に黒斑・スス
	2	8	甕	口(25.4) 底7.0 高26.9	外:にぶい褐色～灰褐色 内:褐色～にぶい褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナテ 内:工具ナテ	体部外面にスス
	3	8	甕	口35.2 底9.4 高37.1	外:にぶい褐色～灰褐色 内:褐色～明赤褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ハケ 内:工具ナテ	外面下半は二次焼成で赤変 外面に黒斑・スス
	4	8	甕	口21.0 底6.9 高23.3	外:浅黄褐色～にぶい黄褐色 内:浅黄褐色～にぶい黄褐色	4mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナテ 内:工具ナテ	外面下位は二次焼成で赤変 内・外面に黒斑 外面にスス
	5		甕	口(26.7)	外:褐色～にぶい褐色 内:にぶい褐色～褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナテ 内:工具ナテ	外面に黒斑・スス 内面にコゲ
	6		甕	口24.1	外:にぶい褐色～褐色 内:褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナテ 内:工具ナテ・シキ	外面にスス 内面にコゲ
	7		甕	口25.6	外:明黄褐色～にぶい黄褐色 内:明黄褐色～にぶい褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナテ	外面にスス 内面にコゲ
12号土坑	23-1		甕	底8.0	外:にぶい黄褐色～にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 内:工具ナテ	外面は二次焼成で赤変
	2		甕		外:にぶい褐色～褐色 内:浅黄色～にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:シキ 口:ヨコナテ・ハケ 内:工具ナテ 後シキ	口唇部上下に刻み目
	3		壺	口(21.8) 底8.7 最胴(32.8) 高(31.8)	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色～灰黄褐色	5mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナテ	外面頸部に黒斑
	4	8	壺	底5.8 最胴(10.3)	外:にぶい黄褐色 内:にぶい褐色～褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ・ナテ 内:ナテ	外面底部に黒斑
	5		壺		外:にぶい褐色～明褐色 内:明赤褐色～にぶい褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:シキ 内:シキ	外面突帯下位に重弧文
	6	8	鉢	口(43.2) 底8.6 高31.9	外:にぶい褐色 内:褐色～灰褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 内:工具ナテ	内外面に黒斑
	7	8	蓋	天5.4 口20.9 高6.8	外:にぶい褐色～にぶい黄褐色 内:褐色～にぶい褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	天:ナテ 外:ハケ 口:ヨコナテ 内:ナテ	外面上位・口縁部内外に黒斑
13号土坑	25-1	8	甕	口(24.2) 底8.1 高26.2	外:灰黄褐色～にぶい黄褐色 内:にぶい褐色～灰黄褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:工具ナテ 口:ヨコナテ 内:工具ナテ	外面下位に黒斑 外面にスス
	2		甕	口(26.6)	外:にぶい褐色 内:にぶい褐色	1mm以下の砂粒を少量含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナテ 内:ナテ	外面にコゲ
	3		甕	口(20.6)	外:褐色 内:褐色	2mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナテ 内:ナテ	
	4		甕	底7.4	外:赤褐色 内:にぶい褐色	1mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ	
	5		甕	底9.7	外:褐色 内:褐色	2mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 内:ナテ	
	6		甕	底11.6	外:にぶい褐色 内:褐色	2mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ	
	7		甕	底5.8	外:にぶい黄色 内:にぶい褐色	1mm以下の砂粒を少量含む	良好	外:ハケ後ナテ 内:ナテ	外面にコゲ
	8		壺	口(17.2)	外:にぶい褐色 内:にぶい褐色	1mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:シキ・ハケ 口:ヨコナテ 内:シキ	
	9		壺	口(18.2)	外:にぶい黄褐色 内:にぶい褐色	2mm以下の砂粒を少量含む	良好	外:ハケ後ナテ 口:ヨコナテ 内:シキ	
	10		壺	口(16.8)	外:にぶい黄褐色 内:浅黄褐色	2mm以下の砂粒を少量含む	良好	内・外:ナテ	

出土遺構	挿図 番号	図版 番号	器種	法量(復元値) cm	色調	胎土	焼成	成形・調整技法	備考
13号土坑	25-11		壺	最胴(30.8)	外:にぶい黄橙色 内:にぶい橙色	1mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	内・外:ナデ	
	12		壺		外:にぶい褐色 内:にぶい橙色	1mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:シキ・ナデ 内:ナデ	
	13		壺	底(5.6)	外:浅黄色 内:灰黄色	2mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:シキ 内:ナデ	
	14		壺	底(4.8)	外:にぶい橙色 内:橙色	1mm以下の砂粒を少量含む	良好	内・外:ナデ	外面にスス
13号土坑	26-1		蓋	天6.2	外:にぶい橙色～にぶい褐色 内:橙色～灰褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	天:ナデ 外:ハケ 内:ハケ・工具ナデ	外面に黒斑 内面にスス
	2		蓋	口(20.0)	外:褐灰色 内:にぶい黄橙色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ナデ 口:ヨコナデ 内:ナデ	内外面全体にスス
	3	8	器台	天6.3 裾6.6 高14.6	外:にぶい黄橙色 内:橙色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 内:ナデ・工具ナデ	2条の沈線を施す
	4		器台	裾(8.2)	外:にぶい黄橙色 内:にぶい褐色	2mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 内:ナデ	
	5		器台	裾(8.1)	外:にぶい黄橙色 内:にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒を少量含む	良好	外:内:ナデ	
13号土坑 下層	6		甕	口(31.3)	外:にぶい橙色～にぶい褐色 内:橙色～灰褐色	4mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:ハケ・シキ	口唇部・突帯に刻み目 内面にコゲ 外面にスス
	7		甕	口(21.6)	外:にぶい黄橙色～灰黄褐色 内:にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:シキ 口:ヨコナデ 内:工具ナデ後一部シキ	内外面に黒斑 外面にスス
14号土坑	8		甕		外:にぶい黄褐色 内:橙色	1mm以下の砂粒を少量含む	良好	外:ハケ後ナデ 内:ナデ	
	9		壺	口(25.0) 最胴(34.0)	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色～灰黄褐色	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:シキ 内:シキ・ナデ	黒色磨研土器
15号土坑	10		甕	口(20.6)	外:灰黄褐色 内:にぶい褐色	1mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:工具ナデ	外面にコゲ
	11		甕	底6.8	外:褐色 内:褐色	2mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 内:ナデ	外面にコゲ
	12		壺	口(12.2)	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	1mm以下の砂粒を少量含む	良好	外:シキ 口:ヨコナデ 内:シキ	
16号土坑	13		甕	底8.9	外:にぶい黄褐色 内:明赤褐色	1mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ後ナデ 内:ナデ	外面にコゲ
18号土坑	14		甕	口(20.4)	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色～灰黄褐色	2mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:ナデ	内面にスス
P1	15		甕		外:にぶい黄褐色 内:灰黄褐色	1mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:ナデ	
P11	16		壺		外:にぶい褐色 内:にぶい褐色	2mm以下の砂粒を少量含む	良好	口:ヨコナデ	口唇部上下に刻み目
P38	17		壺		外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	1mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ	

《中世の土器》

出土遺構	挿図 番号	図版 番号	器種	法量(復元値) cm	色調	胎土	焼成	成形・調整技法	備考
6号土坑	34-1		土師器 坏		にぶい黄褐色	1mm以下の砂粒をわずかに含む	良好	口:回転ナデ	
	2		土師器 皿	高1.0	にぶい褐色	1mm以下の砂粒をわずかに含む	良好	底:回転糸切り 口:回転ナデ 内:ナデ	
	3		瓦質土器 碗		灰白色	1mm以下の砂粒をわずかに含む	良好	口:回転ナデ	
	4		磁器 皿		灰白色	精緻	堅緻		施釉
1号溝状遺 構	5	10	土師器 土鍋		外:黒褐色 内:にぶい黄褐色	1mm以下の砂粒を少量含む	良好	外:ナデ 口:ヨコナデ 内:ハケ	外面全体にコゲ
	6	10	土師器 鉢		外:褐灰色 内:にぶい黄褐色	1mm以下の砂粒を少量含む	良好	外:ハケ後ナデ 口:ヨコナデ 内:ナデ	外面全体にスス
	7	10	土師器 鉢	底(13.2)	外:にぶい黄褐色 内:灰黄褐色	1mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ後ナデ 内:ナデ	
	8	10	磁器 碗		外:灰白色 内:灰オリーブ色	精緻	堅緻		施釉
南壁土層 中	9		土師器 甕		外:にぶい黄褐色 内:灰黄褐色	1mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:ハケ 口:ヨコナデ 内:ナデ	
	10		土師器 皿	底(5.6)	外:にぶい褐色 内:にぶい黄褐色	1mm以下の砂粒を少量含む	良好	底:糸切り 外・内:ヨコナデ	
	11		磁器 碗	底(6.6)	灰白色	精緻	堅緻		施釉

吹上村囲遺跡 出土石器観察表

挿図番号	図版番号	出土遺構	器種	石材	l(長さ)	w(幅)	t(厚さ)	g(重量)	備考
					cm	cm	cm	g	
27-1	9②	SK13	打製石鏃(平基式)	黒色緻密質安山岩	3.6	1.2	0.5	2.3	
2	9②	SK10	太形蛤刃石斧	玄武岩	(7.0)	(6.9)	4.6	363	刃部・基部とも欠損。
3		SK3	太形蛤刃石斧	玄武岩	(9.1)	(5.0)	(1.2)	61.5	小片。
4	9②	P1	小型方柱状石斧	玄武岩	(6.0)	1.6	(1.4)	17.6	刃部ほぼ欠損。
5	9②	P2	扁平片刃石斧	層灰岩	3.6	2.1	1.0	14.2	
6		SK5	投弾	安山岩	5.5	3.2	3.0	66.0	
7		SK10	投弾	安山岩	4.3	3.0	2.0	34.8	
8			投弾	安山岩	4.0	3.1	2.3	40.0	
9			投弾	砂岩	4.2	3.3	1.8	29.6	
10			投弾	砂岩	3.9	3.6	2.3	38.2	
11			投弾	安山岩	5.0	3.3	2.8	61.5	
12		SK13	投弾	砂岩	4.5	3.7	1.9	35.0	
13			投弾	安山岩	4.9	3.1	2.1	42.0	
14		P2	投弾	安山岩	4.6	3.4	2.7	59.0	
28-1	9③	SK12	磨石	安山岩	11.0	(7.6)	6.5	812	上下2面が使用面。側面に敲打痕。
2	9③	SK9	磨石	安山岩	(7.4)	(5.8)	5.7	234	上下2面が使用面。
3	9③	表探	磨石	安山岩	6.3	7.3	4.3	279	完形。
4	9③	SK10	磨石	安山岩	8.9	(6.2)	6.0	478	使用面1面。
5	9③	SK2	磨石	安山岩	(6.8)	(9.4)	5.6	447	使用面1面。
6		P29	台石	安山岩	(5.8)	13.5	6.8	729	ほぼ全面が使用面。
7		SK10	台石	砂岩	17.2	15.3	6.3	1731	
29-1		P3	砥石	砂岩	20.8	11.9	10.2	2970	使用面4面。
2		SK2	砥石	砂岩	26.5	15.6	13.2	4880	使用面2面。
3	9④	SK12	砥石	砂岩	14.0	11.6	6.3	1317	上下2面が使用面。
4	9④	SK1	砥石	砂岩	8.6	10.8	6.0	659	上面が使用面。
5	9④	SK12	砥石	砂岩	16.2	10.6	7.4	1242	使用面3面。
30-1	9④	SK10	砥石	砂岩	11.7	5.6	8.6	451	上面が使用面。
2		SD1	砥石	砂岩	9.5	8.4	4.2	332	中世の資料か。
3		SK15	砥石	砂岩	8.1	5.0	6.3	191	
4		SD1	砥石	砂岩	9.4	7.4	1.5	96.5	使用面3面。中世の資料か。
5		SK11	砥石	石英斑岩	(6.3)	(5.9)	(2.0)	61.0	使用面1面。
6	9④	SK10	砥石	砂岩	7.0	3.6	3.0	88.0	使用面3面。
7		SK5	砥石	砂岩	(5.5)	(4.8)	3.8	119	使用面3面。
8	9④	SK12	砥石	砂岩	(7.8)	(5.7)	(3.5)	173	使用面1面。
9	9④	SK13	砥石	砂岩	(5.7)	(4.4)	2.9	89.0	使用面3面。
10			砥石	砂岩	(3.9)	(4.9)	(3.4)	72.5	使用面2面。
36-1	10③		SD1	石臼	凝灰岩	(16.8)	(13.5)	8.8	2290
2	10③		石臼	凝灰岩	(14.1)	(8.9)	6.9	888	

吹上村囲遺跡 出土土製品観察表

挿図番号	図版番号	出土遺構	器種	l(長さ)	w(幅)	t(厚さ)	g(重量)	色調	胎土	焼成	備考
				cm	cm	cm	g				
31-1	10①	SK10	紡錘車	4.4	4.6	1.4	36.2	灰黄褐色～褐灰色	1mm程度の砂粒を多く含む	良好	丁寧なナデ調整。
2	10①		紡錘車	4.0	4.0	1.6	27.6	にぶい黄橙色～灰黄褐色	1mm程度の砂粒をわずかに含む	良好	丁寧なナデ調整。
3	10①	SK14	紡錘車	3.2	3.1	1.4	14.2	橙色	1mm程度の砂粒をわずかに含む	良好	
4	10①	P1	投弾	3.0	2.0	1.8	9.3	明赤褐色	精良	良好	
5	10①	SK5	円盤	5.6	5.0	0.9	27.0	表: 黒色～灰黄褐色 裏: 灰黄褐色	3mm以下の砂粒を含む	良好	土器転用。
6	10①		円盤	4.4	4.3	1.0	20.0	表: 灰黄色 裏: 灰黄色～明赤褐色	1mmの砂粒を多量に含む。	良好	土器転用。
7	10①		円盤	3.9	4.1	1.0	13.4	表: 褐灰色～灰黄褐色 裏: にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒を含む	良好	土器転用。



①遺跡遠景 (西から)



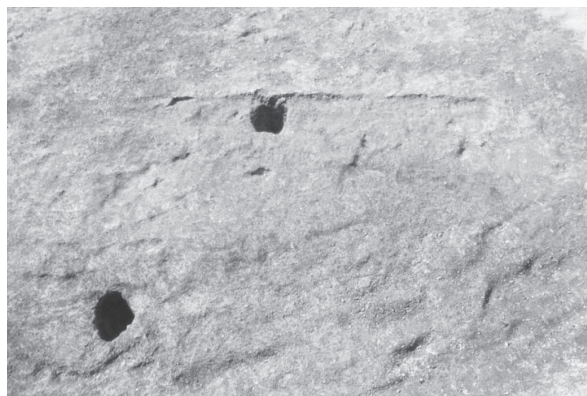
②遺跡近景 (上空から)



①遺跡近景(北西から)



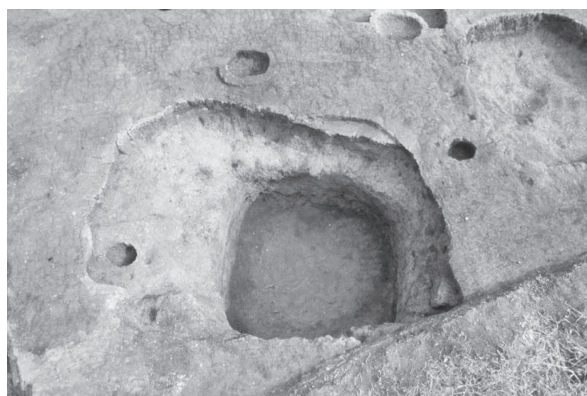
②遺跡近景(南西から)



① 1号住居跡完掘(東から)



⑤ 3号土坑完掘(西から)



② 2号住居跡・10号土坑完掘(南西から)



⑥ 4号土坑完掘(南東から)



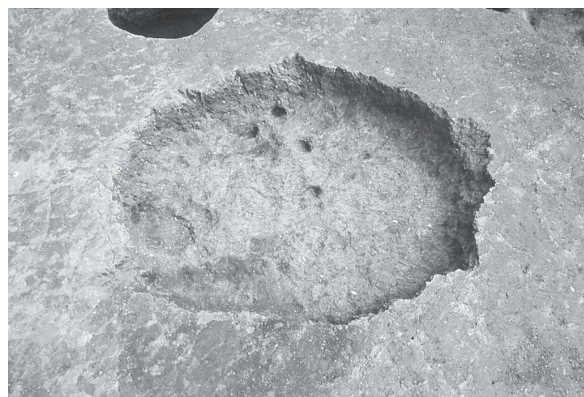
③ 1号土坑完掘(北から)



⑦ 5号土坑遺物出土状況(南東から)

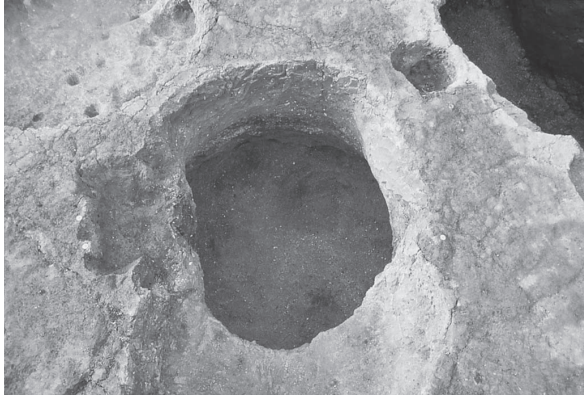


④ 2号土坑完掘(南東から)



⑧ 6号土坑完掘(西から)

図版 4



① 7号土坑完掘(南から)



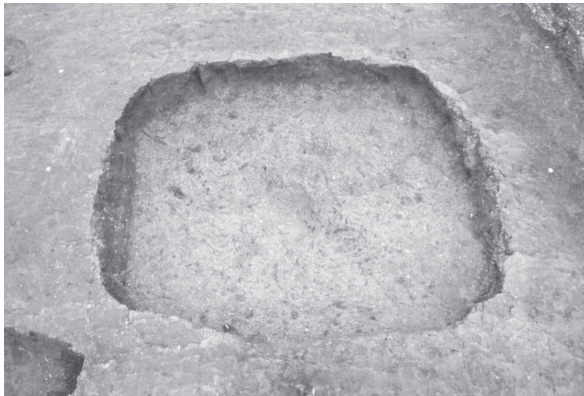
⑤ 9号土坑完掘(北西から)



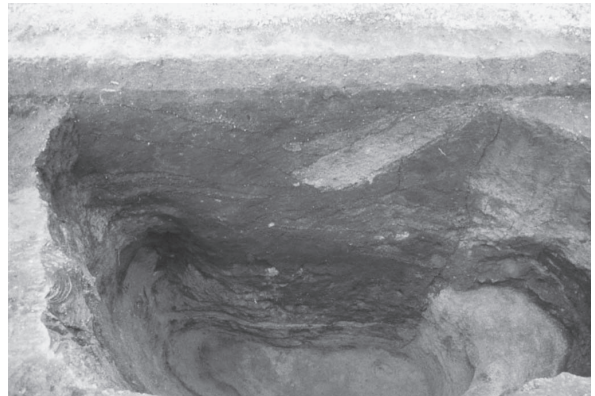
② 8号土坑土層(西から)



⑥ 10号土坑土層(南西から)



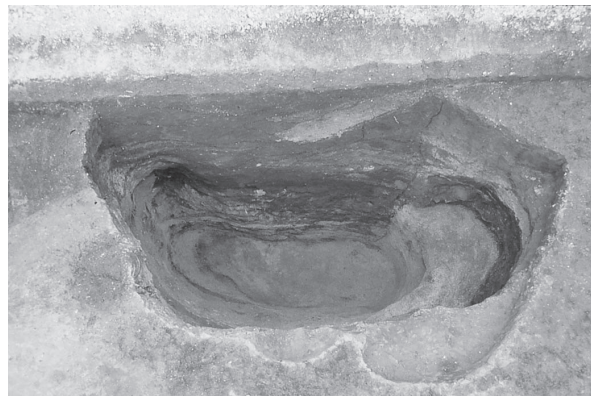
③ 8号土坑完掘(西から)



⑦ 11号土坑土層(南から)



④ 9号土坑土層(北西から)



⑧ 11・12号土坑完掘(南から)



① 13号土坑完掘(西から)



⑤ 1・2号溝状遺構完掘(南西から)



② 14号土坑完掘(東から)



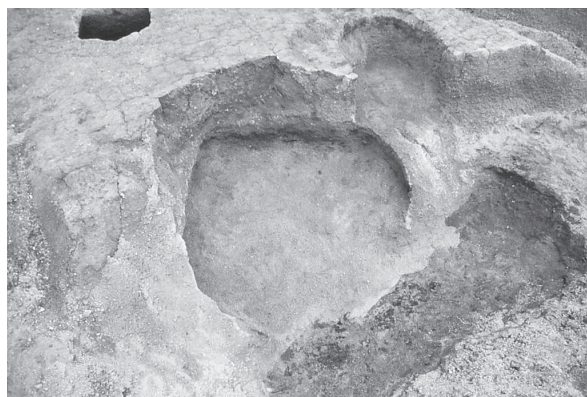
⑥ 3号溝状遺構完掘(北から)



③ 15号土坑完掘(北から)



⑦ 調査区西部土層断面(北東から)



④ 16号土坑完掘(北西から)



⑧ 調査風景

图版 6





11-7



14-5



16-14



11-8



15-1



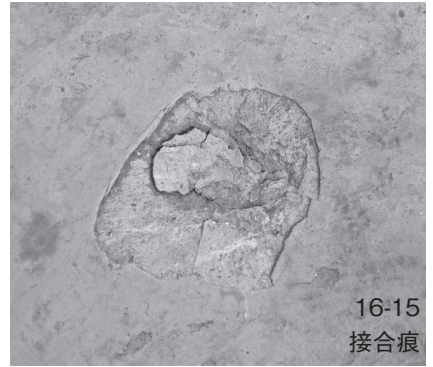
16-15



14-1



15-6



16-15
接合痕



14-2



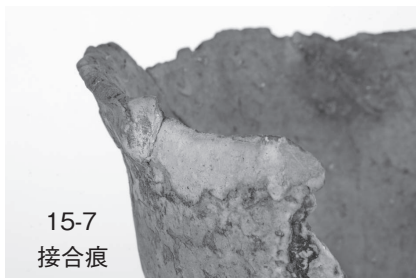
15-7



17-6



14-4



15-7
接合痕

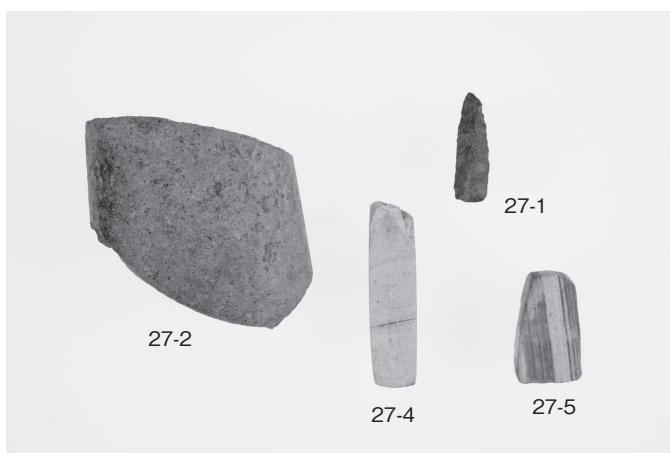


19-1

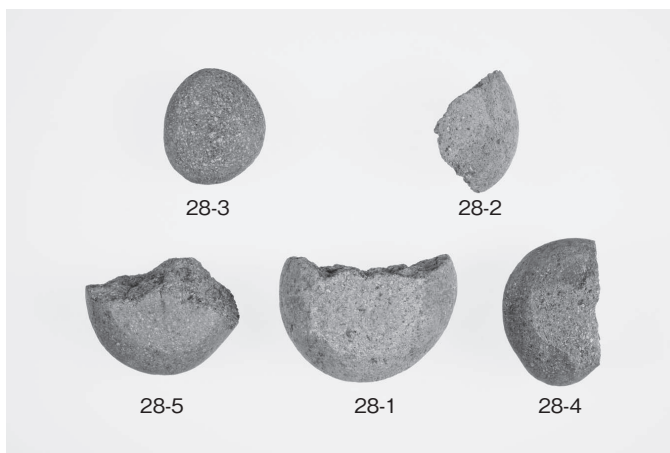




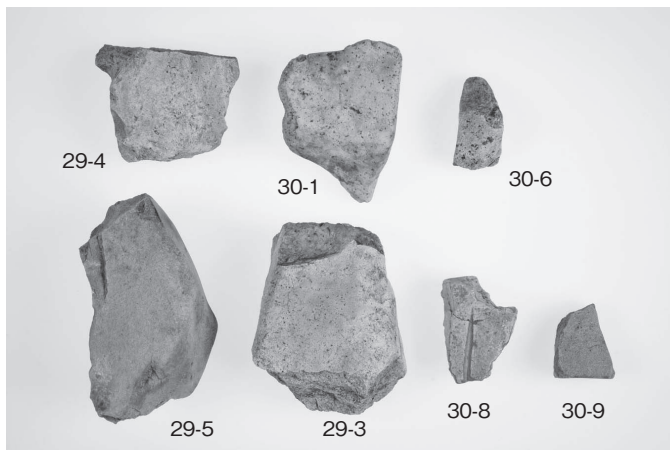
①出土土器把手部分



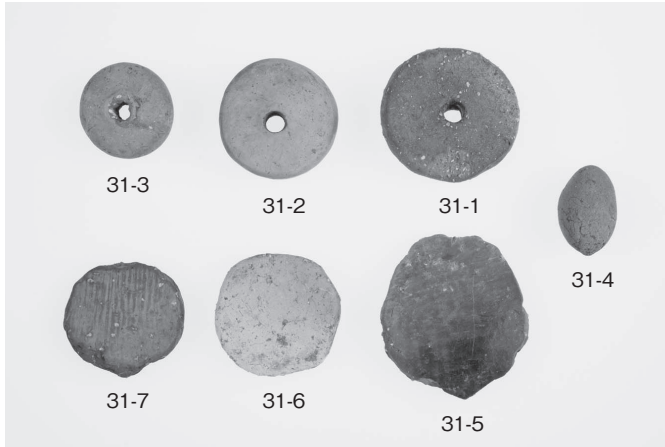
②出土石鏃・石斧類



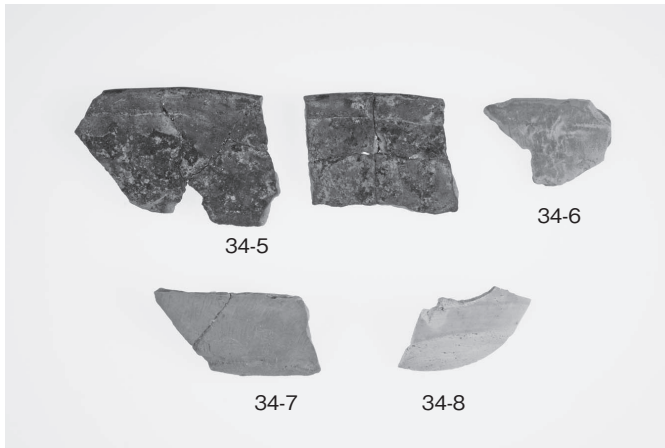
③出土磨石



④出土砥石類



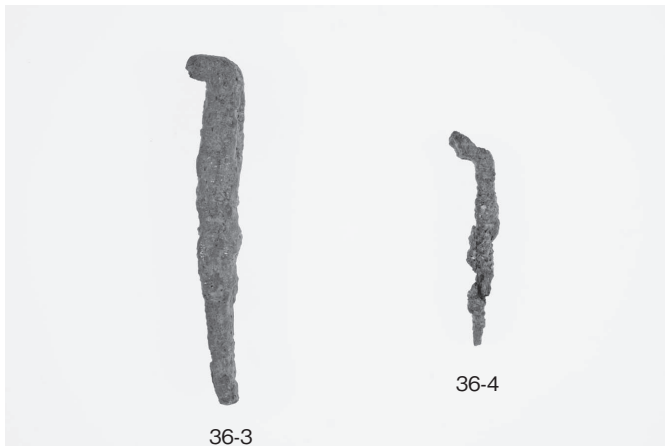
①出土紡錘車・土製円盤・投弾



②中世の遺物（土師器・磁器）



③中世の遺物（石臼）



④出土鉄製品

報 告 書 抄 録

ふりがな	ふきあげむらがこいいせき							
書名	吹上村囲遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	小郡市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第319集							
編著者名	杉本岳史							
編集機関	小郡市教育委員会							
所在地	〒838-0198 福岡県小郡市小郡 255-1 ☎0942-72-2111							
発刊年月日	2018年3月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ふきあげむらがこい 吹上村囲 いせき 遺跡	ふくおかけん 福岡県 おごおりし 小郡市 ふきあげ 吹上	40216		33° 24' 44"	130° 34' 50"	2016.9.8 ～ 2016.10.13	804 m ²	道路建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
吹上村囲 遺跡	集落	弥生時代 中世		住居跡2軒、土坑17基 土坑1基、溝状遺構3条、 盛土状遺構		弥生土器 石器・土製品 土師器・磁器 石器・鉄製品		
要約	<p>調査地周辺はこれまでほとんど発掘調査事例がなく、貴重な調査となった。遺跡の時代は弥生時代と中世で、弥生時代に関しては、宝満川右岸の三国丘陵上の弥生集落と比較しても遜色がない程の遺構密度と規模を有する。中世については、周辺は吹上城の推定地であり、今回の調査でも土坑や溝状遺構を確認した。さらに、調査区西端の自然段丘崖と考えられていた地形が、中世段階の造成に伴うものである可能性が指摘され、吹上城が大規模な造成を伴う城館であった可能性が指摘できる。</p>							

吹上村囲遺跡

小郡市文化財調査報告書

第319集

2018年3月30日

発行 小郡市教育委員会
福岡県小郡市小郡 255-1

印刷 片山印刷（有）
福岡県小郡市祇園 1-8-15

